月二十八日ノ內閣令ヲ見ヨ」合議体ハ元ト僧侶カ一大寺院ニ同居シタルニ由來スルモノニシテ大僧正ニ附屬スルモノハ「ホーフスチフテルレギアートスチフテル」(高等ト稱シ僧正ニ附屬スルモノハ「コンシストリウム」(會議ト言フ○(七)法王令ハ式ニ依リ(大ナル印璽ヲ鈐シテ)製シタル法王ノ命令ヲ言フ是レ書翰ノ体裁ヲ有スル教書ニ異ナレリ○(八)法律トシテ發布セラレタル(契約トシテ行ハレルニアラス)法王令ノ現行スルモノヲ列擧スレハ(甲)舊州ニ在テハ「デ、サルーテ、アニマールム」(千八百二十一年八月二十三日ノ內閣令(乙)ハノーフルニ在テハ「イムペンザ、ロマノールム」(千八百二十四年五月二十日ノ勅令(丙)瓦敦堡、巴丁及ヘッセンダールムスタットノ外ヘッセン、ナッソウ州及ホーヘンツオルレルン州ヲ包括スル所ノ上萊因教會州ニ在テハ「プロフヒダ、ゾレルスクエー及アト、ドミニチー、グレーギス、クストチヤム」、ナッソウ國(千八百十年十月九日ノ布令及クールヘッセン國(千八百二十九年八月三十一日ノ布令」僧官ノ任免及教會財產ノ管理ニ關シ國家ノ監督ヲ保センカ爲メ關係ノ諸國連帶シテ(千八百三十年一月三十日及千八百五十三年三月一日ヲ以テ共同布令ヲ發シタリ○(九)千八百四十三年七月三日ノ布令○(十)本書第二百九十五條ノ註文四十六及四十七ヲ見ヨ」普通法典ノ行ハレサル地方ニ於テモ亦同樣ノ原則ヲ遵奉ス○(十一)千八百七十五年六月二十日ノ法律○(十二)同上第一條乃至第四十六條第五十六條及第五十七條○(十三)同上第四十七條乃至第五十五條第五十八條及千八百七十六年六月七日ノ法律及同年九月二十九日ノ布令○(十四)千八百七十六年六月七日ノ法律及同年九月二十七日ノ布令○(十五)普通法典第二部第十一編第十五章(第九百三十九條乃至第千二十一條乃至第千六十九條)及第十八章(第千百六十條

乃至第千二百九條)ハ講社ノ事ヲ揭載セリ」少年教育及療病ヲ目的トスル寺院ノ外凡テ講社及新附諸州ニ在ル講社ハ千八百十年十月二十八日ノ布令ヲ以テ之ヲ廢シタリ○(十六)千八百七十五年五月三十一日ノ法律○(十七)千八百七十二年七月四日ノ帝國法律、同年七月五日ノ告示及千八百七十三年五月二十日ノ告示ヲ見ヨ「エーズイテン」ハ他ノ宗門及哲學ニ對シテ加督利基宗ヲ辨護スルニ於テ特ニ秀テタル一派ナルモ千七百七十四年羅馬法王ノ命ヲ以テ之ヲ禁シタリ然ルニ千八百十四年之カ再興ヲ許サルヽマテ他ノ名稱ヲ附シテ之ヲ維持シタリ○(十八)之ニ屬スルモノハ「レデムトリステン」(神聖救罪)「ラツアリステン」(教布教ヲ目的トス神意講社及神心耶蘇ノ婦人講社ノ意)育ル一講社ノ名チ見ヨ

第六章　新教々會(アフアンゲーリシエ、キールヒヘ)(十九)

第三百條(甲)要領　新教々會ノ組織ハ長老合議制ト僧正制トノ二ニ區別ス長老合議制ニ在テハ町村ノ選擧ヨリ成ル機關ニ教會ノ權力ヲ掌握セシメ僧正制ニ在テハ國王ヲ最上僧正トナシテ教會ノ權力ヲ之ニ委附スト雖モ國王其教會權力ノ施行ヲ宗門會議(トーリセン)ニ委任スルトキハ之ヲ宗門(コンシス)會議制ト稱ス

長老合議制ハ天使ノ創設シタル町村ニ模倣シタルモノナリ此制ハ國王ノ力ヲ藉リテ教門改革ヲ施行シタルニアラスシテ町村自己ノ力ヲ以テ之ヲ實行シタル地方ニ於テ自由ニ發達スルヲ得タル而已是レ殊ニ蘇格蘭ニ於テ盛リニ行ハレ而シテ其逃

亡者ノプハールツ、荷蘭及來因下流ノ地方ニ在ル者ヨリ設施セラレタリ

之ニ反シテ獨逸ノ諸邦殊ニ孛漏生國ニ於テハ君主自ラ進ミテ教門改革ヲ實行シタルカ爲メ新教々會ハ國家ト最親密ノ關係ヲ有シテ發達シタリ隨テ國家ノ監督ハ之ヲ別離スルニ至ラサリキ何トナレハ教會ニ對スル主權ト教會自己ノ權力トハ同時ニ君主ノ掌中ニ存シ教會ノ事務ハ大要國家ノ行政ト同視シタレハナリ（二十）

孛國君主ハルーテル派及改良派ノ施設ヲ制定スルノ權ヲ有シタルカ爲メ其舊州ニ於テ其派ノ信徒如何ニ拘ラス之ヲ合シテ共同ノ制規ヲ設ケシメタリ此共同ノ制規ハ實ニ將來孛國々教ノ發端トナレリ蓋シ其制規ヲ設ケタルハ兩派信仰ノ異別ハ宗門ノ禮式及宗門組合ノ權利ヲ施行スルニ毫モ障害ヲ爲サヽルモノト看做シタルニ原因セリ（二十一）

教會ト國家ノ關係ハ憲法制定ト同時ニ二樣ノ更革ヲ爲シタリ即チ第一ニ教會自己ノ事務ハ教會ニ委シテ自ラ管理セシメ（二十二）第二ニ教會ニ對スル國家ノ主權及教會自己ノ權力ハ憲法制定後モ依然君主ノ手ニ在ルト雖モ（君主ノ教會統治權）君主ハ此權ヲ施行スルニ當リ國家及教會ノ諸機關ノ參同ヲ要スヘキコトヽナレリ立法權ノ施行ニ要スル國會ノ參同ハ教會ニ適用スヘカラス行政ノ事ニ於テ必要トスル大臣ノ副署ニ在テモ亦同シ（二十三）之ニ反シテ國家ニ關係ナキ教會事務署及教會代議体ヲ

設ケ以テ右ノ參同ヲ爲サシメタリ

國教施行ノ地方ニ於テ前記ノ兩機關ヲ設置シタル以來一切ノ教會事務其機關ノ司掌スル所トナリ國家ハ唯之カ監督ヲ爲シ且ツ其事務國家ノ部域ニ抵觸スル場合ニ於テ其手ヲ下スニ止マレリ（二十四）教會法制ニ在テモ亦同シ其事項專ラ教會ノ部域ニ限局スル間ハ教會機關ニ於テ之ヲ定ム其事項若シ國家ノ部域ニ觸レルトキハ國家ノ法律ニ依ルニアラサレハ効力ヲ得ルコト能ハス例之ハ外ニ向テ教會ヲ代表スルカ如キ宗門保護主ニ係ル事件ノ如キ財產管理及教會費賦課ノ如キ凡ソ國家ノ監督若クハ教會ノ國家ニ對スル關係ヲ定ムルニ當テハ國家ノ法律ニ依ラサルヘカラス又教會ノ法律ハ國家ノ法律ト矛盾スルヲ許サス（二十五）

第三百一條（乙）教會事務署　孛國ノ舊九州ニ在テ新教々會上等會議ハ最上教會事務署（ゲネラル、シノダイル）議會ノ參同（フオールスクント）ヲ得テ國政ヲ代表シ並ニ國教ニ關スル一切ノ事務ヲ司掌ス（二十七）此上等會議ノ次ニ位スル各州（二十八）ノ宗門會議ハ同シク合議制ノ組織ニ成ルモ（二十九）其宗門會議ノ役員ニ屬スル僧徒總長（ケネラルスペルインテンデン）ハ州內僧徒ノ一身上ノ監督ヲ負擔ス（三十）新教宣教師ノ候補者試驗委員ハ宗門會議ニ隷屬ス（三十一）

新附ノ諸州ニ於テ文部大臣ニ隷屬スル宗門會議ハシユレースウヰヒ、ホルスタイン

州ニ對シテハキールニ、(三十二)カッセル縣ニ對シテハカッセル ニ、(三十三)フランクフールト、アムマインニ對シテハ其地ニウサスバーデン縣ノ爾餘ノ部分ニ對シテハウサスバーデンニ各、一アリハノーフル州ニ對シテハ新教ルーテル派ノ國教會議(三十四)ノ下ニ許多ノ地方宗門會議アリ其職權ハ假リニ舊來ノ儘ヲ存セリ(三十五)

僧徒(牧師及宣教師)ハ宗門會議ノ支配ヲ受ク僧徒中別ニ監察職(三十六)ヲ置キ一定區域內ノ僧徒ヲ監察セシム僧徒ノ權利義務ハ國ノ法律ヲ以テ確定セラレサル分ニ限リ(三十七)教會ノ規定スル所ニ依ル僧徒タル者ハ豫メ試驗ヲ受ケ(三十八)宣誓(三十九)ヲ爲シタル後、宗門會議(四十)ニ於テ之ヲ任命スルニ當リ町村ハ其推薦權ヲ有ス(四十一)其職務ハ教會法ヲ以テ詳カニ規定ス(四十二)婚姻式ノ施行ハ其職務ノ一トス(四十三)僧徒ノ懲戒ハ各州ノ宗門會議及上等會議ニ於テ司掌ス(四十四)僧徒ハ在職中(四十五)及離職後(四十六)俸給ヲ受ク

第三百二條(丙)　教會區及宗門代議ノ組織ハ宗門ノ教義ニ關係ナク唯宗門ニ屬スル自治權ノ外部ノ秩序及其機關ヲ整理スルモノナリ

舊州ニ於ル宗門組織ハ此旨趣ヲ以テ一定セラレタリ(四十七)即チ教會區ヲ代表スル爲メ並德義上ノ宗義ヲ擴布スル爲メ町村宗門代議會(西部諸州ニ於ルプレスビテリエン)ヲ設置ス其會ハ町村ノ僧徒ト町村ノ選舉ニ係ル議員四名乃至十二名ヨリ成リ僧

徒ヲ以テ議長トス人口五百(西部諸州ニ於テハ人口二百)及其以上ノ町村ニ於テハ重大ノ事件ハ町村代議會ニ附シテ之ヲ議定セシム小町村ニ於テハ町村總會其議定ヲ爲ス(四十八)教會大區內ニ在ル一切ノ教會區ハ郡宗門代議會ヲ組織シ毎年一回開會スルヲ例トス開會外ノ時ハ僧徒監察職ヲ議長トナシ總テ宣教ノ職ニ在ル僧徒及町村ノ選舉ニ係ル議員(僧徒ノ員數ニ倍スルヲ例トス西部諸州ニ於テハ僧徒ト同數ナリ)ヲ以テ組織シ毎年一回開會スルヲ例トス開會外ノ時ニ於テハ其會ノ職員全會ヲ代理ス又伯林ノ如ク數多ノ郡宗門代議會ヲ包括スル市府ニ於テハ聯合會ヲ開クヿアリ(四十九)一州內ノ新教々會ハ州宗門代議會ニ於テ代表スル州宗門代議會ハ郡宗門代議會ノ派遣員(其總員中三分一マテハ國王ノ勅選ナリ)及州立大學校ノ神學部員一名ヲ以テ組織ス此會ハ每三年ニ一回開會スルヲ例トス開會外ノ時ニ於テハ其會ノ職員全會ヲ代理ス(五十)舊九州ノ「エーフワンゲリシ」宗(ゲネラルズベルインデンデン)國教々會ハ國教代議會ニ於テ代表ス國教代議會ハ僧徒總監(ゲネラルズベルインデンデン)州宗門代議會ノ選定シタル議員百五十名國立大學校「エーフワンゲリシ」宗神學部ノ選舉シタル議員六名及國王ノ勅選ニ係ル議員三十名ヲ以テ組織ス其任期ハ六年間トス國教代議會ハ每六年ニ一回開會スルヲ例トス開會外ノ時ニ於テハ其職員全會ヲ代理ス此會ヨリ宗門參事會(ジンダールラート)ヲ生ス宗門參事會ハ國教ニ關スル事件ヲ議スル爲メ上等宗門會議(オーベルキールヒエンラート)ト共ニ每年一回開會ス(五十一)教會法ハ國教代議會若クハ(其施行ノ區域一州ノ外ニ出テサルトキハ)州宗門代議會ノ承認

ヲ經由シ並ニ國王ノ制可ヲ得テ始メテ効力ヲ有ス之ヲ公布スルニハ宗門法令全書ヲ以テス（五十二）

新附諸州中（五十三）シコレースウヰヒ、ホルスタイン州及宗門會議管轄區ウサスバーデンニ於テモ亦舊州ト略ホ同シキ組織ヲ有ス（五十四）即チ玆ニ宗門ノ事務ハ特ニ國家ノ監督ヲ受ルノ外擧ケテ宗門會議ニ委任ス而シテ其會議ハ上等宗門會議ノ存セサルニ由リ更ニ重大ノ職權ヲ有ス（五十五）ハノーフル州ニ於テ新教ルートル派ノ教會ニ係ル制度ハ同一ノ基礎ニ立ツモ大ニ牧師的ノ性質ヲ有ス就中其宗門代議會ニ於テ猶西部諸州ニ於ルカ如ク僧徒及俗人ヨリ出ル議員ノ數ヲ平等ニ定メタリ（五十六）此州ノ改革派教會ニ對シテハ現今教會區及宗門代議ノ制ヲ施行セントノ計畫中ヨリ（五十七）宗門會議管轄區カツセルニ於テ國王ノ教會ニ對スル權力甚タ廣大ナルモ之ヲ整理スルノ新組織未タ成ラスフランクフールト、アムマインニ於テモ亦尚舊教會制ヲ施行ス

（原註）（十九）新教（エフアンゲーリシエ）ナル語ハ千八百二十一年四月三日ノ教會法ニ掲載シタリ○（二十）普通法典第二部第十一編第十四條、十五條、二十條、三十二條、三十三條、三十九條乃至四十三條六十二條七十三條乃至八十三條八十六條乃至九十一條○（二十一）千八百十七年九月二十七日千八百三十年四月三十日及千八百三十四年二月二十八日ノ内閣令國教ノ統計ニ關シテハ千八百七十五年一月十一日ノ達ヲ見ヨ」新教ヲ奉スル人口ハ千三百五拾萬人ニシテ此外ニルートル派ノ信徒大約三百萬人、改革派ノ信徒大約五拾萬人アリ○（二十二）本書第二百九十一條○（二十三）本書第三十六條及三十八條○（二十四）千八百七十六年六月三日ノ法律第二十一條乃至二十八條」千八百七十六年九月九日及千八百七十七年九月五日ノ勅令並千八百七十七年九月十日ノ達ヲ見ヨ之ニ依リテ教會ノ組織ハ宗門會議制トナリ合併シタリ○（二十五）前記千八百七十六年ノ法律第十三條、十五條及十七條○（二十六）千八百五十年六月二十九日ノ勅令第二條○（二十七）同上勅令第一條及三條」千八百七十六年ノ法律第十九條、二十一條及千八百七十七年九月五日ノ勅令第一條及二條○（二十八）東西孛漏生ノ二州ニ對シテハキヨーニヒスプルヒニ一ノ宗門會議ヲ置クノミホーヘンツオルレルンハ萊因州ノ宗門會議ニ屬ス千八百五十二年一月七日ノ法律○（二十九）其組織ハ千八百十七年十月二十三日ノ訓令第一條、二條、十條乃至十五條ニ基因ス此宗門會議カ新教々會ノ事務廳タル所以ハ千八百廿五年十二月三十一日ノ内閣令乙第一乃至第七並千八百四十五年六月二十七日ノ勅令ニ基因ス○（三十）千八百二十九年五月十四日ノ訓令○（三十一）註文三十八及四十ヲ見ヨ○（三十二）千八百六十七年九月二十七日ノ勅令及千八百七十六年六月二十三日ノ法律第五條○（三十三）千八百六十七年六月十三日ノ勅令及千八百七十三年四月二十四日ノ勅令○（三十四）千八百六十六年四月十七日ノ勅令○（三十五）宗門會議ハハノーフル、スタードデ、ガツテルンドルフ、ボスナブリユク、アウリヒ、及ノルトホルンニ各々一アリ○（三十六）此ブローブスト監察職ハシユレースウ井ヒ、ホルスタイン州ニ於テハ管長ト稱シナツソウ州ニ於テハ部ダー

長ト言フ〇(三十七)本書第二百九十六條」東方諸州ニ關シテハ千八百七十六年六月三日ノ法律第二十三條七項ヲ、シュレースウ井ヒ、ボルスタイン州ニ關シテハ千八百七十八年四月六日ノ法律第三十一條六項ヲ見ヨ〇(三十八)普通法典第二部第十一編第六十一條、六、十二條及三百十九條、千八百十七年二月二十四日ノ告示」新附諸州及北獨逸聯邦ノ範圍中季國々教ノ管城內ニ於ル僧徒ノ試驗及任用ハ千八百七十年六月二十日ノ達ニ詳カナリハノフル州ニ對シテハ千八百六十八年五月四日ノ勅令アリ〇(三十九)新附諸州ニ關シテハ千八百六十七年一月二十二日ノ勅令、特ニハノーフルニ關シテハ千八百六十八年七月一日ノ勅令ヲ見ヨ〇(四十)宗門會議ノ管轄區カッセルニ關シテハ千八百七十四年七月二十二日ノ勅令ヲ見ヨ國家ノ需要アル爲メ學術上ノ試驗ト神學ノ試驗トヲ併施ス又試驗ニ關シテ特別ノ申告ヲ要ス何トナレハ教會事務廳ノ役員ハ國王ノ勅任スル者ナレハナリ〇(四十一)東方諸州郡制第三十二條、ライン、ウエストフアーレン州郡制第五十三條乃至第六十五條(第五十九條ハ千八百六十七年七月二十二日ノ勅令ニ依リ改定セリ)シュレースウ井ヒ、ボルスタイン州郡制第四十六條、ナツソウ州郡制第四十八條乃至五十五條ヲ見ヨハノーフルニ關シテハ千八百七十年十二月二十二日ノ法律第五條三項及千八百七十六年七月五日ノ附則ヲ見ヨ〇(四十二)ライン、ウエストフアーレン州郡制第六十六條乃至第百十六條〇(四十三)舊州ニ關シテハ千八百八十年七月廿七日ノ結婚條例ヲ見ヨハノーフルニ關シテハ千八百七十六年七月六日ノ法律ヲ見ヨ」手數料ノ廢止ニ關シテハ千八百七十五年六月十六日ノ法律ヲ見ヨ〇(四十四)普通法典第二部第十一編第五百三十八條、千八百二十二年四月十二日ノ內閣令及千八百三十年四月二十七日ノ內閣令」宗門會議管轄區カッセルニ關シテハ千八百七十三年九月二十七日ノ勅令ヲ見ヨ國家ノ協同ニ關シテハ本書第二百九十一條第二項ヲ見ヨ〇(四十五)ハノーフル州宣教師改良ニ關スル千八百七十六年七月四日ノ法律〇(四十六)舊州ノ僧官退職給ニ關スル千八百八十年三月十五日ノ法律及同年六月一日ノ勅令」千八百七十三年七月十六日發布ハノーフル州僧官退職條例及千八百七十六年二月二日ノ改定條例〇(四十七)舊州ニ行ハレル教會法左ノ如シ

(甲)ウエストフアーレン州及萊因州ニ在テハ千八百三十五年三月五日ノ教會法(千八百五十三年六月十三日ノ勅令及同年八月二十五日ノ達ヲ以テ追補シタリ)

(乙)東方七州ニ在テハ千八百七十三年九月十日ノ教會區及宗門代議制並千八百七十四年五月二十五日ノ法律

(丙)甲及乙ニ於テ記載シタル地方ニ在テ千八百七十六年一月二十日ノ國教代議會制並ニ千八百七十六年六月三日ノ法律

ホーヘンツオルレルンハ國教々會ニ屬スト雖モ新教ノ町村僅ニ三個所ニ過キサルヲ以テ代議會ノ制ヲ施行セス〇(四十八)千八百七十三年九月十日ノ教會區及宗門代議制第一條乃至四十八條並千八百七十四年五月二十五日ノ法律第一條乃至第五條〇(四十九)同上制第四十九條乃至五十七條及同上法律第二條乃至九條」其費用ニ關シテハ同上制第七十一條乃至七十四條並同上法律第十二條ヲ見ヨ〇(五十)同上制第五十八條乃至七十條並同上法律第十條、十一條十三條及十六條〇(五十一)國教代議會制第一條乃至四十條並同上法律第十四

條乃至二十一條〇(五十二)千八百七十三年九月十日ノ教會區及宗門代議制第六十五條三項並國教代議會制第六條乃至十條〇(五十三)シュレースウ井ヒ州ノ新教信徒ハ改革派ノ二町村ヲ除ク外都ヘテルートル派ニ屬スハノーフル州ニ於テモルートル派ヲ奉スル者最大部ヲ占ムル之ニ反シテヘッセン、ナッソウ州ニ於テハルートル派ト殆ト同數ナリ〇(五十四)在シュレースウ井ヒ、ホルスタイン州ルートル派ノ教會區及宗門代議會制ニ關スル千八百七十六年十一月四日ノ勅令並千八百七十八年四月六日ノ法律第一條乃至十二條、二十三條乃至二十八條及三十八條」〇(五十五)千八百七十四年十月九日ノ告示〇(五十七)千八百六月六日ノ法律第二十九條乃至三十七條〇(五十六)千八百七十四年十月九日ノ告示〇(五十七)千八百八十一年五月四日ノ勅令〇(五十八)千八百三十一年一月五日ノヘッセン國憲法第百三十四條

第七章　其他ノ宗門(五十九)

第三百三條　信仰及宗教ノ自由(六十)ヲ認許シタル以來國家ノ法律ハ爾餘ノ宗門ニ干渉スルコト甚タ希レナリ(六十一)

猶太(ユーデン)宗ニ對シテハ別段ノ制規アリ即チ猶太信徒ヲ合セテ代議會ヲ設ルニ當リ、其教會區ノ長及役員ヲ選舉スルニ當リ、並財產管理ニ關シテハ國家之ニ干涉ス(六十二)猶太宗(六十三)ヲ脫スルモノノ同時ニ其教會區ヲ脫スヘキ事ハ法律ニ於テ之ヲ許シタリ然レ𪜈脫宗者ハ既ニ支出シタル宗門費ヲ尙一時負擔セサルヘカラス(六十四)猶太信徒ノ救恤法ヲ別離スル事ハ既ニ之ヲ廢シ(六十五)其宣誓義務ハ法律ヲ以テ規定セリ(六十六)

(原註)(五十九)耶蘇宗門ノ協會ハ千八百七十五年ニ於テ大凡ソ三萬五千人ノ會員ヲ有シタリ猶太信徒ハ三拾三萬九千七百九十人ヲ以テ算ス(人口ノ一分三厘二毛)〇(六十)本書第二百八十九條〇(六十一)公會權ノ付與ニ關シテハ本書第二百八十一條第二ヲ見ヨ」二三ノ宗門ニ對シテハ單ニ罰則及教科ノ二件ニ限ルノミ本書第二百八十七年三月十一日ノ勅令及千八百三十六年十一月十九日ノ閣令〇(六十二)舊州ニ在テハ千八百四十七年七月二十三日ノ法律第三十五條乃至五十八條並權限法第百六十四條ヲ見ヨ〇(六十三)本書第二百八十九條第二ヲ見ヨ〇(六十四)千八百七十六年七月二十八日ノ法律〇(六十五)千八百七十年六月六日ノ帝國法律第六條及千八百七十一年三月八日ノ法律第十六條〇(六十六)千八百六十九年三月十五日ノ法律

○第二　教育

第一章　總論

第三百四條　教育ハ智識ノ開發ヲ媒介スルモノナリ國家ハ一個人ノ力ヲ以テ達スヘカラサル教育ノ基因ヲ造ラサルヘカラス又國家ニ於テ其人民ヲシテ國ニ對スル義務ヲ盡サシムルニ足ルマテ教育ヲ進ムルハ國家自己ノ爲メ直接ノ利益アルモノトス

教育制度ハ歷史上漸次發達シタリ中古時代ニ於テ教育ハ偏ニ教會ノ手ニ在リシカ十二世紀及十三世紀ニ於テ始メテ繁榮ノ市府ニ市府學校興リ以テ教會附屬ノ學校ト併行シタリ宗門改革ノ時ニ至リ學校ノ制大ニ其基礎ヲ廣メタリト雖モ三十年戰爭ノ爲メ阻障セラレテ未タ大ニ進歩スルヲ得サリキ眞ニ興隆ノ域ニ進ミタルハ全ク十八世紀ニ於テ賢明ナル君主カ大ニ學制ニ盡力シ且ツ世上一般ノ意向モ教育ノ事ニ注射シタル以來ノコトヽス(一)

孛國ニ於テハ曩時既ニ周密ナル教育ヲ布キ(二)許多ノ學校ヲ建設セリ而シテ其教育令ト云ヒ學校ト云ヒ皆政府ノ力ニ成リタルヲ以テ孛國ノ學制ハ都ヘテ官設ノ性質ヲ帶ヒタリ即チ公ケナル學校ハ直接間接ニ政府ノ設立物ニシテ其教師ハ悉ク官吏ノ資格ヲ有シタリ此點ハ普通法典ノ認ムル所ニシテ(三)其後憲法ノ制定ニ至リ此主義更ニ明確ニ認メラレタリ(四)但シ憲法中教育ニ關スル條則ハ新定教育令ノ發布ヲ俟チテ始メテ効力ヲ得ヘキモノナレハ其時マテハ唯一般ノ約束タルノミ(五)

私立學校ハ國家ノ監督ヲ受ク憲法ハ學校教師ノ資格ヲ規定スルノ外學科及學說ヲ不羈自由ノモノト宣言シタリ是亦新定教育令ノ發布アルマテハ舊法定ムル所ノ制限ニ依ラサルヘカラス今舊法ニ依ルニ凡ソ私立學校及教育舍ハ德義上及學力上ノ資格アル證明ヲ爲シ且ツ官立學校ノ不足スルトキニ限リ其設立ヲ許可ス家庭教師及幼童教育者ニ向テハ德義上ノ資格ヲ證明セシメ私立學校教師ニ向テハ其外ニ學力ノ證明ヲ求ム(六)

最高等ノ學務官ハ文部大臣トス(七)大學校ハ文部大臣ノ直轄ニシテ小學校、簡易實業學校及私立學校ハ縣廳ノ宗門教育部ノ管轄ナリ(八)高等學校及師範學校ハ州學務會議ノ管轄ナリ此會議ハ最初宗門會議ノ一部局ナリシモ今ハ各州ニ於テ合議制ノ獨立官署トナレリ其議長ハ州知事ナリ(九)縣廳內ノ學務參事ハ同時ニ州學務會議ノ僚員タリ(十)高等學校職員(十一)ノ候補ノ爲メ設置シタル學術試驗委員ハ州學務會議ニ隷屬ス州學務會議ハ其管轄ノ事務ヲ直接ニ處置スルニ縣廳ハ其學務ヲ處スルニ特別ノ機關ヲ使用ス即チ數多ノ町村ヲ包括スル一區ニ設置シタル郡學校視察官並ニ各個ノ町村ニ設置シタル町村學校視察官ハ縣廳ノ機關ナリ而シテ郡學校視察官ハ僧徒監察職及僧正管轄區內ノ部長ヲ以テ之ニ任スルヲ例トス該視察官ハ國家ノ委任ニ依リ事ヲ處スルノミ國家ハ何時ニテモ此委任ヲ解キ他人ヲ擧ケテ視察官ニ任シ並其視察區ヲ變改スルコトヲ得(十三)

學制ニ關スル一切ノ事件ハ千八百五十九年以來「學政中央雜誌」ニ載セテ公示ス其他ノ條規ハ小學校高等學校及至高ノ地位ニ立ツ大學校ニ對シテ各々殊別アリ故ニ各別ニ之ヲ述フヘシ此諸學校共有ノ目的ハ一般ノ智識ヲ進ムルニアルニ專門學

校ハ特別ノ科目ヲ教授スル所トス故ニ專門學校ハ行政ノ各部ニ於テ之ヲ述フヘシ

（十四）

（原註）（一）其最モ著明ナリシハフランケ氏ノ首唱シタル崇神學派及バゼドウ氏ノ興起シタル實學派ナリフランケ氏ハ前世紀ノ初メニ於テハルレ府ニ諸學校ヲ建設シ就中適任ノ教師ヲ養成シタリバゼドウ氏（千七百九十年死ス）ハ教育ヲ成ルヘクタケ自然的ニ施シ理會ヲ容易ニシ都ヘテ事實ヲ引援シテ成ルヘクタケ實用ニ應セシメントセリ此方向ニ進ミテ實効ヲ奏シタル者ハ實ニペスタロツヂ氏ナリ氏ノ教育法ハ同シク天年ノ現像ニ基ヒシタルモ其現像ニ因リ主トシテ學生ノ固有ノ精神力ヲ啟發振起スルヲ勉メタリ而シテ氏ハ特ニ貧人及窮困者ノ教育ニ盡力シタルニ由リ庶民教育ノ父トシテ尊崇セラレタリ（二）千五百七十三年及千七百十三年ノ教育令並千七百六十三年ノ全國學校規令（三）普通法典ハ第二部第十二編ニ於テ總則（第一條乃至十一條）ニ次キ小學校（第十二條乃至十三條）高等學校及中學校（第五十一條乃至六十六條）及大學校（第六十七條乃至百二十六條）ノ制規ヲ掲ク（四）憲法第二十條乃至二十三條小學校ニ關シテハ註文十五ヲ見ヨ（五）同上第二十六條及百十二條（六）普通法典第二部第十二編第三條乃至八條千八百三十四年六月十日ノ勅令及千八百三十九年十二月三十一日ノ內閣訓令踏舞、體操、及水泳ノ教授ハ品行不正ノ爲メ處刑セラレタル者ニ之ヲ禁スルノ外別ニ制限スル所ナシ千八百六十九年六月二十一日ノ營業條例第三十五條ヲ見ヨ其他ノ場合ニ於テ教育ハ營業條例ノ爲メ制限セラルヽコトナシトス同條例第六條ヲ見ヨ（七）本書第四十七條（八）本書第五十三

條（九）千八百十七年十月二十三日ノ法律第六條乃至八條、十條乃至十五條、千八百二十五年十二月三十一日ノ內閣令乙ノ一、九及千八百五十九年八月二十六日ノ勅令（十）千八百四十五年六月二十七日ノ勅令第七條（十一）千八百十七年十月二十三日ノ法律第十二條及千八百三十一年四月二十日ノ達（十二）普通法典第二部第十二編第十二條乃至十七條、四十七條及四十九條（十三）千八百七十二年三月十一日ノ學校監督法現今兼職トシテ郡學校視察官ニ在ル者ハ七百八ニシテ其內六百七十八ハ僧徒ナリ此外ニ特ニ任用セラレタル官吏百七十七名アリ官吏多數ヲ占ムルハ萊因州、ポンメルン州ニ於テハ僧徒ト官吏相半ハス其他ノ地方ニ於テハ總テ僧徒ノ視察官ヲ兼ル者多數ヲ占ム（十四）專門學校ハ文部大臣ニ隷屬スル工藝學校ニ至ルマテ都ヘテ主務大臣ノ管下ニアリ今之ヲ擧ケレハ兵學校（本書第九十七條）山林學校（第百二十條）建築學校（第二百七十七條）鑛山學校（第三百二十二條）農學校（第三百二十八條註文十一）職業學校（第三百五十五條）航海學校（第三百六十五條註文四十九）及產婆講習所（第二百七十三條）是レナリ

第二章　小學校

第三百五條（甲）本性及効用　小學校ニ關シテモ亦憲法ノ原則ハ教育令ノ發布アルマテ唯一般ノ豫約タルニ過キス（十五）故ニ小學校ノ制ハ今日ニ於テ尙舊法ニ依レリ（十六）舊法ノ基礎ハ普通就學義務ニアリ此義務ニ從ヒ全國ノ人民ハ其子ノ滿五年ニ達シタルトキヨリ他ニ相當ノ教育ヲ受ケシメサルトキハ之ヲ公ナル學校ニ入レ必要ノ

教育ヲ受ケシメサルヘカラス(十七)但シ就學ノ起止スル時期ハ州令ヲ以テ變例ヲ定メタルモノアリ普通就學義務ハ我獨國ヲシテ非常ニ開發進歩セシメ今日ノ强盛ヲ致サシメタル一大主因ナリ而シテ教育ノ爲此義務ヲ施行シタルハ實ニ獨逸ヲ以テ嚆矢トス(十八)

就學義務ヲ果サシムルニハ其施設及箇數共ニ實際ノ需要ニ應スルニ足ルノ學校ヲ備ヘサルヘカラス(十九)之ヲ備フルハ主トシテ政府ノ職務ニ屬ス然レ𪜈此ニ尚二個ノ機關アリテ國家ヲ補助ス其機關トハ何ソヤ曰ク教會及地方自治体是ナリ

教會カ學校ノ教育ニ參加スル所以ノモノハ宗教ヲ以テ普通教育ノ一要部トナスニアリ(二十)而シテ普通教育ハ全國畫一ナルヲ欲スルカ爲メ宗教ノ參加ヲ脫セシントスルモ脫スル能ハサルノ勢アリ隨テ憲法ニ於テ宗教組合ニ認許シタル宗門教育ノ支配(二十一)殊ニ宗門教育ニ僧徒ノ干與スル權ハ獨立ノ權利タラスシテ唯國家ノ委任ニ依リ國家ノ許可ヲ得テ之ヲ施行セルノミ(二十二)之ニ依リ學校ハ信教上ノ關係ヲ大ニ顧慮シ宗門ノ異ナルニ從ヒテ學校ヲ區別スルニ至レリ卽チ一學校ニ入ルヘキ生徒ハ擧ケテ同一ノ宗旨ヲ信奉スル者ナルカ或ハ其最大部ノ者同一ノ信徒ナルヲ例トス諸宗混同ノ學校(シムルタンシユーレ)ハ宗教ヲ除キ各學科ヲ教授スルニ毫モ宗門信仰ノ異同ヲ問ハス且ツ教師ヲ選擧スルニモ信教ノ如何ヲ問ハサルモノナレ𪜈政府之カ設立ヲ許可スル

ハ唯、他ニ充分ノ學校ヲ設立シ得サルトキ若クハ關係者ヨリ其設立ヲ希望シ同時ニ教育ノ改良ニ効力アルトキニ限レリ(二十三)其他同一宗門ノ學校ニ在テモ小數ノ異宗者ハ其町村費ヲ以テ別ニ我カ信奉スル宗門ノ教授ヲ受ルノ權利アリトス(二十四)又土地ノ需求ニ依リ猶太宗ノ學校ト雖𪜈公然之ヲ設立スルコトヲ得(二十五)

學校ノ爲メ國庫ヨリ支出スル資金ハ年々ニ增加スル勢アレ𪜈是レ元ト國家ノ補助タルニ過キス學校維持費ハ學校ノ財産(二十六)若クハ資金(二十七)ヲ以テスルモノヽ外地方自治体ヲ以テ本來ノ負擔者トス(二十八)自治体ハ此義務ヲ果スカ爲メ學校稅(二十九)ヲ賦課スルヿ而シテ其學校稅ハ學校ノ建物及器具費(三十)並ニ教員ノ俸給(三十一)ニ充ツ又此義務ハ行政區畫ノ町村又ハ特定ノ學校區ニ負ハシム普通法典ニ依レハ土地ノ家父ヲ義務者トスルカ故ニ(三十二)特定ノ學校區ヲ設クヘキモノトス現ニシコレースウサヒ、ホルスタイン及ハノーフルニ於テハ之ニ依ル(三十三)然レ𪜈土地ニ由リ殊ニ市町ニ於テハ州ノ規則及事實上ノ沿革ニ從ヒ學校ヲ行政區ノ負擔ト爲シタリ(三十四)是レヘッセン、ナツソー及ホーヘンツオルレルンニ於テ現ニ見ル所ナリ憲法ニ豫期シタル教育令ハ(三十五)行政區ニ基キ之ヲ制定スルコトナルヘシ

町村ハ學校維持ノ義務アルニ對シ其學務ニ參與スルノ權アリ是レ各個ノ學校ヲ代表スル學務委員ヲ設クル所以ナリ此委員ハ通常「シユール、ブホールステンテ」(三十六)ト

稱シ都府ノ學校ヲ代表スルモノニ在テハ「シュール、デプタチオン」ト言フ（三十七）學務委員カ學事ニ參與スルノ權ヲ表面上ノ事件（三十八）ノミニ制限スルノ制ハ今日ノ自治制原則ニ全ク矛盾スルモノヽ如シ（三十九）

第三百六條（乙）小學校ノ組織ハ行政規則ヲ以テ之ヲ細定ス（四十）其學科課程ハ宗教獨逸語（談話、讀書、習字）算術並幾何、圖畫、歷史、地理、博物學ノ初歩、其他男子ニ在テハ體操、女子ニ在テハ婦女手業トス此課程ハ兒童ノ年齡ニ從テ之ヲ三級ニ分配シ每週二十時間乃至三十時間之ヲ教授ス（四十一）教師ノ數ハ生徒ノ多寡ニ從テ之ヲ定ム一級一教師ノ學校ハ生徒八十名ヲ最高限ト定ム此ヨリ大數ノ生徒ハ二部ニ分チ教師一名ニテ教授スルコトヲ得ヘキモ（半日學校）然カモ通常ハ之ヲ二級ニ分チ且ツ若シ生徒ノ員數百二十名ヲ超ヘルトキハ之ヲ三級ニ分チ教師二名ヲシテ教授セシム教師三名以上ナルトキハ上級生徒ハ男女ニ由テ分別ス（四十二）教授室ハ兒童一人ニ付〇、六平方「メートル」以上ニ當ル場所ニシテ相當ノ裝置ナカルヘカラス（四十三）室內ノ高サハ三、一四「メートル」ナルヲ定規トス故ニ兒童一人一、八五立方「メートル」ノ場所ナカルヘカラス（四十四）

各人ニ缺クヘカラサル教育ヲ施ス所ノ小學校ノ外ニ高等小學校（初等實業學校、高等男兒學校、市學校、レクトラート」學校）ノ設ケアリ其學科ハ小學校ニ於ルト同一ナルモ

稍々高尚ノ目的ヲ有シ且ツ實際ノ需要ニ應シテ新國語ヲ交ヘ若クハ實業ノ準備ヲ教授ス此學校ハ五級以上ニ分チ各級生徒ノ定員ヲ五拾人以下トナシ其教師ハ此學校ニ必要トスル特別ノ學力ヲ有スル者ヲ擧ケテ各級ニ一人ツヽヲ配置ス（四十五）

教育規則ハ普通教育ノ課程及順序ヲ書定シ傍ラ社會百般ノ需要ト効用上ノ關係トニ應シ充分自由ノ伸縮ヲ爲シ得ルノ餘地ヲ存シタリ蓋シ其規則ハ普通教育制度ノ根底ヲ定メタルモノニシテ既ニ實際ニ於テ好結果ヲ現ハシタリ

小學校ノ補助トシテ進修學校（フオールドビルドングスシューン）アリ此校ハ普通教育ヲ鞏固ニナシ之ヲシテ一層實際ニ適セシメントスル者ナリ此主旨ニ依リ工業進修學校ト農業進修學校トノ別アリ就學義務ハ唯一定ノ條件ヲ以テ工業進修學校ニ之ヲ用ヒルコトアルノミ（四十六）進修學校ニ對シテ國家ハ其大則ヲ規定シ（四十七）補助ヲ與ヘテ其設立ヲ容易ナラシムルノミ」

第三百七條（丙）小學校教師ハ師範學校ニ於テ養成ス師範學校ニ入ルニハ試驗ヲ經サルヘカラス往時ハ此試驗ニ應スルノ準備ヲ私學校ニ於テ爲シタレ𪜈教師ニ缺乏ヲ告ケタルカ爲メ輓近十年間ニ豫備校ヲ設立シ二級ヲ置ケリ（四十九）

師範學校ノ修業年限ハ三年ニシテ三級ニ分別ス（五十）其卒業生ヲ小學校教師、高等小學校教師又ハ其校長ニ任用セントスルトキハ各々特別ノ試驗ヲ施行セサルヘカラス（五十一）其任用及任免ノ認許ハ縣廳ニ於テ之ヲ爲ス（五十二）憲法ハ町村ノ參同ヲ期シタレ

尤(五十三)現今此參同ハ別段ノ規定ニ依テ行ハレルノミ(五十四)

學校教師ハ官吏ノ權利義務ヲ有ス(五十五)又其職權上ヨリ學生懲戒權ヲ有ス(五十六)兵役及戰時召集ニ關シテ學校教師ハ特典ヲ享有ス(五十七)其職務上ノ収入ニ對シ地租、家屋稅(五十八)郡稅及町村稅(五十九)ヲ免除セラレ且ツ參審及陪審ノ職ヲ務ムルヲ要セス(六十)憲法ハ學校教師ノ爲メ土地相應ノ確タル収入ヲ擔保シタリ(六十一)憲法ノ精神ニ從ヒ一定ノ最下額ヲ設ケ既ニ諸地方ニ於テ其収入ノ改定ニ着手シタリ(六十二)然レ尤各地方偏輕偏重ノ弊ナカラシムルニハ永遠ノ爲メ一定ノ原則アルヲ要ス此原則ヲ定ムルニ當リ最困難ナル點ハ各地方其事情ヲ異ニスルト各町村其負擔力ヲ殊ニスルトニアリ就中甚タ緊要ナル年功加俸及恩給ニ關シテ目下一般ノ規定ヲ缺クト雖モ實際ニ於テハ普通法典ノ條規ニ從ヒ俸給ノ三分一ヲ恩給トシテ給與ス(六十三)教師ノ遺族ニ死去者ノ俸給三月分ヲ付與スル事ハ州令ヲ以テ之ヲ施行スルノミ(六十四)之ニ反シテ寡婦孤兒扶助法ハ一般ニ行ハレ其年額貳百五拾「マルク」以下ト定マレリ此扶助料ニ充ツヘキ資金ハ教師及町村ノ出金ヨリ成リ必要ノ場合ニ於テハ國庫ヨリ之ヲ補助ス扶助料金庫ハ縣廳ニ於テ其關係者ノ組織シタル役員及役員ノ選擧シタル評議人ノ參同ヲ得テ之ヲ管理ス(六十五)

(原註)(十五)憲法第二十一條、二十三條乃至二十五條(二三ノ原則ハ註文二十一、二十三、二十七、三十五、三十八、五十三、六十一ニ記載ス(十六)普州ニ於テハ普通法典第二部第十一編第十二條乃至五十三條ノ外州法トシテ左ノ規定ヲ施行ス即チ學齡生州ニ在テハ千八百四十五年十二月十一日ノ學校規則殊ニ其第三十八條乃至七十二條」ノイホールボムメルン州ニ在テハ千八百三十一年八月二十九日ノ學校規令」新附諸州ニ行ハレル教育令ハシュレースウ分ヒ、ホルスタン州ニ於テ千八百十四年八月二十四日ノ學校令トス」ノノーフル州ニ於テ千八百四十五年五月二十六日ノ小學校令及千八百五十六年八月二日ノ附則トス」ナッソウ州ニ於テ千八百十七年五月二十四日ノ學校令トス(十七)普通法典第二部第十二編第四十三條乃至四十七條及四十八條」製造場ニ於テ執業スル小兒ノ通學ニ關シテハ本書第三百五十三條ヲ見ヨ就學ヲ怠ラシメタル者ノ罰ハ警察上ノ強制法ニ依ラス刑法ニ依テ之ヲ處スヘキ事ハ千八百六十三年三月十四日ノ權限爭議裁判所ノ判決ニ詳カナリ獨逸各邦ハ(巴威里亞ヲ除キ)相約シテ各人ノ現住地ニ就キ小兒ノ就學義務ヲ果サシム千八百七十六年十一月十三日ノ達ヲ見ヨ(十八)其結果ハ毎年徵集スル兵役義務者ノ統計ニ由テ之ヲ知ルヘシ兵役義務者中文字ヲ書シ及讀ミ得サル者ノ數ハ年々減少シ千八百七十五年ニハ全國人口百人中尚二人三分七厘ニ當リシカ千八百八十年ニハ百人中僅ニ一人五分九厘ニ當ルノミ此平均數ヲ超ヘル地方ハ東孛漏生州(百人中七人、〇二)西孛漏生州(百人中八人、七五)ポーセン州(百人中九人、九一)オツペルン縣(百人中四人、三三)エルサスロートリンゲン州(百人中二人、二四)ナリ英國ハ未タ小學教育法ヲ有セスシテ國ヨリ補助スル

私立學校ヲ有スルノミ佛國ニ於テ教育ハ三段ニ區別シ(小學教育、進修教育、專門教育)各別ニ組織ス然レヒ千八百五十年ニ發布シタル小學校令ハ未タ充分ニ實施セラレス墺國ニ於テ千八百六十九年ニ發布シタル教育令モ亦然リ(十九)千八百七十九年ニ於テ小學校ノ個數ハ五萬八千教師ノ總數四萬人、女教師ノ總數壹萬七千人ナリキ(二十)此ニ依リ孛國ノ學校ハ荷蘭ニ於テ千八百六年以來實行シタルカ如キ無宗旨ノ學校タラス(二十一)憲法第二十四條第二項(二十二)千八百七十六年二月十八日ノ達)(二十三)普通法典ハ信仰ノ異同ヲ問ハス(第二部第十二編第十條十一條及三十條)千八百二十一年十月四日ノ內閣令ハ諸同ノ學校ヲ擴尿シタリ其後ノ規令(千八百二十九年三月二十三日ノ內閣令及千八百三十八年十月二十八日ノ孛國々會決議)ハ一定ノ條件ヲ以テ諸宗混同ノ學校ヲ許シタリ憲法第二十四條第一項ハ信仰上ノ關係ヲ成ルヘク顧慮スヘシト命シタリ」諸宗混同ノ學校ハ(千八百七十九年)四百四十二ケ所アリテ即チ學校總數ノ百分一、一五ニ當レリ西孛蒲生州、ボーゼン州、ガツベルン縣及ジュツセル縣ニ於テハ此學校他州ニ於ルヨリモ多シトスダンチヒ、ボーゼン、ブラムベルヒ、ラチボール、レオブシュツツ、オーラウ、キヨーニヒ、ズヒユツテ、クレフエルト及シントヨハンノ諸府ニ於テハ其學校總ヘテ諸宗混同ナリ(二十四)千八百七十三年九月十一日ノ達(二十五)千八百四十七年七月二十三日ノ法律第六十條乃至六十七條(二十六)學校所有地ノ負擔解除ニ關シテハ本書第三百三十一條第三ヲ見ヨ其散在スル土地ノ分配ニ關シテハ本書第三百三十條(註文二十三)ヲ見ヨ(二十七)學校費ヲ規定スルノ權ハ縣廳ニ屬スヲ千八百十七年十月二十三日ノ訓令「憲法第二十五條第

三項ニ於テ約シタル如ク學校費ヲ廢除スレハ學校ノ收入ヲ減シ彼ノ年々ニ增嵩スル經費ノ支辨ニ苦ムヘシ(二十八)千八百三十三年ニ於テ全國小學校ノ經費ハ七千七百五拾萬「マルク」ニシテ之ヲ人口ニ配當スレハ一人ニ付三「マルク」ノ割合ナリ其內百分ノ三ハ學校財產ノ所得百分ノ十四、七ハ學校費、百分ノ七十五ハ町村ノ負擔百分ノ七、三ハ國庫ノ補助ハ年々ニ增加スルノ勢アリ千八百八十一年ヲ以テ支辨シタリ町村ノ負擔及國庫ノ補助ハ四千九百五拾萬「マルク」ニ上レリ此外教師ノ養成費トシテ度ノ豫算ニ於テ國庫ノ補助ハ年々ニ增加スルノ勢アリ千八百八十一年國庫ヨリ支出スル金ハ五百萬「マルク」ナリ(二十九)學校稅ハ千八百三十六年六月十九日ノ內閣令ニ依リ其徵收ニ强制法ヲ用ヒルコトヲ得又倒產ニ於テ特權ヲ有ス倒產條例第五十四條第三項」(三十)註文四十三ヲ見ヨ(三十一)本書第三百七條ヲ見ヨ(三十二)普通法典第二部第十二編第二十九條「學校區ハ一ノ公會ヲ成ス其境界ハ縣廳ニ於テ之ヲ定ム千八百十七年十月二十三日ノ訓令第十八條及權限法第七十五條(三十三)註文十六ニ記載シタル法律ヲ比較セヨ(三十四)孛漏生州學校規則(註文十六)第三十八條乃至四十二條及千八百四十五年七月二十三日ノ萊因州學校規則第八十六條ヲ見ヨ行政區ハ監督廳ノ許可ヲ受ケテ學校費ノ負擔ヲ學校區ニ賦課スルコトヲ得千八百六十五年十二月三十日ノ達(三十五)憲法第二十五條第一項(三十六)舊州ニ對シテハ普通法典第二部第十二編第十二條乃至十四條及千八百十二年十月二十八日ノ訓令「學校區ヲ代理スル職權ニ關シテハ千八百六十三年八月二十二日ノ達」ノノーフルニ對シテハ千八百四十八年十月十四日ノ法律第二十六條乃至二十八條(三十七)特別ノ學務委員ヲ置キ學校ニ關スル技術上ノ視察ヲ爲サシムル

事ハ東方諸州ニ於テ之ヲ見ルノミ本書第七十四條ノ註文八十九ヲ見ヨ○(三十八)憲法第二十四條第三項○(三十九)學校事務ヲ地方自治制ニ入ルヘキ事ニ關シテハ本書ノ著者カ述ヘタル行政組織改革論(千八百七十一年伯林刊行)八十一葉乃至八十九葉ヲ見ヨ○(四十)是レ千八百七十二年十月十五日ヲ以テ發布セラレタル小學校、豫備校及師範學校ノ五種規則ヲ參考セヨ○(四十一)千八百七十二年十月十五日ノ達及千八百七十六年二月十五日ノ第一規則第二乃至第三十八○(四十二)同上第一乃至第七○(四十三)同上第八乃至第十一○(四十四)千八百七十二年一月二十日ノ規則「學校建築ニ關シテハ千八百七十二年五月三十日ノ達ヲ見ヨ建築官吏ノ參與ニ關シテハ千八百八十一年一月二十日ノ達ヲ見ヨ○(四十五)千八百七十二年十月十五日ノ第二規則○(四十六)本書第三百五十三條ヲ見ヨサツクセン、ガルデンブルヒ、アンハルト、南獨逸及奧地利ノ諸國ニ於テハ就學義務ノ行ハレル地ヲ多シトス○(四十七)工業進修學校ニ關シテハ千八百七十四年六月十七日ノ達及千八百七十六年二月二日ノ達ヲ見ヨ○(四十八)千八百七十二年十月十五日ノ第三規則○(四十九)千八百七十二年五月二十七日ノ達「現今百拾ノ師範學校(女子師範學校八ケ所)三十一ノ豫備校アリ○(五十)教科及教則ニ關シテハ千八百七十二年十月十五日ノ第四規則ヲ見ヨ○(五十一)普通法典第二部第十二編第二十四條二十五條及試驗規則千八百七十二年十月十五日ノ第五規則○(五十二)千八百十七年十月二十三日ノ訓令第十八條甲「宣誓ニ關シテハ千八百七十三年十月六日ノ達ヲ見ヨ○(五十三)憲法第二十四條第三項○(五十四)普通法典第二部第十二編第二十二條及第二十三條ハ任用ヲ裁判廳ニ委托シタリ○(五十五)本書第六十條乃至七十條並ニ三百四條

○(五十六)普典「普通法典以下同シ」二ノ十二「第二部第十二編五十條乃至五十三條及千八百二十五年五月十四日ノ內閣令第四乃至第六○(五十七)本書第八十二條及八十四條○(五十八)註文六十○(五十九)本書第七十二條第四○六十本書第百八十條及百七十九條○(六十一)憲法第二十五條第二項」町村ノ新教師採用義務ニ關シテハ普典二ノ十二第三十九條乃至四十二條ヲ見ヨ○(六十二)基礎ハ縣廳ノ監督權ニアリ千八百十七年十月二十三日ノ訓令第十八條戍職務上ノ收入ヲ確定スル原則ニ關シテハ千八百六十七年二月七日ノ達ヲ見ヨ○(六十三)普典二ノ十二第二十八條及二ノ十一第五百二十九條「恩給ノ賜與ハ公認ヲ得タリ千八百五十八年六月二十三日ノ權限裁判所告示「師範學校、美術學校及高等小學校ノ教師ニ關シテハ註文七十四ヲ見○(六十四)李濶生州學校規則第二十四條及二十五條○(六十五)千八百六十九年十二月二十二日及千八百八十一年二月二十四日ノ法律、千八百七十年一月三十一日及六月二十八日ノ訓令「教師遺兒ノ養育ヲ目的トスル慈善會ハ「ペスタロッチ」講社ト云フ

第三章　高等學校

第三百八條　高等學校ハ將來專門學科ヲ修ムルノ基礎トシテ缺クヘカラサル豫備學ヲ教授スル所ナリ(六十六)高等學校ノ主要ナルモノハ中學校(ギムナージユン)トス中學校ハ主トシテ希臘羅馬ノ古學ヲ教授スル所ニシテ六級ニ分チ九ケ年ノ課程ナリ中學校ノ豫備校トシテ初等中學校ヲ設ク中學校卒業試驗ヲ了ヘタル者ハ大學ニ入ルコトヲ得(六十七)

此古學教習所タル中學校ハ宗門改革ノ時ニ當リ古事沿革ノ考究學問上ノ注意ヲ喚起シ學問社會ヲ支配シタルニ濫觴ス當時新教派及「エーズサテン」派ノ學校ニ於テハ殆ト單ニ羅典學而已ヲ教授シタリ何トナレハ當初古學ハ學術ノ無二ノ淵源ニシテ之ヲ講習スルニハ羅典語ヲ措キテ他ハ其道ナケレハナリ然ルニ十七世紀以來格物學ノ講究及進歩ハ古來此學ニ關シテ遺傳シタル論説ヲ破却シ遙カニ其上ニ駕スル學理ヲ發見シ同時ニ獨逸國語モ漸次發達シタルニ依リ竟ニ學問ハ必シモ羅典學而已ニ依ルヘカラストノ主義起リ以テ痛ク從來ノ學風ヲ攻撃シタリ此ニ於テ千八百十七年以來各地ノ市府ニ實業學校（レアールシューレ）ナルモノ起レリ實業學校ハ中學校ノ哲理史學ニ換ヘ數理格物學ヲ主要ノ學科ニ定メタルモノニシテ其目的ハ經濟教育ヲ上進スルニアリ故ニ實業學校ヨリ進ム者ハ高等專門學校ニ入リ以テ軍事郵便、採礦、建築及山林ノ諸科ヲ專修スルコトヲ得タリ之ニ反シテ學理上ノ教育ヲ主トスル中學校ハ大學ノ教修ニ對シテ必要ノ豫備トナレリ其後、實業學校ノ制更ニ改良進歩シ猶中學校ニ於ルカ如ク六級ニ分チ其級數過少ナルモノハ之ヲ別離シテ初等實業學校ト爲シ又成規ノ學科課程ヲ具備スルモノハ之ヲ上セテ高等實業學校ト爲セリ此高等實業學校ハ學科ノ程度ニ關シテ中學校ト全ク同等ナリキ唯其學生養成ノ目的ニ於テ中學校ト異ナルノミ（六十八）之ニ依リ實業學校卒業生ハ大學ノ理學部ニ入ルヲ得タルノミナラス亦數學、博物學及新語學ノ教師タルヲ得タリ加之現今ニ於テハ醫學及法學ノ二科ニ關シテモ實業學校ノ卒業生ニ右同樣ノ權利ヲ附與セントノ説アリ然レトモ亦他ノ一方ニ於テハ中學校及實業學校ノ教則ヲ改革シテ二校ヲ相接近セシメ以テ高等教育所ノ一致統合ヲ挽回セント企ツル者アリ

高等學校ノ教師ハ試驗ヲ經テ之ヲ任用ス（六十九）此試驗ハ州廳ノ學術試驗委員之ヲ司掌ス（七十）教師ノ任用及國王ノ直接保護ノ下ニ在ラサル高等學校教師ノ認定（七十一）ハ州ノ學務會議若クハ大臣之ヲ施行ス中學校長及實業學校長ノ任用若クハ認定ハ國王親ラ之ヲ爲ス（七十二）教師ハ政府ノ官吏ト同一ノ權利義務ヲ有シ殊ニ國庫ヨリ恩給ヲ受ル者ニ在テハ（七十三）官吏ト毫モ異ナルコトナシ凡ソ高等學校及師範學校ニ奉職スル教師ハ普通寡婦金庫ニ加入スルノ義務アリ但シ助教師ハ然ラス（七十四）

（原註）（六十六）普典二ノ十二第五十四條乃至五十七條及六十一條乃至六十四條千八百五十八年十一月六日ノ休業規則及千八百八十年五月廿九日發布學生盟約取締規則〇（六十七）千八百三十四年六月四日ノ試驗規則此規則ヲ施行スル爲メ千八百三十七年十月二十四日ノ達ヲ發布セリ又各自ノ才能ニ注意シテ制定セラレタル千八百五十六年一月十七日ノ規則アリ現今二百四十五個ノ中學校及三十四個ノ初等中學校アリ〇（六十八）千八百五十九年十月六日ノ教授及試驗規則現今八十四個ノ高等實業學校羅典語學ヲ欽クモノ八校）十八個ノ二等實業學校及百一個ノ初業實業學校アリ中學校ト高等實業學校ト各其學科ヲ異

ニスル所ハ高等實業學校ニ於テハ希臘語ヲ教エス羅典語ヲ教ユルモ其時間ヲ寡少ニナシ之ニ反シテ英佛二國語ニ若干ノ時間ヲ用ヒシメ且ツ博物學ニ力ヲ用ユ中學校ハ當サニ其反對ニ居レリ中學校及實業學校ニハ各、豫備校アリ其施設ニ關シテハ千八百八十三年四月二十三日ノ省令ヲ見ヨ○(六十九)千八百六十六年十二月十二日ノ試驗規則又千八百八十一年一月十四日ノ附則「体操教師ノ養成ニ關シテハ千八百七十三年五月一日ノ規則ヲ見ヨ体操及水泳教師ノ試驗ニ關シテハ千八百八十年九月十日ノ規則ヲ見ヨ在伯林体操傳習所ニ關シテハ千八百七十八年四月四日ノ省令ヲ見ヨ高等學校圖學教師ノ試驗ニ關シテハ千八百八十五年四月二十三日ノ訓令及圖學女教師ノ試驗ニ關シテハ同年四月二十三日ノ訓令ヲ見ヨ」在キヨーニグスベルヒ、伯林、ステツチン、及ブレスラウノ師範學校ハ文部省ノ直轄タリ○(七十)此試驗委員ハキヨーニグスベルヒノ外九ケ所ニアリ○(七十一)普典二ノ十二第十二條及六十條「國庫ヨリ補助金ヲ給スル學校ニ對シテ政府ハ委員ヲシテ之ヲ監督セシム千八百十七年一月十日ノ内閣令○(七十二)千八百四十二年十二月九日ノ勅令及同年十一月十日ノ内閣令○(七十三)國庫ヨリ年金ヲ給セサル者ニハ千八百七十二年三月二十七日ノ法律第六條、千八百四十六年五月二十八日ノ勅令並千八百四十八年三月十三日ノ達及千八百四十六年十二月十日ノ實施規則千八百四十七年二月二十二日ノ規則ヲ適用シテ年金ヲ給ス○(七十四)本書第七十五條第三ヲ見ヨ

第四章　大學校

第三百九條　大學校ノ目的ハ學術ヲ進メ官吏及教導職ヲ養成スルニアリ獨逸ノ大學校ハ其初メ獨立自治ノ一團体ナリシカ故ニ官立ノ施設物ニ變シタル以來モ尚一定ノ獨立ヲ保有ス(七十五)各大學校ハ古來之ヲ神學、法學、醫學、哲學ノ四學部(七十六)ニ區分シ以テ僧徒、法官、醫者及教師ヲ養成ス哲學部ハ他ノ三學部ニ屬セサル一切ノ學科ヲ包括シ且ツ此三學部ニ對シ學術ノ一致統合ヲ代表スルモノトス大學校ノ長ニハ總理アリ各部ノ長ニハ部長アリ此機關ハ大學教授中ヨリ之ヲ選任ス大學教授ハ又其總代(大學評定官)ヲ選任シテ己レヲ代表セシム國家ノ監督ハ文部大臣ノ代理者タル監督官之ヲ施行ス(七十七)

大學校ノ教師ハ之ヲ教授員外教授、私講師及助教授ニ區分ス皆官吏ノ權利義務ヲ有ス(七十八)然レ𪜈官吏ト異ナリ自己ノ志望ニアラスシテ罷免セラル、コトナク並ニ恩給ヲ受ルコトナシ(七十九)

大學生徒ハ大學々籍ニ其名ヲ登錄セラルレハ大學員タルノ權利(大學民權アガデミシエ、ビユルゲルレヒト)ヲ占得シ之ニ依テ大學懲戒律ノ下ニ立ツニ至ル此懲戒律ハ大學總理大學裁判官及評定官之ヲ司掌ス(八十)但シ大學裁判權ハ今日既ニ之ヲ廢セリ(八十一)大學生徒タル者ハ普通法ヲ奉スヘキハ論ヲ俟タサルモ未丁年ナルカ爲メ若クハ獨立家計ヲ營マサルカ爲メ授業料支拂ノ義務ヲ免レルルコトヲ得ス授業料ノ賦課ニ關シテ大學裁判官ノ下シタル認定ハ公正證書ノ効力ヲ有ス(八十二)大學主計官ハ授業料ヲ徵收シ

及之ニ關シテ起訴スルノ權利アリ(八十三)大學ノ修學年限ハ三ケ年ニシテ醫學ニ在テハ四ケ年トス(八十四)其內少クモ一年半ハ自國ノ大學ニ於テ修學セサルヘカラス(八十五)大學ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ附與ス(八十六)

(原註)(七十五)普典二ノ十二第六十七條六十八條「學國ノ大學校及其創立年紀ハ(一)在キヨーニグスベルヒ、アルベルツス大學千五百四年(二)在伯林フリードリヒ、ウヰルヘルム大學千八百十年(三)在グライフスウワルト大學千四百五年(四)在ブレスラウ大學千七百二年「レガポルヂナ」ト稱シテ千八百十一年ニ至リ夫ノ千八百六年以來フランクフールト、アムガーデルニ設置セラレタル大學ト合併シタリ(五)在ハルレ、フリードリヒ、ウヰルヘルム大學千六百九十四年ノ創立ニシテ千八百十七年在ウヰテンベルヒ大學(千五百二年創立)ト合併シタリ(六)在キール、クリスチアンアルブレヒト大學千六百六(七)在ギヨツチンゲン、ゲオルヒ、アウグスト大學(八)在マルブルヒ大學千五百二(九)在ポン、ライン、プリードリヒ、ウヰルヘルム大學千八百十年是ナリ其他舊教神學ノ大學校トシテ存スルモノハ在ブラウンスベルヒノ神學院及在ミユンステル神學部ヲ設ク千七百七十六年八月二十六日ノ勅令及千八百二十五年四月十三日ノ內閣令ヲ見ヨ○(七十六)ポン及ブレスラウノ大學ニ於テハ舊教ノ神學ニ對シテ第五理學院千七百七トス○(七十七)千八百四十八年七月十八日ノ達○(七十八)普通二ノ十二第七十三條○(七十九)千八百五十二年七月二十一日ノ法律第九十六條○(八十)普典二ノ十二第七十四條乃至八十一條及其附錄百三十二條乃至百三十四條○(八十二)千八百七十八年四月二十四日ノ法律第十三條第一項、千八百七十九年五月二十九日ノ法律第一條、憑戒權ノ司掌ニ關シテハ千八百七十九年一月一日ノ規則(其第十六條ハ千八百八十四年八月八日ノ達ヲ以テ改定セラレタリ)ヲ見ヨ尙普典二ノ十二第八十二條乃至百二十六條及其附錄百三十五條乃至百四十五條ヲ見ヨ」生徒盟約及決鬪ニ關シテハ千八百七十年二月一日ノ達ヲ見ヨ○(八十二)千八百七十九年五月二十九日ノ法律第一條第三項○(八十三)千八百十四年二月五日及千八百四十五年九月二十五日ノ內閣令○(八十四)大學休暇ニ關スル千八百四十四年四月十九日及千八百五十一年十二月十七日ノ勅令○(八十五)千八百四十一年六月三十日ノ內閣令○(八十六)普典二ノ十二第百二十七條乃至百二十九條

○第三　學術及技藝

第一章　創始權ノ保護

第三百十條　學術及技藝ニ關スル著作物ハ雷ニ人智ヲ啓發スルノ効益アルノミナラス亦之ニ器械的ノ動作ヲ加ヘテ之ヲ幾數倍ニ刷行スルニ依リ經濟上ノ利益ヲ有スルモノトス其之ヲ刷行スルノ權ハ即チ所謂文學上ノ所有權若クハ印行權トス此權ハ既ニ十六世紀中ノ印行特權ニ於テ其端緒ヲ顯ハセシカ前世紀ニ入リ始メテ獨立ノ一權ニ發達シタリ爾來其權ハ相續若クハ契約ニ依リ他人ニ讓與スルコトヲ得ルモ濫リニ之ヲ犯ス者(僞版者)アレハ刑法ヲ以テ其罪ヲ問フコト、ナレリ印行權ハ元ト私權ニ屬スルモノナレ𪜈其保護法ト共ニ又行政法ノ部域ニ入レリ

獨逸ニ於テハ常國法律(一)ヲ以テ此保護法ヲ定メ(二)創始者ノ終身及其死後三十年間印行ノ獨占ヲ保証ス(三)他人若シ此權ヲ侵害スルトキハ被害者ヨリ損害賠償ノ請求ヲ受ケ且ツ刑法ニ依リ問罪セラルヽモノトス(四)權利ノ侵害ハ被害者ノ告訴ニ基キ裁判所之ヲ判決ス審判ニ當リ技術上ノ問題ハ各邦設置ノ鑑定人協會ノ意見ヲ聽キテ之ヲ決ス(五)此原則ハ主トシテ著述物ニ對シテ設定シタルモノナレ𪜈亦之ヲ圖書(六)樂譜(七)及演戲脚本(八)ニ適用スヘキモノトス其他美術上ノ製作物(建築術ニ係ル物ヲ除キ)並寫眞モ同樣ノ保護ヲ受ク但シ寫眞ノ保護期限ハ五ケ年トス(九)

各國間文學及美術上創始權ノ保護ハ列國文學盟約ニ依リ交互之ヲ擔保ス(十)

(原註)(一)憲法第四條六項○(二)千八百七十年六月十一日ノ法律○(三)同上法律第一條乃至十七條及六十一條○(四)同上法律第十八條乃至二十五條○(五)同上六十二條○(四)同上法律第二十六條乃至三十二條○千八百七十年十二月十二日ノ鑑定人協會規則○該規則第十六條ハ千八百七十九年七月十六日ノ告示ニ依リ同第七條ハ千八百八十二年十月二十五日ノ告示ニ依リ變改セリ○(六)同上法律第四十三條四十四條○(七)同上第四十五條乃至四十九條○(八)同上第五十條乃至五十六條○(九)千八百七十六年一月九日及十日ノ法律○同年二月二十九日ノ鑑定人協會規則○其第四條ハ千八百七十九年七月十六日ノ告示ニ依リ同第五條ハ千八百八十二年十月二十五日ノ告示ニ依リ變改セリ○摸樣及摸形ノ創始權ニ關シテハ本書第三百五十七條ヲ見ヨ○(十)千八百四十六年五月十三日及千八百五十五年六月十四日ノ孛英間條約、千八百八十三年四月十九日ノ獨佛間條約及同年十一月三日ノ告示、千八百八十三年十二月十二日ノ獨白間條約及千八百八十四年十二月十八日ノ告示、千八百八十四年六月二十日ノ獨佛間條約及同年十二月十八日ノ告示並千八百八十五年一月十四日ノ告示千八百八十一年五月二十三日ノ獨逸瑞西間條約及同年九月二十八日ノ告示埃地利ニ對シテハ千八百七十年六月十一日ノ法律第六十二條及千八百七十六年一月九日ノ法律第二十一條ヲ適用ス

第二章　學術及技藝ノ保護

第三百十一條　學術及技藝ニ對スル國家ノ保護ハ學術技藝ノ講究所ヲ設立シ及維持シ又ハ其講究ニ從事スル協會及一私人ニ補助ヲ與ヘテ之ヲ奬勵スルニアリ

此保護ノ事件外國ニ在ルトキハ帝國政府之カ保護ニ任ス故ニ在羅馬及在亞甸古物學講究所ハ元ト孛國ノ所管ナリシモ今ハ獨逸帝國政府ハ又希臘政府ト結約シテ(十二)舊オリンピアノ舊跡ヲ開キ或ハ中央亞非利加及南北極地方ノ搜索事業ヲ補助シ或ハ在ニユルンベルヒノ日耳曼博物舘ヲ補助ス然レ𪜈學術技藝保護ノ要點ハ始終各邦政府ニ存ス孛國ニ於テハ既ニ前世紀ヨリシテ此保護ニ盡力シ夫ノ實際ヲ重ンシタル國王フリードリヒ、ウヰルヘルム一世ノ時ニ稍中止ノ狀況アリシモフリードリヒ大王ノ朝ニ至リ再ヒ盛リニ學術技藝ノ奬勵

ニ從事セリ(十二)國家ノ外地方廳モ亦學術技藝ノ補助ニ力ムヘキ職任アルモノトス(十三)在伯林學士會院ハ千七百四十四年其組織ヲ更定セシモノニシテ實ニ學術進渉ノ任ニ當ルモノナリ該院ハ理學數學部ト哲理歷史部トノ二ニ分レ正員名譽員及通信員ヲ有シ(十四)時ニ會議ヲ開キ懸賞問題ヲ發シ(十五)其論說ヲ印行ス其他學術上ノ施設物ハ公共書籍館(十六)內閣所屬ノ文庫(十七)測量所及歐洲子午線測定中央局(十八)植物園、在伯林天文臺及在ポッダム觀星局トス美術ノ部ニ於テ講究ノ中點トモ言フヘキモノハ在伯林美術大學校トス該校ハ千六百九十九年ノ創立ニ係リ評定官、會員及修學部ヲ有シ總理一名ヲ奉戴ス其修學部ニ屬スルモノハ成形美術高等學校、音樂高等學校、樂譜學校及宗門音樂講習所(十九)トス此大學校ノ外ニ在伯林美術學校及各州ニ於テ個々ノ美術學校(二十)アリ美術品ヲ蒐集保存スル所ハ伯林博物館(二十一)及之ニ屬スル各州個々ノ博物館トス(二十二)國家又ハ美術上ノ建設物及舊時ノ紀念物ノ保存ニモ配慮シ之カ保護ヲ爲ス(二十三)美術上ノ職業ハ建築及職業ノ部ニ屬スルヲ以テ此ニ贅セス(二十四)

(原註)(十二)千八百七十四年四月十三日及二十五日ノ獨逸希臘間條約〇(十二)學術技藝ニ關スル勳賞ノ制ハ本書第三十九條ノ註文十三ニ記載セリ〇(十三)千八百七十五年七月八日ノ法律第四條六項〇(十四)千八百八十一年三月二十八日ノ規則〇(十五)獨逸ノ歷史ニ關スル千八百四十四年六月十八日及千八百六十二年十二月二十二日ノ勅令〇(十六)在伯林書籍館(千八百七十七年七月二十一日ノ規制)ノ外ニ大學書籍館、在ウ井スバーデン及在ダユツセンドルフ地方書籍館、在カツセル及フルダ書籍館アリ書籍出版者カ其書籍見本ヲ在伯林書籍館及地方大學書籍館ヘ納付スヘキ義務ハ千八百五十一年五月十二日ノ法律第六條千八百七十四年五月七日ノ帝國法律第三十條第三項並千八百七十六年八月四日及十一月二十四日ノ省令ニ明記ス〇(十七)在伯林內閣文庫ノ外、キーヨーニグスベルヒ、ステツチン、ポーゼン、ブレスラウ、マグデブルヒ、シレーステル、マルブルヒ、ウ井スバーデン、ジユツセルドルフ、コーブレンツ、ウ井ツラル、ジグマリンゲレ各々一ノ國文庫アリ此等ノ國文庫ニ對シ局長一名ヲ置キ之ヲ總監セシム千八百五十二年三月二十日ノ勅令千八百六十七年八月三十一日地方ノ文庫官吏ニ下セル訓令並千八百七十六年一月九日及千八百七十七年一月十二日ノ追加規則〇(十八)千八百七十七年九月二十二日ノ勅令及規則〇(十九)千八百八十二年六月十九日ノ勅令及規則〇(二十)キヨーニグスベルヒ、カツセル及シユツセルドルフノ三ケ所ニアリ〇(二十一)千八百六十八年五月二十五日及千八百七十八年十一月十三日ノ規則「博物館ノ所藏品ハ繪畫、銅版、彫刻物、史傳物、貨幣及民種學ノ物品トス又十九世紀ノ獨逸工藝品ヲ陳列スル「ナチオナールガルレリー」(千八百六十一年設立)及摸形摸造品ノ博覽場アリ〇(二十二)プレスラウ、カツセル、並ダンチヒ、キールポン及トリールノ五個所ニアリ〇(二十三)千八百三十年十月三十一日ノ勅令第四乙及千八百三十七年八月十九日ノ勅令「妨害毀損ノ罰ハ載セテ刑法第三百四條ニアリ美術上

紀念物ノ保存ニ關シテハ本書第二百八十二條ヲ見ヨ

第九編

殖產興業

○第一　總論

第三百十二條　凡ソ人民各自ノ私力ヲ以テ達シ得ヘカラサル經濟上ノ事業ハ國家之ヲ擔任シ以テ國民一般ノ福利ヲ增進セサルヘカラス國家ノ此職務ハ天年自然ノ妨害物ヲ除去スルト經濟上ノ事業振作ノ裝置ヲ設ルトノ二ニアリ一個人ノ福利既ニ增進スレハ同時ニ其納稅力ヲ高ムルモノナレハ國家ノ爲メ亦直接ノ利益アリ中古ノ時代ニ於テ封建割據ノ制ハ地方ノ利益ヲ先ニシ全國ノ利益ヲ後ニナサシメタルニ因リ經濟上ノ計畫ハ一ニ各地方間利益ノ鬪爭ニ限局シテ其他ニ及ハサリキ蓋シ全國經濟ノ統合シテ一ノ中點ヲ得タルハ國家ノ理義世ニ明カナルニ至レル以來ノ事ト謂フヘシ而シテ斯ノ如ク全國經濟ノ統合歸一シタル以來政府カ其國一般ノ經濟ニ配慮スルノ道漸ク進歩シタリ夫レ政府カ國民一般ノ經濟ヲ振勵保讓スル目的及範圍ハ各國其國情及智識發達ノ度ニ依リ互ニ厚薄輕重ノ差別ナキニアラストハ雖モ而カモ當時世上ヲ支配シタル經濟學ノ論說(二)ハ各國ノ經濟政策ニ大ナル

影響ヲ與ヘタリ今其主モナル學派ヲ擧ケンニ

第一　重貨主義(メルカンチーシステム)　此主義ハ十七世紀中特ニ佛國ノ宰相コルベルト氏ノ唱道シ且ツ實行シタルモノニシテ十八世紀ノ下半期マテ一般ノ標準トナレリ抑々重貨主義ハ國內ニ現存スル金銀ノ貯藏高ヲ以テ國民ノ富ヲ量定シ貨物ノ輸出ニ依リ國內金銀ノ高增加シ貨物ノ輸入ニ依リ國內金銀ノ高減少スルモノト憶斷シ以テ輸出超過スレハ民富ヲ增シ輸入超過スレハ民富ヲ減スト-ナセリ是レ金銀貨ト物產トヲ誤認シタルモノニシテ其誤謬ハ自國ニ現存スル貨物若クハ輸入スル貨物ト雖モ之ヲ有利的ニ使用スレハ能ク民富ヲ增進スルノ理ヲ忘却シ並輸出入ノ超過如何ハ物產ノ利用如何ニ由テ其利害得失ヲ判斷スヘキノ理ヲ知ラサルニ基ケリ

第二　重農主義(ヒジオクラーシステム)　此主義ハ前世紀ノ下半期ニ於テケネー及ケユルゴー氏ノ唱道シタルモノニシテ重貨主義ト正シク反對ノ地位ニ立チ土地ヲ以テ諸貨物ノ無二ノ源泉ト看做シタリ此主義ハ原料ト貨物トヲ混同シタルモノニシテ其誤謬ハ貨物ニ人工ヲ加ヘテ其價格ヲ增加スルノ理ヲ知ラサルニアリ

第三　勤勞主義　此主義ハアダム、スミス氏(千七百三十二年乃至千七百九十年)ヲ以テ富源トナスノ主義ニシテ其要旨ハ凡ソ貨物ノ生產ヲ勤勞、天然力及資本ノ三原ニ歸シ且ツ營利者一般ノ利益ヲ以テ農工商各個各別ノ利益ニ代

ハルヘキモノトナシ自由競爭ヲ以テ最確實最自然ナル指導者トナシ以テ財產ノ分配ヲ此自由競爭ニ放任ス此主義ハ甚タ速ニ獨逸國ニ流布シ近時ニ至ルマテ我立法ニ大ナル影響ヲ與ヘタリ(二)

第四　社會黨主義（ソチアーリスムス）　此主義ハ前者ト全ク反對ノ地位ニ立チ即チ一個人ノ利益ヲ以テ經濟上ノ發動力トスル論ヲ排斥シ私有ノ資本ヲ共同資本ニ變シ單個ノ生產ヲ共同生產ニ化シ以テ共同体中ニ存スル一個人ナル資格ヲ全廢セント欲スルモノナリ今此主義ノ起源ヲ尋ヌルニ今日社會ノ組織幾多ノ階級ニ分レ各人天然ノ勉勵ニ依リ下級ヨリ上級ニ昇進シ得ヘキヤ勿論立憲國ノ法律上ニ於テモ敢テ之ヲ制限セサルニ眼ヲ轉シテ實際ヲ見ルニ正シク反對ノ結果チ現ハシ即チ資本ノ勢力ハ常ニ勞動社會ヲ壓シ勞動社會ノ者如何ニ勉勵スルモ資本ヲ得ルノ道ナク始終資本ノ勢力ニ制セラレテ經濟上ノ獨立チ占ムルコト能ハスト謂フニアリ夫レ斯ノ如ク社會黨ハ資本チ勞力ノ下ニ位セシメ夫ノ所謂舊勞銀ノ法則ニ基キテ其主義ヲ實本及一切ノ所有權ヲ燼滅センコトヲ勉ム社會黨主義ハ千八百三十年佛國ニ於テサン、シモン及フルリー二氏ノ唱道ニ依リ漸ク勢力ヲ逞フシ千八百四十八年ルイブラン氏ノ代表ヲ得タル以來民主々義ノ運動ト相投合シ其風潮佛國ヨリ獨逸國ニ傳播シ爾後獨逸國チシテ社會民主黨派ノ巢窟タラシメタリ獨逸ニ於テマルクス氏就中ラッセル氏ハ其主義ヲ更ニ發達セシメ夫ノ所謂舊勞銀ノ法則ニ基キテ其主義ヲ實行セント勉メリ蓋シ職工ノ平均勞銀ヲ以テ其生計ノ需要ニ超過スヘカラストノ思想ハ則チ該法則ノ要旨ナリ(三)

第五　社會黨主義ハ米國ノ如キ自由ノ運動ヲ許ス地ニ於テモ之ヲ實行シテ永遠ノ效ヲ奏スルコト至ラサリキ然ルニフリードリヒ、リスト氏(千八百四十六年死)ノ論旨ニ基キテ近時勃興シタル歷史派經濟學ハアダムスミスノ學說ニ反對スルモノナリ蓋シアダムスミスノ學派ハ一般ノ經濟上法則ヨリ於テモ亦其社會ニ及ホシタル效力偉大ナリト謂フヘシ此歷史派經濟學ハアダムスシテ經濟社會ノ現像チ演繹シ以テ宇內普通ノ經濟チ妄想シタルニ歷史派ノ經濟學ハ各國ノ千差萬態ナル現像ヨリ論ヲ起シ各國特殊ノ實況如何ニ由リ經濟ノ方路ヲ定ムヘキモノトナシ夫ノ無限ノ自由ヲ許ス所ノ放任主義ニ反對シ國家ノ須ク弱者ヲ保護シ及共同心ヲ振起セシムヘキ義務アルコトヲ認定シ且ツ夫ノ利己心ヲ以テ經濟作用ノ無二ノ發動機トナスノ主義ヲ排斥シ之ニ反シテ經濟作用ハ德義ト國民獨立ノ精神及利己心併ヒ立チテ始メテ全キヲ得ルモノトナセリ

十八世紀中ハ孛國ニ於テモ爾餘ノ獨逸諸國ニ於テモ民力養生ノ事業ハ全ク國家ノ掌裡ニ存シ實ニ當時ノ警察ノ一部ヲ成セリ(四)當時中古ノ餘弊ヲ受ケ經濟上ノ事業

ニ倘許多ノ制限ヲ遺留シタルカ上ニ警察ノ干渉其度ヲ超ヘタルカ爲メ經濟上ノ發達ハ大ニ阻障セラレタリ

十九世紀ハ實ニ此鎖鑰ヲ破斷シタル時期ニシテ其第一着手ハ宰相スタイン、ハルデンベルグ氏ノ改革ニ在リ此改革ハ人民ノ隷屬ヲ解キ、土地所有權及農工商ノ營業ヲ自由ニ爲シ以テ苟クモ才能アル者苟クモ資力アル者ヲシテ充分其力ヲ伸ハシ自由ニ發達スルヲ得セシメタリ(五)此原則ハ其後ノ法制ヲ以テ之ヲ擴張シ且ッ之ニ交通自由ノ原則ヲ加ヘ以テ竟ニ獨逸帝國ノ法制中ニ入リテ獨逸全國民ノ共有物トナレリ(六)

此原則ニ由リ國家ノ干涉ハ曩時ニ比シテ大ニ退縮シタリ抑々其原則ヲ實施スルト同時ニ地方自治ノ權ヲ增强シ經濟社會ニ對シテ眞正ノ發達ノ道ヲ開キタルカ故ニ國家ハ夫ノ一個人ノ力ヲ以テ達シ得ヘカラサル事業マテヲ放棄シ即チ之ヲ地方自治体ニ讓ルヘキヿ、ナレリ夫リ然リト雖モ斯ノ如ク經濟ノ自由及經濟ノ獨立ニ向ケタル運動モ亦自ラ一定ノ限界アルヲ要シタリ語ヲ換ヘテ言ヘハ警察國(ポリツアイスタート)保護干涉政治ノ鎖鑰ヲ解キテ經濟上ノ事業ニ獨立自由ヲ得セシメタルモ其極端ニ走セテ夫ノ法律上ノ保護ノミヲ務メ民力養力ヲ擴斥スル所ノ法治國(レヒツスタート)ニ陷ルヲ許ルサヽリキ現ニ我國經濟上ノ運動ハ一端法治國ノ極度ニ陷リテ失敗ヲ嘗メタル後近時始メテ復ヒ自然ノ方路ニ歸シタリ殊ニ今日世上ノ需要年ニ月ニ增加シ隨テ廣大無邊ノ勢力アル國家獨リ能ク此需要ニ應スルヲ得ヘキニ依リ國家ニ向テ求ムルノ事業頗ル多キヲ加ヘタリ今日勞動社會ノ疲弊困難ノ如キハ之ヲ救濟スルニ到底一個人ノ自助力ヲ以テ達シ得ヘカラサルモノニシテ最モ以テ國家ノ力ヲ要スヘキモノタリ故ニ國家ハ社會民主黨ノ爲メニ煽動セラレタル人民ノ要求及跋扈ヲ愈々嚴重ニ防壓スルモ社會ノ正當ナル要求並ニ勞動社會カ資本ナクシテ獨立生存シ得サル苦情ニ至テハ之ヲ防壓擯斥シ得サルモノトス」此ニ於テ我國今日立法ノ方向ハ一ニ社會改良ニ注射シタリ其主眼ハ社會ノ運動ニ隨伴シ經濟上ノ部域ニ涉リ就中民力養成ニアリトス但シ傍ラ又他ノ部域ニ其餘響ヲ及ホサヽルニアラス即チ社會改良上ノ立法ハ一般立法ノ外ニ立チテ單個獨立スルニアラスシテ多少政治ノ各派ニ關係スルモノトス(七)而シテ此社會改良ニ關シテ政府ノ行爲ハ三ノ方向ヲ取レリ即チ

第一、一個人及協會ノ私力ヲ以テ達シ得ヘカラサル公益事業(銀行、鐵道、郵便、電信)ハ政府直接ニ之ヲ管理スルヿ

第二、弱者及無助者ノ保護(婦女小兒ノ勞動及業主ノ賠償義務)

第三、社會組織ノ爲メ一定ノ原則ヲ設ケ政府之ヲ看護スル事(同業組合、災害保險金庫及救助金庫)

顧フニ國民經濟上ノ成績及其第一ノ起因ハ資本ニアリ故ニ民力養成ハ主トシテ資本ノ占得及利用ニ對スル起因ヲ作ラサルヘカラス次ニ各派ノ生產事業ニ配慮セサルヘカラス而シテ此生產事業ノ奬勵ハ第一ニ天然物ノ收穫ニアリ即チ礦物ニ在テハ坑業、動植物ニ在テハ農業、山林、漁業及鳥獸獵ヲ進ムルニアリ第二ニ其天然物ヲ精製スル工業ニアリ第三ニ生產物ヲ販賣スル商業ニアリ右各種ノ產業ヲ同時ニ進歩セシムル爲メ又交通運輸ノ便ヲ整備スルニアリ

民力養成ノ事業斯ノ如ク多般ナルカ爲メ今ニ至ルマテ統一ノ行政機關ヲ缺キ唯各種ノ事業別離シテ各派ノ行政ニ分屬スルノミ然ルニ近時ニ於テハ世人擧ケテ一般經濟上ノ問題甚タ重大ノ關係アルコトヲ認メタルヨリ所謂經濟會議（ホルクス、ウヰルツシヤフツ、トラーナルモノヲ設置シ高等官衙ノ輔翼トナシ經濟社會ニ關スル重大ノ法律案ヲ諮問スルノ機關タラシメンコトヲ希望ス此希望ニ應シ率先シテ此會議ヲ設ケタルハ目下孛漏生ノ一國ナルノミ今孛國ノ經濟會議ヲ見ルニ議員ノ數ヲ七十五名トナシ其四十五名ハ各地ノ商業會議所、商人組合及農業協會ヨリ推薦シタル九十員中ニ就キ政府之ヲ任シ其他ハ政府直接ニ之ヲ任ス其任期ハ五年トス又該會議ハ商業、工業及農業山林ノ三部ニ分チ各部ニ常置委員ヲ置キ全會ヲ代表セシム其議長ハ商務大臣、工部大臣若クハ農務大臣之ニ任ス（八）

（原註）（一）クニース氏經濟論第二版ラウ、ワゲ子ル氏經濟論（第二版）ロッシエル氏經濟論（第一卷原論第十五版、第二卷農業經濟第九版、第三卷商工業經濟）ショーンベルヒ氏經濟全書（二）租稅ニ及ホシタル影響ハ本書一三五條ノ註文九、商政ニ及ホシタル影響ハ同三二七條ニ記述ス（三）運動ノ經過及防壓本書二四八條（四）本書二二〇條一項（五）一八一七年（千八百十七年ナリ十月二三日縣廳ニ下セル訓令七以下此例ニ倣ヘ）條（六）本書三二九條一項及三四九條六項（七）租稅ニ關シテハ本書一三四條五項、衛生及土木警察ノ規定並ニ貧民救助ニ關シテハ本書二六六條乃至二八七條學制ニ關シテハ本書三〇五條（八）一八八〇年十一月十七日ノ勅令縣廳ノ管轄地內ニモ亦同樣ノ代議會ノ設置アルヲ希望ス（工業會議）

○第二　資本ノ增殖

政府ハ民有資本ノ增殖ヲ奬メ資本ノ利用ヲ容易ナラシメ且ツ之ヲ整理セサルヘカラス資本ノ增殖ハ貯金法及保險法ヲ以テシ資本ノ利用ハ信用法ヲ以テス（一）此二事ヲ振作スルニ最緊要ナル方策ハ經濟上ノ協會法ノ發達ニアリトス

第一章　貯金

第三百十三條　貯金ノ目的ハ個々散在スル不生產的ノ資金ヲ集合シ之ヲ有利的ニ使用シテ以テ資本ヲ增殖セシメ同時ニ凶荒困厄ノ場合ニ對スル救助資金ヲ設ルニアリ

第一ノ貯金所ハ千七百六十五年ブラウンシユワイヒニ於テ建設シタルモノナレ

㠯然レ㠯眞ノ發達ヲナシタルハ當世紀ニ屬シ即チ當世紀ニ入リ貯金所ノ制ハ全歐州ニ蔓延シ甚タ速ニ擴布シタリ

孛國ニ於ル貯金所ハ主トシテ郡及町村ノ設立ニ係レリ希レニハ大ナル自治体ヨリ建設セラレタルモノアリ貯金預入レ元利增殖及其拂戻ノ方法ハ貯金現在高ノ証明及豫備金ノ設置ト共ニ確定ノ原則ニ從ヒ規約ヲ以テ之ヲ定ム(三)郡及町村貯金所ノ設置ハ州知事之ヲ許可シ其監督ハ地方自治体ノ監督廳之ヲ司掌ス(四)

貯金所ハ其設立ノ目的ニ從ヒ之ヲ數種ニ區別ス其最効績アルモノハ郵便貯金法トス郵便貯金所ハ國家ノ設立物ニシテ各所ノ郵便局ニ於テ貯金ノ預入レ及拂戻ヲ爲スヲ得セシム曩ニ帝國政府ハ之ヲ獨逸全國ニ施行セント欲シテ其法案ヲ國會ニ提出セシカ不幸ニシテ國會ノ否決スル所トナレリ然レ㠯之カ爲メ現在貯金所ノ改良ヲ促カシ貯金受取所ノ數ヲ增シ轉居者ノ爲メ其貯金高ヲ他ノ貯金所ニ移スノ便ヲ開キ(七)且ツ一回預入高ノ最少額ヲ遞減スルニ至レリ又十「ペンニヒ」マテノ小金額ヲ預入レシムル「マルケン」貯金所ノ設立ヲ見ルニ至レリ(八)而シテ其貯金所ノ金額ヲ附ルノ方法モ亦盛リニ行ハレリ(九)此ニ依リ貯金所ハ兼テ貸附ヲ爲ス所ノ金庫トナリ此二樣ノ働キニ依リ恰モ銀行ノ如ク貨幣ノ需要供給ヲ媒介ス

(原註)(一)往時ハ此施設ヲ豫防的貧民救助法ト看做シタリ近時ノ國家學ハ之ヲ誤謬ト爲シ更ニ之ニ獨立ノ地位ヲ與ヘタリ何トナレハ貧民救助ニ毫モ關係ナキ場合ニ於テモ亦貯金其効力ヲ呈スレハナリ○(二)郡及町村ノ外大ナル自治体トシテ貯金所ヲ設ル地ハガーベルラウジッツ、ニーデルラウジッツ、アルトマルク、オストフリースラント、ナッサウ(一八六九年十二月二五日ノ法律及ホーヘンソルレルン一八五四年三月一七日ノ規則、一八八二年十一月一三日ノ勅令及一八八五年三月一八日ノ附則)ナリ千八百八十五年ニ於テ貯金所ノ總數ハ千貳百六十九、同支局三百四十四及貯金受取所七百七十二アリ其貯金預入高ハ拾九億六千五百五拾萬「マルク」ニ達シタリ貯金所統計ハ別段ノ規則ニ依リ一定セリ一八八二年十月二一日ノ達及一八八三年八月四日ノ達組合貯金々庫ニ關シテハ本書三二一條ヲ見ヨ○(三)一八三八年十二月一二日ノ法律、一八四一年七月二六日ノ內閣令、一八八二年六月一三日ノ訓令、一八五七年二月二三日ノ內閣令其他一八七七年十一月七日及一六日ノ達、一八八四年四月二日ノ達貯金所帳簿ノ印稅免除ニ關シテハ一八四七年三月三日ノ內閣令、一八七三年十月三十日ノ準則ヲ見ヨ○(四)公立貯金所ハ公會ノ資格ヲ有シ其行務ハ公廳ノ事務ニ仝シ一八八〇年四月二六日ノ達營業稅免除ニ關シテハ一八七五年八月二〇日ノ達ヲ見ヨ○(五)郵便貯金法ハ千八百六十一年以來英國ニ行ハレ墺、佛、白伊ノ諸國皆英國ノ例ニ倣ヒ之ヲ設置セリ○(七)貯金ヲ他所ニ移スコトハガツベルン縣及チユツセルドルフ縣ノ管區內ニ於テ既ニ之ヲ實施ス○(八)一八八二年五月一一日ノ達○(九)一八五七年二月二三日ノ內閣令

第二章　保險

第三百十四條(甲)　保險法ハ定期ニ金額ヲ拂入レシメテ資本ヲ增殖シ一定ノ事故生スルニ當リ其補給費若クハ辨償費トシテ該資本ヲ拂入主ニ附與スルモノナリ保險證書ハ「ホリツエ」ト稱シ拂入金ハ保險掛金(パイトラーグ)ト言フ保險料即賠償資金ヲ以テスルアリ或ハ收得(レンデ)ヲ以テスルアリ(資金保險又ハ收得保險)

保險法ハ日耳曼人種ノ共同心ニ淵源シ既ニ中古時代ノ同業組合ニ於テ盛リニ流行シタリ然レ𪜈其本來ノ發達ヲ爲シタルハ十六世紀ノ宇內貿易ニ於テ行ハレタル海上保險法起リ而シテ此不動產保險法ハ十八世紀ニ於テ火災保險所ナルモノヲ生シタリ十九世紀ニ於テハ私設保險法大ニ流行シ殊ニ動產保險、震害保險、生命保險等ノ新組織ヲ生シタリ從來交互契約ニ起由シタル保險ハ更ニ進ミテ一ノ獨立營業トナリ同時ニ複保險ノ方法ヲ設ケテ其事業ノ範圍ヲ擴張セリ蓋シ保險ノ事業ハ其範圍ヲ愈々擴張スレハ從テ益々危險ヲ平均シ得ルモノナレハナリ

保險ニ關シテ政府ノ行務ハ左ノ方向ヲ取リタリ

第一、保險ハ契約ヲ以テ成ルモノトナシ其私法上ノ條規ハ保險條例ヲ以テ之ヲ定ムル事

第二、保險ヲ一ノ營業トナシ警察官ノ監督ヲ受ケシムル事

第三、保險ハ各人ノ福利增進ニ缺クヘカラサル因由トナルモノナレハ之ヲ民力養成ノ一途トナシテ奬勵スル事

保險條例ハ海上保險ト爾餘ノ保險トヲ區別シ(十)通則ノ外ニ各種ノ修險ニ對シテ特殊ノ條則ヲ設ケタリ就中火災保險ハ全ク特別ノ規定內ニ入レタリ(十一)火災保險及海上保險ノ外ニ河川保險、鐵道保險、運搬保險、震害保險(十二)家畜保險(十三)抵當保險、生命保險(十四)給養法(アウストイエル)(十五)寡婦扶助法、遺族給養法、疾病及養老保險等アリ(十六)保險ノ事件ハ帝國法律ノ管掌ニ屬ス帝國法律ハ海上保險條例ヲ除ク外單ニ左ノ規定ヲ設ケタルノミ即チ保險ノ業ヲ營ム者ハ官ノ許可ヲ得ルヲ要セス但シ火災保險ノ業ニ在テハ保險チ托シタル者及托セラレタル者ヨリ八日以內ニ其旨ヲ町村警察署ニ申告スヘシト定メタルノミ

孛國ノ舊州ニ於テ保險營業者ハ都ヘテ官ノ許可ヲ得ルヲ要ス而シテ其許可ハ品行方正ニシテ名譽汚損ノ事ナキ人ニ之ヲ附與ス(十九)

第三百十五條(乙)　火災保險ニ關シテ特ニ定メタル條則ハ一ハ稅法ヲ參酌シ一ハ獨逸往時ノ公共火災保險所ノ沿革ニ依リテ制定セラレタルモノナリ

火災保險警察ハ放火若クハ不注意ニ因スル失火ノ危險ヲ包藏スル保險ノ弊害ヲ豫防ス(二十)之カ爲メ二重保險ハ勿論普通ノ價格ヲ超過スル保險並眞ノ損失額ヲ超ヘタ

ル賠償ハ都ヘテ之ヲ禁シ且ツ保險會社及其理事ハ警察上ノ監督ヲ受ケシム(二十一)又保險證書ハ警察官ニ於テ危害ナキモノト宣言シタル後、始メテ保險委托人ニ附與スルコトヲ得セシメ(二十二)火災ノ賠償ハ罹災後八日以內ニ異議起ラサルトキニ限リ之ヲ拂渡スコトヲ得セシム(二十三)右ニ述ヘタル如ク保險證書ニ警察官ノ宣言ヲ要スヘキ規定ハ最初動產ノ保險ニ施行セシカ後ニ不動產ノ保險ニ擴充シタリ(二十四)而シテ之ヲ犯ス者ハ罰ニ處スト定メタリ(二十五)

各地方ニ現行スル交互保險ノ火災保險社ハ皆十八世紀中ノ創立ニ係レリ其組織ハ百年以來屢々改革シタル規則ニ基ツケリ而シテ今日ニ於テ該社ハ新私設會社ノ爲メ其舊來ノ特權就中强制權及除排權ヲ失亡シ(二十六)タレ𪜈亦他ノ一方ニ於テハ數小社ヲ一大社ニ合併シ事務ヲ簡捷ニナシ規約ヲ短略シ間々又其事業ヲ動產ニ擴充シ以テ大ニ他ノ競爭ニ抗抵シ得ルノ地位ニ進ミタリ該社ノ事業ハ土地ニ由リテ大小廣狹アリ即チ一州若クハ一縣ヲ以テ營業區トナス者アリ或ハ舊「ラントシャフト」組合區ヲ以テ營業區トナス者アリ其保險ハ或ハ各種ノ所有地ニ及フアリ或ハ市街地及村地ニ及フアリ(二十七)其事務モ亦同樣區々ノ方法ニ依リ或ハ特別ノ機關ヲ設ケ或ハ州及其他ノ地方自治体ニ於テ處理スル(二十八)然レ𪜈其町村ニ係ル保險事務ハ郡長之ヲ處理スルヲ例トス」公立保險社ハ私立保險社ニ優ルヤ遠シトス何トナレハ公立ノ

モノハ單ニ保險而已ノ用ヲ爲シ私立會社ノ如ク自己ノ利益ヲ營ムヘキ必要ナケレハナリ公立ノモノハ廉價ノ保險料ヲ以テ一層確實ナル保險ヲ爲スコトヲ得ヘシ且ツ利益ノ寡ナキ物件ヲモ合セテ保險シ並其保險ニ依リ大ニ一般ノ公益ヲ爲スモノナリ故ニ我孛國ニ於テ公立保險社ハ夫ノ自由交通主義ト復一致スヘカラサルノ特權ヲ失亡シタルニモ拘ラス今日ニ至ルマテ曾私立保險社ニ對シテ其位地ヲ保有シタルノミナラス亦私立社トノ競爭ニ於テ甚タ活潑ナル運動ヲ爲シ益々隆盛ニ趣クノ勢アリ

(原註)(十)海上保險ニ關シテハ商法ヲ見ヨ(本書三六五條)其他ノ保險ニ關シテハ普典二ノ八第十八章(一九三四條乃至二三五八條)ヲ見ヨ保險ノ目的ヲ以テ設立スル合資會社本書三二〇條〇(十二)本書三一五條〇(十三)伯林、マグデーブルヒ、エルベルフエルド、ワイマール會社ノ共同規約ニ關シテハ一八七二年十一月一三日ノ達ヲ見ヨ」一八八一年十一月一六日ノ決算規則」一八八〇年ノ終リニ於テ內國會社二十九、外國會社三ヲ允許シタリ〇(十三)家畜ノ保險ニ於テ實効ヲ奏シタルハ町村設立ノ交互保險小社ナリトス今此小社ヲ合算スルニ一八八〇年ノ終リニ現存スル家畜保險社ハ內國保險社三百廿五ニシテ外國保險會社三ナリ(其內五社ハ豚蟲病ヲ保險ス)〇(十四)醫證ヲ以テ詐僞ヲナス者ノ罰ハ刑法二七七條乃至二八〇條一八八〇年ノ終リニ於テ獨逸國內生命保險社ノ現在數ハ四十九ナリ(內孛國ニ於テ二十二、其他ノ獨逸諸國ニ於テ十、獨逸外ニ於テ十七)〇(十五)一八五二年二月五日ノ達〇(十

六）此保險ハ所謂恩給金庫及寡婦孤兒扶助金庫ニシテ特ニ官吏ニ適用ス（本書二四條及七五條）又坑夫金庫（本書三二六條）、疾病及災害保險金庫（本書三五四條）トシテ職工ニ施行ス○（十七）帝國憲法四條一項○（十八）營業條例六條、一四條二項、一五條及一四八條○（十九）一八五三年五月一七日ノ法律「其三條及四條ハ削除セラレタリ一八五三年十月二五日及八月三一日ノ訓令」罰ハ刑法三六〇條九項「保險社設立ヲ允許スルノ權ハ大臣ニ屬ス同上法律二條」共同寡婦金庫、死亡金庫及給養金庫ニ在テハ州知事其設立ヲ許可ス一八三三年九月二九日ノ內閣令「允許取消ノ事ハ權限法一二〇條二項ニ詳カナリ新附諸州ニ於テ一ハ全ク允許ヲ要セス一ハ火災保險ノ事業ニ限リテ允許ヲ要ス保險社ノ營業稅ヲ納ムヘキ義務ニ關シテハ本書一四三條三項ヲ、其町村稅ニ關シテハ同七七條四項ヲ、其郡稅ニ關シテハ同八〇條ノ註文十二ヲ見ヨ○（二十）一八三七年五月八日ノ法律、一八三七年六月十日ノ實施規則○（二十一）同上法律一條乃至六條、一三條、一六條及一七條「ホーヘンツオルレルン州ニ於テ全價格ノ保險ヲ許ス事ハ一八七六年七月一四日ノ法律ニヨル○（二十二）一八三七年五月八日ノ法律一四條、一五條、一九條「住居地ノ警察官ハ其管轄地外ニ在ル物件ニ關シテモ亦其職權ヲ施行ス一八七九年六月九日ノ上等行政裁判所判決○（二十三）同上法律一八條、一九條○（二十四）一八四一年五月三〇日ノ內閣令「不動產ノ保險ニ關スル法律ハ未タ周到ナラス保險規則ノ足ラサル所ハ普通法典ノ條規ニ依ラサルヘカラス○（二十五）同上法律二〇條乃至二八條、三〇條乃至三三條、詐偽ヲ以テスル火災ノ處罰ハ刑法二六五條○（二十六）一八五九年七月二日及六一年九月一八日ノ勅令「火災保險社ニ於テ保險セラレサル人ノ保險料支拂義務ハ一八七七年三月三一日ノ法律ヲ以テ廢シタリ強制保險社ハ現今尙ホストフリースラント、カッセル縣、ウヰスバーデン及ジグマリンゲンニ存スルノミ○（二十七）現今各州ニ存スル火災保險社ハ合計二十六ナリ○（二十八）東李漏生州外六ケ所ニ在ル火災保險社ハ特ニ機關アリテ其事務ヲ處理ス其他ノ火災保險社ハ地方自治体ニ於テ之ヲ管理ス

第三章　信用（クレヂート）

第三百十六條（甲）　信用ハ甲者カ乙者ノ資本ヲ利用スルノ機能ニシテ其効用ハ資本ヲ充分ニ利用スル能ハサル資本家ノ手ヨリ之ヲ更ニ有利的ニ使用スル人ノ手ニ移シ以テ資本ノ增殖ト新貨物ノ生產トヲ進ムルニアリ土地ヲ以テ擔保スル信用ハ土地信用（レアールクレヂート）ト稱シ其他ノ信用ハ人身信用（ペルソナールクレヂート）ト云フ

信用其物ハ各個人ノ貸借契約ヨリ成リ私權ノ部ニ屬ス然レ𪜈信用ハ其經濟上ノ効用偉大ナルカ爲メ公權ノ部ニ入レ政權ヲ以テ之ヲ保護ス之カ爲メ政府ハ一面、法律ヲ以テ其秩序ヲ整ヘ一面、恰當ノ施設ヲ以テ之ヲ振起ス

第百三十七條（乙）　信用ニ關スル法律　土地信用ニ在テハ地所臺帳ノ制及強制執行法アリ（二十九）人身信用ニ在テハ爲替法アリ爲替法ハ獨逸帝國ノ建設前ヨリ旣ニ獨逸全國ニ對シテ一定シ唯特別ノ實施規則ニ依リ聯邦各國ニ行ハレタリ（三十）今日ハ其爲替

法、獨逸帝國ノ法律トナリ(三十二)隨テ各國ニ於テ自由ニ變更スルヲ得サルモノトナレリ此爲替法ニ依レハ凡ソ爲替金支拂ノ義務アル者ハ何等ノ條件ナク直接ニ其義務ヲ果スヘキモノトス(三十三)而シテ苟モ契約ヲ爲スノ能力アル者ハ皆爲替ノ能力アルモノトナシ即チ爲替手形ヲ發シ若クハ之ヲ受ケ得ルモノトナス(三十三)然レ𪜈亦爲替濫用ノ弊アルカ爲メ之ヲ防カンコトヲ試ミタレ𪜈爲替能力アル人ノ爲メ條規ヲ設ルノ極メテ困難ナルニ由リ竟ニ其結果ヲ見サリキ負債主ヲ錮鎖スルノ制廢セラレタル以來(三十四)各負債主ハ復其身ヲ以テ責ニ任セス單ニ其財產ヲ以テ負債辨償ノ責ニ當ルニ依リ(三十五)爲替金ノ支拂ニ關スル請求ハ略式裁判ヲ以テ之ヲ判決ス(三十六)負債支拂ノ義務ハ爲替差出人之ヲ負擔スルカ(三十七)否ラサレハ第三者(爲替宛名人)ノ負擔トス(三十八)爲替金受取主ハ爲替ノ書換ニ依リ其權利ヲ他人ニ讓與スルコトヲ得(三十九)爲替券ノ所持者ハ爲替宛名人ニ其爲替券ヲ示シテ支拂義務ヲ證明セシムルコトヲ得(四十)宛名人若シ此證明ヲ拒ムトキ(四十一)又ハ爲替上ノ義務ヲ果サヽルトキ(四十二)並ニ第三者支拂義務者タラサルトキハ(四十三)爲替差出人及書換人ニ向テ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得(四十四)信用ニ關スル法律ハ他ノ一方ニ於テ又夫ノ高利ヲ貪ル金主ヲ制限スル即非常ノ高利ヲ約シテ負債主テ困シメル者ハ負債辨償ノ請求權ヲ失ワシメ且ツ罰ヲ受シムルコ

ト是レナリ舊時ノ利息制限法ハ實際ノ場合千差萬別アルニ因リ之ヲ充分ニ履行スルコト能ハサリシ雖モ(四十六)既ニ刑法中未丁年者ニ對シテ信用ヲ濫用スルノ行爲ヲ罰スルノ明文アルニ依リ此主義ニ基キ凡ソ他人ノ困厄不經驗及無思慮ナルニ乘シ普通ノ程度ヲ超過スル高利ヲ貪ル者ハ之ヲ違法ト認メ之カ契約ヲ履行スルニ及ハスト定メタリ(四十八)故ニ高利ヲ貪ルト否トハ各自ノ場合ニ於テ裁判官チシテ判定セシムルモノタリ」貸附營業及質取營業ハ行商チ以テ之ヲ爲スコトチ禁ス(四十九)其他ノ制限ハ資產ナキ下等人民保護ノ爲メ之ヲ施行ス即チ負債主鎖銅(三十四)ノ制ヲ廢シタルノ外又凡ソ生存ニ必要ナル物件ニハ強制執行法チ加ヘサルノ規定、是レナリ未拂ノ賃銀及給料ハ都テ之ヲ差押ヘ得サルモノトス(五十)

無記名價券ノ發行ハ國王ノ制可ヲ得ルチ要ス(五十一)但シ株券ニ關シテハ此原則ヲ適用セス(五十二)株券ハ一時賣買ヲ停止スルコトアルノミ(五十三)價券償還ハ地方ニ由リ其方法ヲ異ニス(五十四)

第三百十八條(丙)信用ニ關スル施設物ハ協會及地方自治体(五十五)若クハ國家ヨリ之ヲ建立シ而シテ一定ノ產業ヲ進ムルノ用ニ供シ(五十六)或ハ一般ノ信用ヲ媒介スルノ用チ爲ス一般ノ信用ヲ媒介スルモノハ抵當貸附所ナリ此貸附所ハ其事業ニ隨伴スルノ危險アルカ爲メ警察上特別ノ監督ヲ受ケサルヘカラス(五十七)但シ其監督ハ私立ノモ

ノハ勿論公立ノモノニモ及フモノトス國家ノ設立ニ係ルモノハ此外トス（五十八）

國家ハ緊急ノ場合ニ一時設立シタル貸附金庫ノ外ニ地方補助金庫（プロフヒンチアールヒエルフス）ヲ設ケタリ（カツセン）此金庫ハ公益事業及公益施設物、地方土木、地方債ノ償還、土地改良及生産事業ヲ企起スル者ノ爲メ利便ナル條件ト年賦償却ノ方法トヲ以テ資金ヲ貸與スルモノニシテ現今ハ之ヲ州ノ管理ニ委シタリ（五十九）

第三百十九條（丁）銀行　信用ハ各種需要ノ場合ニ應シテ諸施設物ヲ要スルノ外又其脉絡ヲ連接シテ金融ヲ媒介スル所ノ中點ヲ缺ク能ハサルモノトス今夫レ銀行ハ信用貸借ノ機軸トナリ即チ信用ノ中點トナルモノナリ銀行ノ事業ニ數種アリ其最簡短ナルモノハ貨幣ノ價格アル物品ノ貯藏ニ從事スル所ノ預托銀行トス此預托ヲ受ルノ外貸附事業ヲ營ムモノハ之ヲ貸附銀行ト言ヒ此其貸附ヲ爲スニ書入抵當ヲ以テスルヤハ之ヲ書入抵當銀行ト云フ又爲替手形ニ對シ其爲替ノ利子ヲ割引キシテ貸金ヲ爲スモノハ爲替割引銀行ト稱ス其他數人ノ間ニ立チテ其資金ノ書換ニ從事スルモノハ之ヲ書換銀行トナス銀行ニシテ以上ノ事業ヲ爲スニ止マル間ハ單純ノ銀行事業ヲ營ムモノナレハ別ニ國家ノ認可若クハ監督ヲ受ルヲ要セス（六十）

之ニ反シテ銀行者若シ銀行券ヲ發行スルトキハ則チ其事業ヲ更ニ擴張シタルモノニシテ之カ爲メ特ニ國家ノ監督ヲ受ケサルヘカラス抑銀行券ヲ發行スル銀行、即チ所謂國立銀行ハ無利足ノ仕拂手形ヲ以テ一ノ流通證券ヲ發行シ銀行ニ關係ヲ有スル諸事業上相互ノ支拂ニ供用セシメ而シテ其証券ノ所持者ニ對シテ之ヲ通貨ニ引換スルコトヲ擔保ス銀行ハ之ニ依リ其營業資本ヲ增大シ殊ニ發行証券ノ無利足ナルヲ以テ若干ノ利益ヲ占得シ公共ノ取引上ニハ融通ノ便ヲ與フコト勘カラス（六十一）

然リト雖モ此証券發行ノ特權ハ他ノ一方ニ於テハ金融ノ安全ニ對シテ大ナル危險ヲ包藏スルモノナレハ須ラク政府ノ監督ヲ受ケ一定ノ制限内ニ於テ之ヲ施行セサルヘカラス國ニ由リ此特權ヲ官立ノ中央銀行ノミニ委任スルハ畢竟萬一ノ危險ヲ防クニアルナリ

孛國ニ於テ銀行ト國家ヲ密ニ連結スルハ前記ノ外尚他ニ理由アリテ然ルナリ即チ前世紀ノ中頃銀行設立ノ需要起リタル時ニ當リテヤ民間ノ資本及民間ノ事業未充分ニ發達セスシテ民間銀行ノ事業ニ任スルモノアラサリキ加之私設事業ヲ以テ銀行ノ職務ニ當ルコト當時ノ氣運ニ適セサルモノ、如キ狀況ヲ呈シタリ此ニ於テ政府自ラ手ヲ下シテ官立ノ孛國銀行ヲ創設セリ（千七百六十五年）其後數多ノ年月ヲ經テ始メテ私設銀行ヲ許可シ（千八百四十六年）更ニ近時ニ至テハ從前孛國銀行ニ專有セシメタル證券發行ノ特權ヲ他ノ私設銀行ニ許與シタリ（六十二）孛國ノ新附諸州及其他ノ獨逸各邦ニ於テ亦前同樣ノ沿革ヲ經テ證券發行ノ銀行ヲ設立スルニ至レリ然

ルニ各銀行ニ普通ナル一定ノ原則ナキニ依リ銀行ノ統合一致ヲ缺キ頗ル分裂ノ狀況ヲ呈シタリ千八百七十一年獨逸帝國ノ建創セラルヽニ至リ銀行法ヲ帝國立法權內ニ入レタルヨリ銀行ノ制全國一ニ歸シ(六十三)同時ニ舊來ノ孛國銀行ヲ帝國政府ニ移シ以テ獨逸銀行ト稱スル一大中央銀行ヲ設立シタリ(六十四)(六十五)證券發行ノ權ヲ一大中央銀行ニ專有セシメントノ企圖ハ我獨逸ニ於テ英佛二國ニ於ルト同一ノ進路ヲ取レリ(六十六)

私設證券銀行ハ帝國ノ法律ニ依リ證券ヲ發行スルヲ得ルノミ而シテ其証券ハ百「マルク」、貳百「マルク」、五百「マルク」、千「マルク」若クハ數千「マルク」ニ限ルトス此證券ハ發行中何時ニテモ所持者ノ望ニ依リ正貨ニ引換ヘルコトヲ得セシメ且ツ之ヲ發行スルノ銀行ハ其事務ニ關シテ幾分ノ制限ヲ受ケ政府ノ監督ヲ仰カサルヘカラス又此證券ヲ一般ノ支拂ニ受授スヘキ義務ハ之ヲ認許セス(六十七)獨逸帝國若クハ獨逸內一邦ノ本位貨幣ヲ記入シタル外國銀行ノ證券ハ獨逸內ニ於テ通用スルヲ嚴禁ス(六十八)一銀行ノ証券發行高其正貨準備額ヲ超過スルトキハ增發証券ノ爲メ毎年五分ノ稅ヲ帝國金庫ニ納メシム(六十九)今ヤ獨逸帝國ノ銀行政略ハ銀行証券發行高減少ニ向ヘリ故ニ新ニ證券銀行ヲ設立セントスルモ之ヲ許可セス又現在ノ證券銀行ハ一般ノ制限內ニ立タシムルノ外各個特別

ノ條件ニ服セシム就中證券發行ノ權ハ千八百九十一年一月一日マテ繼續セシメ其後ハ每十年ノ豫告ヲ以テ之ヲ廢スト定メタリ(七十)銀行ニシテ此條規ニ服スルヲ要セサルモノハ單ニ其所屬政府ノ許可ヲ得テ其國ノ範圍內ニ限リ證券ヲ發行シ銀行營業ヲ爲スコトヲ得ルノミ(七十一)

在伯林獨逸銀行ハ獨逸國內ノ金融ヲ整理シ支拂ノ差引勘定ヲ容易ナラシメ資金ノ利用ニ配慮スルヲ以テ其責任トナス(七十二)該銀行ハ千貳百萬「マルク」ノ資本金ヲ以テ組織シタル一ノ合本會社ナリ(七十三)然レトモ其權利義務公法ニ屬スルト(七十四)其占有スル特權並ニ帝國政府トノ關係アルトニ由リ營業上一種ノ特別地位ヲ有セリ今此ニ其特權ヲ擧ケンニ國稅ノ免除法人ノ資格及需要ニ應シ證券ヲ發行スルノ權利等是レナリ但シ其證券發行ニ對シテ必ス發行高ノ三分一ハ時價アル貨幣若クハ地金銀若クハ通貨ヲ以テ引換準備ニ供シ三分二ハ割引シタル爲替手形ヲ以テ引換ノ準備トナサヽルヘカラス(七十五)又帝國政府ハ該銀行益金ノ一部ヲ領收シ千八百九十一年一月一日ニ至レハ其銀行ヲ官有ニ爲シ其後ハ一年前ノ告知ヲ以テ每十年ニ之ヲ爲スノ權並監督指揮ヲ爲スノ權ヲ保有ス(七十六)銀行益金ノ領收ハ銀行視察官之ヲ掌理シ銀行ノ監督指揮ハ帝國宰相ノ下ニアル帝國銀行事務官之ヲ施行ス(七十七)之ニ反シテ帝國銀行ノ株主ハ其總會ト中央委員及地方委員トヲシテ銀行事業ヲ監査セシム

(七十八)帝國銀行ハ都會ノ地ニ部ヲ置キ其他ノ地方ニ局ヲ置キ部及局ノ下ニ支局ヲ置ク(七十九)

(原註)(二十九)本書第二一四條乃至二一七條並第一九八條第三ヲ見ヨ○(三十)爲替法ニ關シテハ一八六九年ノ聯邦法令全書三八二葉ヲ見ヨ○(三十一)一八六九年六月五日ノ法律○(三十二)爲替法第四條乃至七條「爲替手形ノ本書及副書ニ就テハ爲替法第六六條乃至七二條、ヲ遺失シタル爲替手形ノ償還ニ就テハ同法第七三條及七四條ヲ、爲替印稅ニ關シテハ本書第一五六條ヲ見ヨ○(三十三)爲替法第一條、八條、八四條、贋造爲替第七五條、七六條期滿効第七七條乃至八○條○(三十四)、本書第一九八條ノ註文六十五○(三十五)爲替法第二條及三條○(三十六)本書第一九七條第一、爲替法第八一條乃至八三條○(三十七)爲替法第九六條乃至一○○條○(三十八)爲替法第二條第四條乃至第九四條○(三十九)同上第九條乃至第一七條○(四十)同上第一八條乃至二○條、九一條乃至九三條○(四十一)同上第二一條乃至二四條○(四十二)同上第三○條乃至四○條○(四十三)爲替法第五六條乃至六五條○(四十四)同上第一八條、四一條、八七條乃至九○條」一八七六年四月二十一日ノ法律「公證人ノ外、裁判書記及裁判執行人モ亦其職權アリ本書第一八九條○(四十五)爲替法第二五乃至二九條、四一條乃至五五條○(四十六)一八六七年十一月十四日ノ職邦法律○(四十七)刑法第三○一條、三○二條○(四十八)一八八○年五月二十四日ノ法律○(四十九)營業條例第五六條甲ノ二○(五十)本書第一九八條ノ註文六十八○(五十一)一八三三年六月十七日ノ法律「賣還ノ原則一八七五年三月二十二日ノ達○(五十二)本書第三二○條○(五十三)一八三五年六月十六日ノ法律、亞一八四三年五月四日ノ二法律、新附諸州ニ在テハ一八六七年八月十六日ノ勅令○(五十四)其規定ハ概シテ允許證ニ基由ス○(五十五)貯金所ヲ貸付所ニ用ヒル事本書第三一三條、信用組合本書第三二一條○(五十六)地益銀行本書第三三一條第二、土地改良資金本書第三三四條、農業上ノ資本、貸付所本書第三三五條、坑業補助金庫本書第三二四條ノ註文三十八○(五十七)本書第三五○條第二ノ三○(五十八)一八八一年三月十七日ノ法律第一九條乃至二二條佰林府ニハ貸付官ヲ置キ別ニ市府、貸付所ノ設置ナシ一八三四年二月二十五日ノ內閣令(ツヒ)墨西ニハ地方自治体ノ設立物トシテカツセルニ貸付所、フルダニ貸付及抵當扱所、ハナウニ貸付銀行アリ一八七二年四月十日ノ法律○(五十九)一八七五年七月八日ノ法律第八條及九條○(六十)其權利義務ハ商法ノ規定ニ依ル○(六十一)是ニ依テ銀行證券ハ紙幣ノ代用ヲナス本書第一六八條殊ニ其註文三十四ヲ見ヨ○(六十二)獨リ一八二四年ノ創設ニ係リ一八七八年解散シタルオステツヤン私設貴族銀行ハ此外タリ○(六十三)帝國憲法第四條四項○(六十四)一八七五年三月十四日ノ帝國銀行條例○(六十五)同上第六一條乃至六五條及一八七五年五月十七日ノ條約○(六十六)英國銀行ハ漸次銀行證券ノ發行ヲ中央ニ集攬シ殊ニピールノ條例(一八四四年)ヲ以テ其目的ヲ達シタリ佛國モ亦同樣ノ方法ニ依リ地方ノ銀行ヲ廢シタリ(一八四八年)○(六十七)帝國銀行條例第一條乃至八條、五八條及五九條銀行證券ニ對シテ刑法ハ正貨ト同一ノ保護ヲ爲ス本書第三六二條ノ註文七八條及七九條○(六十八)帝國銀行條例第一一條及五七條○(六十九)同上第四四條乃至五四條、罰則第五九條○(七十)同上第九條、十條、罰則第五六條、五八條)○(七十一)同上第一二條乃至一五條○

（七十三）仝上第二三條〇（七十四）同上第四〇條及一八七五年五月二十一日ノ規約〇（七十五）仝上第一六條乃至二一條〇（七十六）同上第二二條、二四條及四一條「銀行ヨリ帝國々庫ニ納ムル利益金ハ一八八五年ノ豫算ニ依レハ二百五拾萬「マルク」ナリ〇（七十七）同上第二五條乃至二九條、三八條、三九條「帝國銀行官吏同第二三條〇（七十八）同上第三〇條乃至三六條及三九條〇（七十九）同上第三六條乃至三八條」現今十七部、四十四局百三十四支局並司令部二ヶ所、物品預リ所二十二ヶ所アリ

第四章　經濟上ノ會社組合

結社組合ハ大規摸ノ營業發達スルニ從ヒ產業ヲ振起スルニ缺クヘカラサルモノタリ其最普通ナル（八十）モノハ合本會社及組合ナリトス

第三百二十條（甲）合本會社ハ其事業商業ニ屬スルモノニ限リ既ニ商法ノ發布ニ依リ之カ整理ヲ得タリ其後商法中合本會社ニ係ル原則ハ諸般ノ變改ヲ經テ殊ニ實際施行スヘカラサル政府ノ認許及監督ヲ廢シテ之ヲ一切ノ合本會社ニ擴充シタリ（八十一）然ルニ此時ヨリ以後兩三年間經濟社會ニ狂熱ヲ發シテ無數ノ合本會社ヲ產出シ而カモ其會社ハ確實ノ根基ヲ缺キタルカ爲メ忽チニシテ土崩瓦解シ幾萬ノ株主ニ大損害ヲ加ヘ從テ產業社會一般ヲ痛ク障害セリ是ニ依テ輓近制會ノ會社法ハ會社創立者及役員ノ責任ヲ重クシ嚴ナル監督ヲ施シテ其事業ヲ堅牢ナラシメ以テ彼ノ合本會社及差金會社等ノ創立及管理ニ際シテ往々生來スル弊害ヲ防遏センコトヲ期セリ（八十二）

合本會社ハ社員タル者ノ責任ヲ其出金額ニ止メ其全財產ニ及ホサヽルモノタリ而シテ會社ノ資本ハ之ヲ幾多ノ株ニ分チ各個ノ株ハ復分割スヘカラサルモノトナシ且ツ之ヲ記名トナシ又ハ無記名トナス一株ノ金額ハ一千「マルク」ヨリ降ルヘカラサルヲ例トス唯希レニ殉ニ記名株券ニ在テハ二百「マルク」マテヲ最下限トナスコトアルノミ（八十三）凡テ合本會社ハ商法ニ記載スル商人ノ資格及法人ノ權利ヲ有ス（八十四）會社規約ニ對シテハ一定ノ準則アリテ之ヲ確定スルニハ社員（發起人）五名以上ヨリ裁判所若クハ公證人ノ證明ヲ得サルヘカラス又其準則ノ履行ヲ監視スルカ爲メ新定ノ規約ハ裁判所ニ出シテ商業登記簿ニ記入セシムヘシ會社ノ資本ハ豫メ之ヲ確定シ而シテ創立者ニ於テ其全額ヲ擔當セサルトキハ開業前株主ノ宣言書ヲ得テ株金ノ內二割五分以上ノ現拂ヲ了ヘサルヘカラス此株主全額ノ拂込ヲ終ル後ニアラサレハ資本ノ增額ヲ爲スヲ得ス又會社自ラ其株券ヲ買入レテ資本ノ減額ヲ爲スヲ得ス（八十五）株主ノ權利ハ精密ニ確定セサルヘカラス而シテ其權利ヲ保持スルノ機關トシテ株主總會（八十六）及監察會議（八十九）ヲ設置スヘシ反シテ常務ハ擧ケテ役員ニ委任ス（九十）會社ノ解散ハ營業期限ノ滿限、株主ノ決議破產（破產ハ支拂停止ノ場合ハ勿論負債增減ノ時ニ於テスルモノヲ云フ）及他

ノ會社ト合併スル時ニ於テス(九十一)會社法ノ條則ニ觸レタル者ハ特別ノ罰ニ處セラルヽモノトス(九十二)差金會社ハ一身ヲ以テ責ニ任スル社員ト其出金額ノミニ對シテ責ニ任スル株主(九十三)トノ合併ニ成リ以テ巨額ノ資本ヲ集合スルノ外無限責任ノ主務者ヲ置キ之ヲシテ社務ニ當ラシメ以テ事業ヲ營ムモノナリ差金者相互ノ關係ハ合本會社ニ於ル株主相互ノ關係ニ同シク隨テ合本會社ノ株主ニ對シテ定メタル條則ヲ以テ之ヲ規定セリ(九十四)

第三百二十一條(乙)　組合(ゲノツセンシヤフト)　今日經濟上ノ進歩ハ千種萬態ノ事物ヲ生シ彼ノ羅馬法ヵ規定スルカ如キ狹隘ノ區域内ニ於テ何時マテモ拘束セラルヽモノニアラス抑々羅馬法ハ社員ノ責任ヲ無限ニスル會社ト法人ノ權利ヲ享有シテ統全合同スル團結体トヲ認メ其他ノ組合法ヲ知ラサルモノナレ𪜈今其両種ノ會社体ノ中間ニ於テ一種ノ集合体ナルモノヲ生シタリ此種ノ集合体ニ属スル主要ノモノハ商社(九十五)及組合ナリトス顧フニ其組合ノ一種特異ナル所ハ其法人トシテ全体ニ係ル責任ノ外尚組合各員ハ各自ノ責任(補助的連帶義務)ヲ負ヘルノ一事ニアリトス組合裁判所ノ司掌スル組合簿ニ登記セラルヽヲ俟テ其資格ヲ得ルヲ例トス

組合ハ其目的ニ從テ組織ヲ異ニス(九十六)然レ𪜈其最普通ニ行ハレルモノハ無資ノ人民ヲ振起シテ資産ヲ得セシメンカ爲メ設立スル所ノ産業組合及經濟組合ノ組織ナリ斯ノ如キ組合ハ其公益上ノ目的ヲ遂ラサラシメンカ爲メ律法上ノ根基ヲ有セサルヘカラス(九十七)今其法律上ノ根基ヲ擧ケレハ左ノ如シ

(甲)　組合員タル者ノ信用所得若クハ經濟ヲ進ムルカ爲メ共同營業ヲ爲ス事組合員ノ數ニ制限ナシ(九十八)組合外ノ者ニ規約ヲ適用スルモ組合ノ資格ヲ失ハス(九十九)

(乙)　屋號ヲ定メ並ニ一定ノ式ニ準據シタル規約ヲ設ル事(百)

(丙)區裁判所ノ司掌スル組合簿ニ登起セラルヽ事(百一)

斯ノ如ク組織シタル組合ハ其私法上ノ關係ニ於テ商法ノ下ニ立ツ所ノ法人トナリ且ツ組合員ノ連帶義務アルニ依リ(百二)其信用ヲ鞏固ニスルコトヲ得

組合ハ役員ヲ置キテ全体ヲ代表セシメ(百三)又役員ノ側ラニ監察會議ヲ置キ常務ヲ監査セシムルコトヲ得(百四)役員ハ組合員ノ總會ヲ召集セサルヘカラス(百五)組合ハ政府ノ先許及監督ヲ受ルコトナシ

組合ハ破産(百六)若クハ解散ノ場合ニ於テ終止スルモノトス解散ハ一定ノ期限滿ルトキ又ハ自己ノ決議ニ由リ又ハ違法ノ處置(百七)殊ニ社會民主黨ノ目的ニ從事スルノ故ヲ以テ裁判上ノ判決ヲ受ケタルトキニ於テス(百八)組合解散後財産ノ處分ハ別段ノ規則ヲ以テ之ヲ定メタリ(百九)

組合ハ最後ノ二十年間ニ非常ノ增加ヲ爲シ甚タ隆盛ノ域ニ達シタリ(百十)殊ニ廣ク行ハレタルモノハ貯金事務ヲ兼ネタル信用組合及前拂協會ナリ之ニ次ク者ハ消費組合トス此等ノ組合及住宅ノ占得ヲ目的トスル協會ハ一般ノ福利ヲ增スノ目的ヲ有スルニ此外ニ小工業者ノ利益ヲ進ムルカ爲メ設立シタル原料協會及販賣店協會並共同シテ貨物ノ製造及販賣ニ從事スル生產組合アリ此等ハ都ヘテ專ラ各自ノ職業ヲ利スルモノタリ顧フニ此組合法ハ小營業者ニ大製造業ト同樣ノ利便ヲ與ヘ以テ之カ競爭ニ堪ヘシムルノ故ヲ以テ今日經濟上ノ進步ニ併發シタル弊害ノ幾分ヲ排除スルモノト謂フヘシ然レ𪜈組合ノ起ルヤ一定ノ條件アルニ依リ各地必シモ同一ナラサルカ故ニ今日經濟上ノ弊害ヲ全ク除去スルハ組合ノ力能ク及フ所ニアラス

(原註)(八十)特別ノ休裁ヲ有スルハ採礦組合(本書第三二三條第四)同業組合(本書第三五二條)商社本書第三五九條)及鐵道會社(本書第三七三條)トス尙註文九十六ヲ見ヨ○(八十一)一八七〇年六月十一日ノ法律「設立許可ノ制ハ合本會社ニ對シテ廢シタルノミ故ニ設立ノ目的ニ由リ別段ノ許可ヲ要スルモノアリ例之ハ保險會社(本書第三一四條)鐵道會社(本書第三七三條)並無記名證券ヲ發行スル會社(本書第三一七條)ノ如キハ固ヨリ許可ヲ受ケサルヘカラス○(八十二)一八八四年七月十八日ノ法律」此ニ依リ商法ハ其第二卷第二編第三章及第三編(第一七三條乃至二四九條甲)ノ主意ヲ變セリ○(八十三)同上法律第二〇七條、二〇七條甲及二一五條丙○(八十四)同上第二〇八條及二一三條」不動產ノ登記ニ關シテハ孛國ノ商法實施規則第二十三條ヲ地方稅ニ關シテハ本書第七〇四條ヲ見ヨ」法律ヲ奉シテ設立シタル合本會社及商社ノ權利殊ニ訴權ハ獨露兩國間ノ交通ニ於テ双方ノ政府ヨリ之ヲ認ムトノ條約アリ一八八五年八月二十二日ノ告示○(八十五)一八八四年ノ法律第二〇九條乃至第二一六條乃至二二三條、創立者ニ對スル權利第二一〇條七、八、及第二一三條一乃至六○(八十六)同上第二二四條乃至二二六條○(九十)同上第二二七條乃至二二九條○(八十九)同上第二三六條乃至二四〇條○(九十一)一八八四年ノ法律第二四一條、實施規則第一二條六項○(九十二)一八八四年ノ法律第二四二條乃至二四八條、實施規則第一三條及二四條並倒產法第一九三條、一九四條及二一四條○(九十三)一八八四年ノ法律第二四九條乃至二四九條七○(九十三)株主ノ定義本書第三五九條第四、地方稅ノ義務本書第七七條第一項○(九十四)一八八四年ノ法律第一七三條乃至二〇六條甲、實施規則第一三條、二三條、及二四條並倒產法第一九八條乃至二〇一條)一八八四年ノ法律ニ於ル差金會社ノ規定ハ商法ノ定ムル所ト同シク普通ノ差金會社ヲ標準トナセリ○(九十六)用水組合本書第三三六條第三、漁業組合同第四○(九十六)本書第三五九條第三四八條、山林組合第三三九條第六、災害保險上ノ營業組合同第三五四條第三○(九十七)一八六八年七月四日ノ法律○(九十八)同上法律第一條○(九十九)一八七一年五月十九日ノ公布○(百)一八六八年七月四日ノ法律第二條三條及六條○(百一)同上第四條乃至八條」裁判所ノ管掌同上第七十條及一八七八年四月二十四日ノ法律第二十五條、三十條、六十九條及百條、區裁判所ノ職權一八六八年七月四日ノ法律第六六條乃至六八條、六七九年三月二十四日ノ法

律第二十八條及一八六八年十二月十七日ノ訓令、費用一八六八年七月四日ノ法律第六九條及一八七九年三月十日ノ法律第十三條十五條及十六條〇(百二)一八六八年七月四日ノ法律第十一條及十二條(組合ハ公法ノ團結体ニアラス故ニ郡稅ヲ納ムルノ義務ヲ有セス一八八〇年九月十三日ノ上等行政裁判所判決ニ依ル)其町村稅納付義務ニ關シテハ本書第七七條第四ヲ見ヨ其他ノ權利一八六八年七月四日ノ法律第九條、十條、十三條乃至十六條組合ニ對スル訴訟ノ期滿効同上第六三條乃至六五條〇(百三)同上法律第十七條乃至二七條及三三條〇(百四)同上第二八條乃至三三條〇(百五)同上第三一條乃至三三條〇(百六)同上第三四條、三七條、倒産法第一九五條乃至一九七條及二一四條〇(百七)一八六八年七月四日ノ法律第三四條、及三六條〇(百八)一八七八年七月四日ノ法律第二條〇(百九)一八六八年七月四日ノ法律第四〇條乃至五〇條及五二條乃至六二條(第五一條ハ廢止ス)〇(百十)此組合ハ概シテ皆シュルツエ、デリッツ氏ノ起案シタル原則ニ則レリ一八八二年ノ調査ニ依レハ其數大凡ソ三千五百ニ上リ組合員ノ數ハ一百萬ニ達セリ」ライファイゼン氏ノ方案ニ依リテ設立シタル貸附金庫(七百ケ所)ハ組合員ヲ制限シ(百人乃至二百五十人)且ツ一小地方ノ區域内ニ行ハルヘキモノナルヲ以テ特ニ邑村ニ適セリ

第三　採礦冶金(一)

第一章　總論

第三百二十二條　採礦權ハ當初土地所有權ト合同一致シテ彼此區別ヲ爲サス、リシカ

土中ニ現存スル礦物ハ一定ノ秩序規律ヲ守リテ之ヲ堀採スルノ必要ヲ感シタル以來此二權ヲ分別シ既ニ十二世紀ノ時ヨ皇帝及國主ハ採礦權ヲ君主ノ特有權トナシ之ヲ占得シタリ(二)爾後此權ヲ臣民ニ許與シタルモノナルヲ以テ特ニ邑村ニ適セリ物產ヲ搜索スルノ權即採礦權ナルモノ一般ニ行ハレルコト、ナレリ(採礦業自由ノ宣告)斯ノ如ク採礦業ノ特有權消滅スルニ從ヒ國家ハ其自己ノ礦山ヲ管理スルノ外唯一般ノ抗業ヲ監督シ之ニ稅ヲ課スルノミ而シテ其監督權ト課稅權トハ礦山ノ事業タル元ト特異ノモノタルニ依リ特別ノ規定ニ依ラサルヘカラス(三)

第三百二十三條　國ハ古來施行シタル區々ノ規則及間々陳腐ニ屬シタル舊規ヲ廢シ(四)之ニ代ルニ普通(レガリテーツプリン)抗法ヲ以テシタリ(五)此普通抗法ハ舊時ノ特有權主義ヲ棄却シ坑脈發見者ノ特權ト抗業自由ノ原則トヲ充分ニ實行セシメ其他經濟上ノ顧慮ヲ去リ單ニ警察上ヨリ坑業ヲ監察スルコト、ナシ以テ私有礦山ニ完全ナル獨立ヲ得セシメタリ」坑法ニ於テ認ムル堀採物ハ經濟上貴重ノ礦物ナルノミ即チ金、銀、水銀、鐵、鉛、銅、錫、亞鉛、哥拔爾、土、尼傑爾、砒石、滿俺、安質母尼、硫黃、明礬、錄礬、石炭、褐炭、「グラヒート」、石鹽並ニ「アブラウム」鹽石(鹽ノ上層)及鹽泉是レナリ(六)

礦山官廳ハ抗業ノ監督ト財務ヲ兼掌シ上中下三級ノ別ヲ設ク工部省中第一局ハ礦

山ノ事務ヲ司掌シ(七)工部大臣ノ下ニ縣廳ト同地位ノ上等礦山官(八)アリ其次ニ礦山區官アリ(九)又官抗ノ管理ニ在テハ礦山視察官、礦山管理官（サールブルユッケン府ニアリ）製鍊官及冶金官アリ此等官廳ノ審判ニ不服ナル者ハ其上庁ノ廳ニ抗告スルコトヲ得其抗告ハ四週間以內ニ爲サヽルヘカラス而シテ其事件若シ原被告ノ爭論裁定ニ係ルトキ又ハ上等礦山官ノ指令ニ係ルトキハ訴願ヲ受クヘキ官廳ニ向テ之ヲ爲スヘキモノトス(十)費用ハ行政上ノ手續ニ依リ徵收ス(十一)礦山官ハ自已ノ管轄區內ニ於テ礦山ヲ占得シ又ハ採鑛社ノ社員タルコトヲ得ス其管轄區外ニ於テスルトキハ工部大臣ノ許可ヲ受ケサルヘカラス(十二)礦山官ハ特別ノ學識技藝ヲ要スルカ爲メ(十三)其高等官トナル者ハ礦山大學校ニ於テ(十四)其下等官トナル者ハ礦山學校ニ於テ(十五)相當ノ敎育ヲ受ケサルヘカラス

（原註）(一)鑛山產物ハ他ノ巖石中ニ「ラーゲル」ヲ爲シ又ハ層ヲナシテ存シ其容積ニ大小種々ノ別アリ之ヲ採ルニ直接ニ地中ヨリ堀ルコトアリ或ハ穿坑ヲ設ルコトアリ縱直ノ穿坑ハ「シヤハテ」ト言ヒ橫設ノ穿坑ハ「ストルレン」ト稱ス鑛山產物ノ製鍊ニ關シテハ下ノ註文三十六ヲ見ヨ○(二)本書第一三〇條○(三)本書第三二四條○(四)十二種ノ州坑法ノ外普通法典(第三卷一六編四章)及普通法ノ規定アリテ州坑法ヲ補充ス萊因左岸ノ地方ニ於テハ全ク他ノ原則ニ根據シタル一八一〇年四月二十一日ノ佛蘭西法律ヲ施行ス○(五)一八六五年六月二十四日ノ普通坑法、此法律ハ漸次獨逸ノ諸國ニ於テ採用スル所トナリ今ハ獨逸

一般ノ坑法ノ基礎トナレリ此法律ニ對シテクロストルマン氏ノ註釋(一八八五年伯林刊行第四版)アリ就テ見ルヘシ○(六)普通坑法第一條「地方ニ由テ法律ヲ異ニスルモノ左ノ如シ(イ)東孛漏生州ニ於テハ琥珀ノ特有權ヲ施行スル地方(本書第一七〇條ノ註文五十)ニ於テハ普通坑法ノ一部ヲ施行ス本書第一三一條、(ロ)西孛漏生州法ヲ施行スル第二一〇條、(ハ)公領シレージエン及グラッツ並新前ポンメルン州及ホーヘンツオルレルン州ノ鐵坑ニハ普通坑法ヲ適用セス、該法第二一一條、(ニ)舊索遊領地ノ石炭及褐炭坑ハ一八六九年二月二十二日ノ法律ニ依リ專ラ土地所有者ノ處分權ニ服ス(ホ)ハノーフル州ノ石鹽及鹽泉モ亦上ニ同シ一八六七年五月八日ノ勅令第二條、(ヘ)萊因左岸ノ磐石「ツツフスタイン」及地下磨石ノ伐採ハ礦山官署ノ監察ヲ受ク」ナツソウ州ノ磐石伐採ハ普通坑法ニ服ス一八六七年二月二十二日ノ勅令第二條○(七)本書第五一條○(八)普通坑法第一八七條一八八條及一二〇條」上等鑛山官ノ長(鑛山大尉)及上等鑛山官ハ縣知事及縣廳ノ僚員ト同等ナリ本書第七〇條」○(九)普通坑法第一八七條乃至一八九條○(十)同上第一九一條乃至一九三條○(十一)同上第一九四條、手數料ノ癈止一八六〇年五月二十一日ノ法律○(十二)普通坑法第一九五條○(十三)一八八三年九月十二日ノ規則○(十四)鑛山大學校ハクラウスタール、伯林及アーヘンニ於テハ工藝大學校ノ一部タリ(本書第三五五條ノ註文三)在伯林鑛山大學校ト連結シテ學問上及經濟上ノ爲メ國內ノ地質ヲ調査スヘキ地質局及工藝化學試驗所アリ一八八〇年一月二十三日ノ規則監察委員本書第三五五條ノ註文三○(十五)鑛山學校ハタルノウ井ツ、ウワルデンブルヒ、アイスレーベン、グラウス

ダール、エッセン、ボーヒウム、ジーゲン、ザルレンブルヒ、及ザープリユッケンニ在リ其內一部ハ豫備校ヲ有スルモノアリ

第二章　礦坑所有權

第三百二十三條　礦坑所有權ハ土地所有ヨリ別離シタル不動產所有權ニシテ(十六)民法抵當法及訴訟法(十七)ノ通則ニ服スルノ外又特ニ坑法ノ條則ニ支配セラル、者トス何人ニ限ラス法律上ノ條件ノ下ニ在テ礦物ヲ搜索スルノ權ヲ有スルニ依リ(十八)若シ之ヲ發見スルトキハ礦坑所有權ノ附與ヲ政府ニ請求スルコトヲ得ヘシ(十九)其附與ハ相當ノ坑區ヲ示定シタル證書ヲ以テス(二十)坑區ハ所有權ノ附與ヲ請求スル者ノ申立ニ依リテ之ヲ測量ス(二十一)數多ノ礦坑ヲ合一スルニハ上等礦山官ノ認可ヲ得ルヲ要ス(二十二)一區ヲ數多ノ獨立區ニ分割スル時若クハ近隣坑區ト礦坑ヲ交換スル時モ亦其認可ヲ得ルヲ要ス(二十三)

礦坑所有權ハ坑區證ニ記載セラレタル礦物ヲ堀採シ其堀採及製練ニ必要ナル施設就中補助ノ建物ヲ搆造シ並必要ノ地所讓與ヲ請求スルノ諸權利ヲ包括ス(二十四)地所ノ讓與ハ一般ノ土地收用令ニ異ナル特別ノ規則(二十五)ニ從テ之ヲ爲ス又礦山營業ノ爲メ若クハ礦物搜索ノ爲メ土地所有者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ辨償セサルヘカラス(二十六)交通上ノ施設(鐵道、運河、街路)ヲ開クトキハ礦山營業者之ニ異議ヲ容ルコトヲ得ス但シ豫メ礦山營業ノ額ヲ減スルコトアレハ之カ陪償ヲナサヽルヘカラス

一ノ鑛山ニ於テ坑業ニ從事スル者數名合同シテ一ノ坑業組合ヲ組織スルトキハ其組合ハ法人ノ權利ヲ有シ法律ノ範圍內ニ於テ獨立ノ規約ヲ設定スルコトヲ得(二十八)其組合ノ株ハ百株(希レニ千株)ニ分チ且ツ交通取引ヲ容易ナラシメ信用ヲ高ムルカ爲メ其株ニ動產ノ性質ヲ附ス組合員ハ所有株ノ多寡ニ應シテ利益ノ配當ヲ受ケ及損害ヲ分擔ス組合員ハ又每年一定ノ助成金ヲ納メ且ツ其全資產ヲ以テ責ニ任ス(二十九)組合ノ決議ハ總會ニ於テ之ヲ爲シ發言權ハ持株ノ數ニ從テ多寡アリ(三十)組合ヲ代表セシムル爲メ內國住居ノ代理員一名若クハ役員數名ヲ撰任ス(三十一)此組合ハ採礦會社ノ原型ヲ表スルモノニシテ坑業特異ノ需要ニ適應スル特別ノ法理ヲ有ス其合本會社ト異ナル所ハ豫メ資本額ヲ算シ難キカ故ニ一定ノ資本ヲ社員ヨリ前拂セシムルノ代リニ年々一定ノ助成金ヲ拂ハシメ而シテ組合員ニ負ハシムルニ無限責任ヲ以テスルニアリ但其責任ハ株ヲ返還スルハ免レルコトヲ得ルナリ(三十三)

礦坑所有權ハ礦坑所有者之ヲ拋棄スルカ又ハ公益ヲ顧ミスシテ其礦坑ヲ利用セサルトキハ廢止スルモノトス之ヲ廢止スルトキハ彼ノ所有權及利用權ヲ均シク保護スル手續ヲ履行スルモノトス(三十四)

(原註)普通坑法第一條及五〇條〇(十七)同上第五二條、五三條改定第二四二條及二四六條(第二四七條ハ廢止セリ)尚本書第一九八條ノ三、第二一五條ノ五及第二一六條(就中註文二十二ヲ參考セヨ)〇(十八)普通坑法第三條乃至一一條〇(十九)同上第一二條乃至二一條乃至二一五條乃至二二一條、世襲横坑、自由株及二條乃至三八條)現在ノ坑區ヲ變改スルコト第二一五條乃至二二一條、世襲横坑、自由株及共同坑權第二二三條乃至二二五條、坑窟及附屬裝置アル坑區ハ「ツェツヒヘ」ト稱ス〇(二十一)同上第三九條、四〇條(測量ハ礦坑測量師ヲシテ之ヲ爲サシム、該測量師ノ試驗及認許ニ關スル規則ニ從フ)第一九〇條及營業條例第三四條第三、礦坑測量ノ營業一八七一年十二月二十一日ノ規則〇(二十二)普通坑法第四一條乃至四九條〇(二十三)同上第五一條〇(二十四)同上第五四條乃至六四條(排水裝置ヲ設ルニ當リ之カ認許ヲ請フ事ハ地方自治ノ權限法第一〇條第二項及一一三條ニ詳カナリ)〇(二十五)其原則ハ普通坑法第一一三五條乃至二四一條ニ載ス手續ハ同上第一四二條乃至一四、七條ニ載ス〇(二十六)普通坑法第一四八條乃至一五二條〇(二十七)同上第一五三條乃至一五五條其意見ヲ聞クノ手續一八六七年七月十三日ノ省令及一八六八年七月二十一日ノ省令〇(二十八)普通坑法第九四條乃至一〇〇條(現在ノ礦坑ヲ新式ニ改ムルコト同上第二二六條乃至二四〇條及一八七八年四月九日ノ法律(地方稅ヲ納ムヘキ義務ト書第七七條四〇(二十九)普通坑法第一〇一條乃至一一〇條及一二九條乃至一三二條〇(三十)同上第一一一條乃至一一六條〇(三十一)同上第一一七條乃至一二八條〇(三十二)同上第一三三條一三四條〇(三十三)同上第九九條一〇二條及一三〇條〇(三十四)同上第六五條、一五六條乃至一六四條、一八八三年七月十三日ノ法律、殊ニ其第一八〇條三及一八六條

第三章　採礦營業

第三百二十四條　採礦業ニ官業ト私業ノ二種アリ(三十五)官ノ採礦業ハ之ニ連帶スル治金事業(三十六)ト同シク一般ノ礦山官ニ於テ之ヲ管掌ス但シ坑法ノ條則ニ準據スヘキハ私業ニ異ナラス(三十七)

私礦業ハ一ノ營業トメ政府ノ保護及奬勵ヲ求ムルノ權ヲ有ス(三十八)然レトモ亦納稅ノ義務ヲ有シ(三十九)及警察上ノ監察ヲ受ケサル可ラス警察上ノ監察ハ唯公共利益ノ保護ヲ目的トスルニアルノミ故ニ營業ノ便否利害ハ警察上問ハサル者トス鑛山警察ハ造營ノ安全、生命ノ保護、坑夫ノ健康、人身及公共交通ノ危害ニ係ル地上ノ安全並採礦業ヨリ一般ニ及ホス所ノ危險ノ豫防ヲ目的トス爲ス鑛山警察ハ此制限内ニ於テ又製錬場蒸滊鑵風車及製塩場ニ及フ者トス(四十)礦坑持主ハ其營業規程及休業ヲ警察官ニ申告セサルヘカラス(四十一)其他、業務ヲ擔當スル者ハ鑛山官廳ニ於テ相當ノ技術者ト認メラレタル人ニ限ルトス(四十二)上等鑛山官ハ鑛山警察ニ關シテ一般ノ警察令(四十三)若クハ個々ノ場合ニ對スル警察令ヲ發布スルコトヲ得、而シテ其警察令ハ緊急ヲ要スル場合ニ於テ義務者ニ費用ヲ負擔セシメ第三者ヲシテ施行セシムルコトヲ得ルナリ(四十四)危險又ハ災害ノ起ル場合ニ於テ作業塲長ハ急報ヲ爲シ礦坑持主ハ救助ヲ爲シ且ツ之カ費用ヲ負擔スルノ義務アリトス(四十五)違警罪ハ總テ裁判所ノ判決ニ

歸シ警察上ノ處罰ハ之ヲ許サス（四十六）

（原註）（三十五）孛國採礦業ノ一覽表左ノ如シ

事業	全數（千八百八十三年）				全數ノ內官業			
	個數	產額		職工	個數	產額		職工
		噸數	價格			噸數	價格	
採鑛	一八一八※	六九、二三一、〇〇〇	三六八、〇〇〇、〇〇〇マルク	二八四、二七〇八	五〇	一〇、二九九、〇〇〇	七四、〇〇〇、〇〇〇マルク	四三、九九六人
石材伐出	—	—	—	—	九	一八、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇マルク	九六五人
冶金製壜	二八八※※	（十）	（十）	（十）	一三	六九、〇〇〇	一九、〇〇〇、〇〇〇マルク	三、〇〇二人
合計	五九	四二五、〇〇〇	二三、〇〇〇、〇〇〇マルク	三、〇六五	六	二三、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇マルク	九〇九人
					七八	一〇、五〇九、〇〇〇㊟	九七、〇〇〇、〇〇〇	四八、八七二人

※其內三九五個ハ石炭、四三八個ハ褐炭、七一八個ハ鐵鑛ナリ

※※其內一〇七四ケ所ハ鋼鐵及鐵ノ製鍊場ナリ

（十）獨逸帝國ノ爲メ統計ヲ徵スルニ依リ孛國ノ爲メ完全ノ計數ヲ得難シ

（キ）其外ニ三四四、〇五九立方「メートル」ノ石材アリ

概シテ言ヘハ礦業產物ハ從前ヨリモ增額シタレ𪜈其代價ハ低落シタリ官有礦山ハ千八百八十五年度ノ豫算ニ於テ千八百萬「マルク」ノ純益アリタリ〇（三十六）冶金場ニ於テハ異成分ヲ混合スル礦物ヲ分解シテ其異成分ヲ除去スル之ヲ爲スニハ碎礦器械ヲ以テ礦物ヲ破碎シ又ハ之ヲ溶解シ又ハ鎔鑛爐ニ入レテ鎔解シ又ハ壓搾器械ヲ以テ壓搾ス〇（三十七）普通坑法第二條〇（三十八）施設物ヲ損害スルノ罰、刑法第三二一條「採礦業ノ奬勵ハ保護稅ヲ以テス本書第一五九條第二「其他ノ奬勵方ハ礦業補助金庫ナリ此金庫ハ一定ノ區域ヲ礦山賦金ヲ以テ之ヲ組成シ礦坑持主ヲシテ上等鑛山官ノ監督ノ下ニ在テ之ヲ管理セシム其目的ハ鑛業ノ奬勵及貸金ヲ爲スニアリ一八六三年六月五日ノ法律及普通坑法第二四五條〇（三十九）本書第一四五條〇（四十）普通坑法第一九六條、改定第五八條及五九條〇（四十一）同上第六六條乃至七二條、統計表ヲ出スヘキ義務ヲ上第七九條〇（四十二）同上第七三條乃至七八條〇（四十三）同上第一九七條及二〇八條〇（四十四）同上第一九八條乃至二〇三條」採礦、洗礦、碎礦ノ爲メ排水裝置及蒸氣鑵ヲ設ルノ認許並ニ蒸氣鑵ノ撿查本書第三五〇條第一及第二〇（四十五）普通坑法第二〇三條乃至二〇六條〇（四十六）同上第二〇七條乃至二〇九條

第七章　採礦及冶金ノ職工（四十七）

第三百二十五條　（甲）採礦冶金業ニ於ル雇主ト職工ノ關係ハ自由契約ニ依リ定ムルモノトス（四十八）但シ其解雇及解雇證書ノ調製ニ關シテ二三特別ノ規則アリ（四十九）其他營業條例中賃錢ノ代リニ物品ヲ支給スル事營業、視察官婦女兒童ノ勞働ニ關スル條則

ハ礦業製鹽業冶金場ノ持主及職工ニモ亦適用スヘキモノトス（五十）辨償義務モ製造場持主ニ異ナルコトナシ（五十一）

第三百二十六條　（乙）採礦業ニ隨伴スル危險ハ獨逸國內礦業ノ開ケタル地ニハ必ス之ヲ救助スヘキ特別ノ組合ヲ喚起シタリ是則坑夫組合（クナップシャフト稱スルモノツフエルアイン）ニシテ今日尙依然トシテ存在ス此組合ハ業主及勞働者ノ法律上加盟スヘキ義務及助成金納付義務ニ基キテ組織シ認可ヲ經タル規約ヲ設ケ法人ノ權利ヲ有ス（五十二）而シテ組合員ニ係ル療病費、埋葬費、大過失ナクシテ勞働ノ能力ヲ失ヒタル者ノ養老金及寡婦孤兒扶助料ハ總ヘテ組合ヨリ支給ス但シ療病費擔保ノ事ハ別ニ之ヲ設定スルコトヲ得ルモ此場合ニ於テハ一般ノ疾病保險金庫ノ爲メ規定セラレタル積金義務ヲ履行セサルヘカラス（五十三）該組合ノ事務ハ組合中ヨリ選任シタル役員ヲシテ施行セシム上等鑛山官ノ監察ハ唯其組合規約就中財產管理ノ事ニ及フ而已（五十四）坑夫組合ハ實際ニ於テ甚タ大ナル効益ヲ爲シタリ（五十五）即チ坑業ニ從事スル者就中坑夫ヲシテ啻ニ生計上困迫ノ患ナカラシメタル而已ナラス亦其德義ヲ進メ風習ヲ善クシ雇主トノ關係ヲ圓滑ナラシメタリ故ニ社會民主黨主義ノ影響ハ坑夫中ニ殆ト其痕跡ダモ見サリキ

坑夫ノ爲メ往々消費組合（コンズムフェルアイン）ヲ設ル所アリ就中組合法ニ依リ屋宅ヲ購得セシムルノ方法ハ坑夫社會中ニ盛リニ行ハレルニ至レリ（五十六）

（原註）（四十七）其員數、註文三十五、〇（四十八）普通坑法第八〇條、作業規則同上、職工名簿ノ登記第九三條〇（四十九）同上第八一條乃至八五條及九二條〇（五十）營業條例第一一五條乃至一一九條、一三五條乃至一三九條乙及一五四條第三第四、本書第三五三條營業條例ハ其第六條ニ言ヘル如ク坑法ニ依テ變改スル所ナシ〇（五十一）本書第三五四條第三〇（六十二）坑法第一六五乃至一七〇條及一七四條乃至一七七條坑夫組合ニ助成金ヲ拂入ルヘキ義務ナキ職工ヘハ一般ノ規則ヲ適用ス本書第三五四條〇（五十三）普通坑法第一七一條乃至一七三條及一八八三年六月十五日ノ法律第七四條坑夫組合ヲ災害保險組合ニ應用スルコト一八八四年七月六日ノ法律第九四條〇（五十四）普通坑法第一七八條乃至一八六條〇（五十五）一八八三年ノ終リニ於テ現在ノ坑夫組合ハ八十三個ニシテ三十二萬十九人ノ組合員及大約二千五百萬「マルク」ノ財產ヲ有ス〇（五十六）在ザールブリユッケルレヴヒールノ官有石炭坑ニ於テ此目的ヲ達スル爲メ一八四二年以來屋宅一ケ所ニ付九百「マルク」ノ豫算ヲ以テ三百萬「マルク」ヲ家屋建築補助金ニ充テ一八六五年以來三百萬「マルク」餘ノ貸付ヲ爲シタリ斯ノ如クシテ新造シタル坑夫ノ家屋一八八三年ニ於テ四千七百六十一個ノ多キニ達セリ

〇第四　農業、山林、鳥獸獵及漁業

第一章　總論

第三百二十七條　（甲）定義　農業及山林業ノ目的ハ土地ニ植物ヲ培殖シテ之ヲ利用ス

ルニアリ然レ𪜈二業往々其經營ヲ殊ニスルヲ以テ其間自ラ區別ナカラサル可ラス抑々農業ハ年々其收穫ヲ反覆シ小規摸ノ營業ヲ以テモ尙利益ヲ占得スルコトヲ得殊ニ勞力ヲ用ヒルノ度資本ヲ卸スヘキ度ヨリモ大ナルコト恰モ野菜及ニ三ノ工業植物ノ耕作ニ於ルカ如キ時ハ益々以テ小規摸ノ農業ニシテ利益ヲ收ルコトヲ得ヘシ之ニ反シテ山林ハ數年若クハ數十年ノ後始メテ利益ヲ收得スヘキモノニシテ啻ニ廣大ナル土地ヲ要スル而已ナラス亦巨大ノ資本ヲ卸サヽルヘカラス此理由ト全國經濟上ヨリ山林培養ノ甚タ重要ナルトニ因リ山林經濟ニ關スル國家ノ行務ハ農業ニ於ルヨリモ多端ニシテ且ツ其範圍廣大ナリ農業ニ關シテハ人民ノ私業ヲ保護奬勵スルニ止マルヘキニ山林ニ在テハ國家直接ニ其事業ヲ經營セサルヘカラス山林ヲ官業トスルハ財政上ノ便益ヨリモ一層高尙ノ理由アリテ然ルナリ又假リニ山林ノ經濟ヲ私業ニ委スルコトアルモ國家ヨリ精密ノ干涉ヲ爲サヽルヘカラス(一)(フレジ・ルカラーチスムス)國民一般ノ幸福ニ對シテ農業山林ノ甚タ重要ナル事ハ十八世紀ノ中頃重農主義ノ効力ニ依リ(二)始メテ世ノ注意ヲ喚起シタリ而シテ其奬勵撫育ハ重農主義ノ精神ニ從ヒ主トシテ直接干涉ノ方向ニ進ミタリ然ルニ十九世紀ニ入リ土地所有權ノ制限ヲ解キタル以來各個經濟其獨立ヲ得且ツ(三)農業ニ關スル法律規則、一ニ經濟自由ノ主義ニ傾ムキタリ蓋シ此主義ハ農業及山林業ヲシテ故障ナク發達セシムルノ基礎ヲ造リタルモノニシテ爾來國家ハ唯勸農法ヲ以テ事業ヲ奬勵シ田野山林警察ヲ以テ之ヲ保護スルノ一途ニ止マレリ其他牧蓄鳥獸獵及漁業モ亦農業山林ニ次キテ同一ノ發達ヲ爲シタリ

第三百二十八條　(乙)行政機關、組合及學校　前條ニ記載シタル事件(第三百二十七條第二)ニ對シ農務省中ノ第一局ハ中央廳ヲ爲ス(四)其他ハ土地義務解除事務官、牧馬事務官(五)及普通ノ行政官廳ニ於テ之ヲ管理ス

行政機關ノ外ニ甚タ數多ノ組合アリテ全國ヲ網羅ス(六)其組合ハ一州若クハ數州ニ一ノ本部若クハ中央部(七)ヲ置キ各々其地ノ利害ヲ觀察セシム又旣ニ發達整備セル組合ハ農業中ノ各派專門ニ長スル組合員ナシテ專門部會ヲ設置ス此等組合ノ最上ニ位スルモノハ全國經濟會議(ランデス・エフミーコルレキヲム)ナリ此會議ハ各組合ヨリ三年ノ任期ヲ以テ選擧シタル議員十九名及農務大臣ノ任命シタル議員九名ヨリ成リ技術上ノ顧問トシテ農務大臣ヲ補佐ス(八)

農業ヲ奬勵スル方策トシテ前記組合會議ノ外ニ農學校アリ高等農學校ハ學理ノ講究ヲ主トスレ𪜈(九)尋常ノ農學校ハ中等ノ農地所有者ヲ以テ敎育ノ目的トナス(十)其外ニ下等農學校(耕作敎習所、果木培養學校、牧草耕作學校)アリ此校ハ州自治体ニ於テ之ヲ維持ス(十一)

農政ノ爲メ甚タ貴重ナル補助物ハ農業統計ナリ農業統計ハ千八百七十八年以來獨逸帝國ヲ通シテ一樣ノ形式ニ依リ蒐集スルコト、ナレリ(十二)

(原註)(一)本書第三三九條〇(三)同上第三一二條〇(三)同時ニ農業ニ大ナル進歩ヲ與ヘタリ往時冬穀、夏穀及休作ノ三次交換法ヲ以テスルルニ馬鈴薯耕作ノ盛ニ行ハレ牧草及工業植物ノ培養開ケタル以來自由耕作ノ道起レリ是レ甲期ニ於テハ穀物ヲ作リ乙期ニ於テハ牧草、野菜及工業植物ヲ作リ兩期ニ於テ作物ヲ彼此交換スルノ法ナリ此進歩ト同時ニ火酒製造澱粉製造及糖製造ノ如キ農業上ノ副業モ亦大ニ改良シタリ〇(四)本書第五二條、經濟會議同上第三一二條第六〇(五)同上第三三三條及三四二條第二〇(六)第一着手ハ一八一一年九月十四日ノ勸農令第三九條〇(七)組合ノ本部及中央部ハ孛漏生全國ハ合計十七個アリ〇(八)一八七八年五月一日ノ規則〇(九)高等學校ハ在伯林高等農學校並キヨーニヒスベルヒ、ブレスラウ、ハルレ、キヨツチンゲンノ各大學校ニ付屬スル農學校及在ホッペルスドルフ農業大學院是ナリ一八七七年五月十八日ノ農學校講師規則、一八七七年十一月十七日ノ附則及十二月十二日ノ省令、一八八二年十一月十四日ノ省令〇(十)尋常農學校(一八七五年八月十日ノ規則)ハ全國合計十八個アリ農學教師ノ養成及試驗一八七七年五月九日ノ規則及同年十一月十七日及十二月十二日ノ附則農業進修學校本書第三〇六條第四、其他農業ノ進歩ヲ補スルモノハ在伯林農業博物館、在ポツダム樹木學校(一八八三年三月二十九日ノ規則)、在ヴヰルトパルク園藝教習所、在プラスカウ果樹培養所、(一八六八年七月七日ノ省令)及在ガイゼンハイム果樹及葡萄培養所教習所ナリ山林學校本書第一二五條〇(十二)一八七八年以來獨逸帝國ニ於テハ五年ヲ一期トシテ耕作ノ事ヲ統計シ收穫ノ多寡ハ一「ヘクタール」ニ對スル重量ヲ以テ)每年統計ス一八七八年四月二十四日ノ達」此統計ニ次クモノハ代價表ナリ一八七二年三月二十九日農業統計ニ對シテ貴重ノ基礎ヲ爲スモノハ一八六二年乃至六四年舊州ニ一八七一年乃至七五年新州ニ施行シタル地租整理ノ事業ナリトス此事業ニ依リ各所有地ノ大小廣狹、分合、作物ノ種類及價格ハ詳カニ之ヲ知ルヲ得ルナリ本書第一四〇條)一八八三年ノ調査ニ依レハ全國總面積ノ五割〇三厘ハ耕地及園地、二割三分四厘ハ山林、二割〇七厘ハ牧場及牧草培養地、五分六厘ハ荒蕪地及宅地ナリ其耕地及園地ノ內ニテ二割五分二厘四毛ハ裸麥、一割四分〇二毛ハ燕麥、六分二厘七毛ハ小麥、五分三厘六毛ハ大麥一割一分三厘三毛ハ馬鈴薯ヲ耕作スルノ地ニシテ其餘ハ牧草、工業植物、園地植物ノ培養及休作ニ屬スル地ナリ統計ノ成績ニ關シテハマイセン氏著孛國ニ於ル土地ト農業ノ關係」ト題スル書(伯林一八六六年及七七年刊行)ヲ見ヨ」家蓄ノ統計本書第三四二條ノ註文一職業統計本書第三五九條ノ註文一

第二章　農業ニ關スル法制

第三百二十九條(甲)　要領　農業ニ關スル法制ハ孛相スタイン、ハルデンベルヒカ往時ノ束縛ヲ解キテ一個人ノ經濟ヲ獨立セシメタル法制改革中ノ主要部ヲ占ム(十三)該法制ハ我國ノ農業ヲシテ今日ノ如ク著大ノ進歩ヲ爲サシメ土地ノ利用ニ其道ヲ得セ

シメタル第一基因ナリ而シテ其端緒ハ乃チ當世紀ノ始メニ於テ普通法典施行ノ地方ニ發布シタル勸農令ナリトス

此令ハ往時ノ藉民制及世襲隷屬制ニ淵源スル人身ノ束縛ヲ解キ土地占得ノ制限ヲ廢シ總テ賣却讓與シ得ヘキ土地ノ分割ヲ明許シタリ(十四)此令發シタル以來之ヲ根本トシテ左ノ諸法律ヲ生シタリ即チ

一、自己ノ所有地ヲ自由ニ處置スル事

二、私貢及賦役ノ解除

三、土地共作及土地義務(セルヴィツート)ノ廢止

四、主管廳ノ組織及其審判手續

後年孛國領ニ歸シタル州郡ノ農業モ亦同樣ノ制ニ依ラシメタリ此制ハ初メ單ニ農業ノミニ施行セシカ爾後亦之ヲ直接ニ若クハ多少ノ參酌ヲ加ヘテ山林ニ適用シタリ

此制ハ主トシテ地主裁判權及世襲隷屬並之ヨリ生スル所ノ義務、負擔及私貢ノ舊制ヲ悉ク解除シタリ但シ所有地ノ自由處分及分割、土地負擔免除ノ保認及土地ノ世襲委托ニ依リテ所有權ヲ讓與スル事ニ關スル其他ノ規定ハ之ト抵觸スル別法ノ條則(堤防負擔及二三ノ宗教費負擔ノ廢スヘカラサル事、家族世襲財産ノ繼續)アルカ爲メ

其後、復之ヲ廢シタリ(十五)

第三百三十條　(乙)自己ノ所有地ヲ自由ニ處置スル事ハ明カニ之ヲ認メタリ但土地ニ附着スル權利義務ハ其儘ニ存シテ變スルコトナシ此ニ依リ他人ノ所有地ニ於テ鳥獸ヲ獵スルノ權(十六)、土地ニ關スル種々ノ權利、就中、籍君(レーンスヘル)、地頭、世襲收貢主ノ上等所有權、永代貸主ノ所有權並地主若クハ領主ノ占得權(ハイムフアルレヒト)外國人ノ遺留シタル不動産ヲ占得スル權ハ皆別段ノ賠償ナクシテ廢止セリ(十七)又不動産ノ先買權及買戻權モ契約若クハ遺言、共有、荼因地方ノ共同相續權若クハ叙用令ニ基因スル場合ヲ除キ都ヘテ廢止セリ(十八)其他憲法ハ藉土ノ設置ヲ禁シ現在藉土ノ關係ハ王室ニ係ルモノ及國ノ外ニアルモノヲ除キ悉ク之ヲ解除スヘキ事ヲ約セリ世襲財産ノ施設ハ當初憲法ニ於テ之ヲ禁シタレ𪜈後年其禁ヲ解キ舊ニ復シタリ加之、舊來ノ藉土ハ之ヲ世襲財産ニ變スルコトヲ得セシメタリ(十九)土地ヲ永世他人ニ委托シタル者ハ之ニ所有權ヲ移サヽルヘカラス而シテ其報酬トシテ土地ニ負ハシムヘキ義務ハ一定ノ金額ニ限ルトス(二十)該金額ノ辨償ニ對シテハ三十年ヲ經過スルニアラサレハ豫告ヲ爲スコトヲ得ス(二十一)

既ニ所有地ノ處置ヲ自由ニ爲シタル上ハ其分割モ亦隨テ自由タラシメサルヘカラス故ニ土地ノ分割ヲ阻碍シタル舊制就中往時農民ノ相續法ニ胚胎シタル妨害ハ都ヘテ之ヲ廢セリ(二十二)東方七州ニ於テハ所有地極メテ個々ニ細分スルカ爲メ別段ノ

法律ヲ以テ土地義務解除金、敎會費、說敎費、學校費及町村稅ノ分配ヲ規定セリ(二十三)又土地ノ自由分割ヲ妨ケスシテ農民ノ所有地ヲ成ルヘク現在ノ儘ニ保有セシメンカ爲メ土地ノ分割ニ關スル所有者臨終ノ處分ヲ容易ナラシメタリ即チ其臨終ノ處分ハ所有者ノ請求ニ依リ區裁判所ノ農地原簿ニ登錄シ他日數人其土地ヲ相續スルノ場合ニ於テ相續者ノ一人即チ全地ヲ相續スヘキ者、一定ノ價格ヲ約シテ先代ノ農地ヲ一手ニテ相續シ爾餘ノ相續人ニ對シテ賠償ヲ爲スコトヲ得セシム(二十四)其他小農地ノ合併ヲ容易ナラシムルカ爲メ農制改革事務官廳ノ允許證アレハ現用者ノ承諾ナキモ之ヲ賣却シ若クハ他ノ地所ト交換スルコトヲ得セシム(二十五)此場合ニ於テモ亦土地ノ購得金ハ土地義務解除金ニ於ルカ如ク其土地ニ附着セシメテ年賦償還ヲ爲スコトヲ得ルナリ(二十六)

第三百三十一條　(丙)土地義務解除　所有地ニ附着スル賦稅及賦役ノ解除ハ既ニ千八百十一年ニ於テ其計畫ヲ起シ爾來諸般ノ法律規則ヲ設ケテ漸次之ヲ施行シタリ然レモ全國畫一ノ制度ハ當世紀ノ下半部ニ於テ始メテ之ヲ施行セリ(二十七)今其制度ニ依ルニ土地義務解除ハ權利者ヨリモ義務者ヨリモ之ヲ申立ルコトヲ得(二十八)而シテ解除セラレ得ヘキ義務ハ公ナル負擔及土地共同廢止ノ原則ニ從テ解除スヘキ土地(セルカ林)義務(ツート)(二十九)ヲ除キ一切ノ賦稅及賦役ヲ包含ス

此解除ヲ施行スル爲メ一定ノ價格ヲ標準トナシ並ニ鑑定人ノ意見ヲ聞キ先ツ其解除スヘキ義務ヲ金額ニテ秤定シ次ニ同樣ノ方法ニ依テ秤定シタル報酬義務ノ金額ヲ前ノ金額ヨリ控除シ以テ解除ノ基礎ヲ定ム(三十)解除ニ對スル辨償金額ハ其土地ノ每年ノ純收穫三分ノ二ヲ超ヘサルモノトス(三十一)永久使用ヲ許シタル土地ニシテ其所有權ヲ領主ノ手ニ留メタルモノハ別ニ其義務解除ノ計算ヲ爲ス即チ權利者及義務者ノ爲メニ秤定シタル價格ヲ雙方相比シテ差引計算シ而シテ後權利者ノ利益トシテ遺殘セル剩額ヲ通常ノ方法ニ依リテ義務者ヨリ辨償セシム(領主及農民間ノ義務解除手續)(三十二)總テ土地義務解除ヲ行フニ當リ義務者ハ年價額ノ十八倍ノ代價ヲ支拂フカ又ハ此年價額ヲ歲貢(レンテ)トシテ年賦ニ支拂フカ二途ノ內其一ヲ選フコトヲ得ヘシ年賦支拂ノ場合ニ於テハ歲貢銀行(レンテバンク)ノ手ヲ經由ス即チ其銀行ハ年價額ニ十倍ノ歲貢券(政府ノ保證アリ利年四分)ヲ權利者ニ附與シテ辨償ヲ結了シ而シテ義務者ヨリ年々歲貢ヲ徵シ此歲貢ヲ以テ一方ニハ元金ヲ償還シ竟ニ歲貢券面ノ全價格ヲ償了スルヲ俟チテ歲貢ノ徵收ヲ止ム(通計五十六年半若クハ四十一年半ヲ要ス)又義務者ハ年價額十八倍ノ現金支拂ヲ望ミ權利者ハ年價額二十倍ノ歲貢券ヲ求ルトキハ(三十四)歲貢銀行ハ前同樣ノ手續ヲ爲ス銀行ノ手ヲ經由スルコトヲ得ルハ千八百八十三年十二月三十一日マテトス(三十五)此銀行ハ農務大藏兩大臣(三十七)ノ

監督下ニアリテ理事員ヲ置キ事務ヲ執ラシム(二十六)歳貢券ハ無記名證書ニシテ自由ノ取引ヲ許ス其消還ハ元金ノ追次還流スルニ從ヒテ之ヲ爲ス(二十七)歳貢ハ國稅ト同様ニ取扱ヒ之ト同時ニ徵收ス(二十八)

各種ノ義務解除ニ對シテ各別ノ規則アリ即チ

一、官有地歳貢ハ歳貢銀行ノ媒介ナク直接ニ國庫ニ納ム(四十)

二、特別ノ契約ニ基キタル世襲小作料及世襲利金ハ歳貢ノ支拂ヲ以テ義務解除ヲ爲スコトヲ得ス(四十一)

三、教會及學校若クハ慈善ノ施設ニ對シテ負擔シタル賦稅ハ定準價格ニ從ヒテ裸麥ノ歳貢ニ變シ以テ其二十倍(權利者ヨリ解除ヲ請求スルトキハ二十二倍九分ノ二)ニ當ル金額ヲ辨償セシメテ義務ヲ解除シ又ハ年々ノ市價ニ依リ通貸ヲ以テ其賦稅ヲ拂ハシム(四十二)

四、磨車稅ニ在テハ之ヲ營業上ノ賦金トシテ直チニ廢スヘキヤ又ハ土地ニ附着シタル負擔トシテ解除スヘキヤヲ先ツ上等勸農裁判所ニ於テ判決ス(四十三)

新附諸州ニ向テモ亦略ホ同一ノ農制ヲ布キタリ(四十四)歳貢銀行ノ手ヲ經由シ得ル期限ハ舊州ノ制ニ異ナラス(四十五)

第三百三十二條　(丁)土地共用ノ廢止ハ古來農業ノ障害ト認メラレタル農作地ノ共同使用ヲ廢スルヲ以テ目的トス(四十六)蓋シ土地ノ共有ニ淵源シ又ハ一方若クハ交互ノ土地義務ニ基因シタルモノニシテ之ヲ廢スヘキハ土地義務解除ニ於ルト一般農事改良進歩ノ爲メ甚タ必要ナリトス諸所ニ散在スル所有地ヲ一個ノ土地ニ合併シテ經濟上ノ利益ヲ全フセシムル事モ亦通常土地共用ノ廢止ト同時ニ施行ス後段ノ場合ニ於テハ土地共用ノ廢止ト稱セスシテ土地合併ト言フハ「ノーフル州ニ於テハ之ヲ「ヘルコツベルンング」ト呼ヒナツソウ州ニ於テハ「コンソリダチオン」ト名ク

土地共用ノ廢止ハ當初唯タ普通法典ノ行ハレル地方ニ向テ之ヲ施シタリ(四十七)而シテ此ニ依テ廢止スヘキモノハ他人ノ所有地ニ於テ牧畜スル事、樹木ヲ培養スル事、作物ヲ植付ル事、下草ヲ取ル事、漁業ヲ爲ス事、泥炭ヲ採ル事及其他之ニ類スルノ利用是ナリ(四十八)土地共用ノ廢止ハ關係者一人ノ請求アルヲ俟チテ之ヲ實施ス若シ甲ノ地ト乙ノ地トヲ交換セントスルトキハ其土地四分ノ一ノ利用者ノ承諾ヲ經ルヲ要ス(四十九)經濟上利益アルカ爲メ個々ノ土地ヲ合併スル事ハ其關係地所ノ面積半部以上及地租簿ニ登錄シタル純收穫ノ半額以上ヲ代表スル土地ノ所有者之ヲ請求シ而シテ郡會之ヲ允許スルトキハ土地共用廢止ノ外ニ在テ實行スルコトヲ得ヘシ(五十)凡ソ土地共用ヲ廢セントスルニハ先ツ關係者ノ權利ヲ調査シ(五十一)其權利ノ價直ニ從ヘ

賠償額ヲ確定ス賠償トシテ土地ヲ附與スルコト常例ナリト雖モ間々又歲貢、物品若クハ資本ヲ以テ賠償スルコトアラズ(五十二)山林ニ於テ物品ヲ以テ賠償スル事ハ山林培養ヲ保全スヘキ特別ノ條件アルニアラサレハ之ヲ許サス(五十三)賠償ノ土地ハ現用權ト負債トニ由テ制限セラルヽノ外全ク獨立ノ所有物トナリ其權利義務ニ關シテ讓與シタル土地及權利ニ代ハルモノトス(五十四)新ニ土地ノ共用ヲ定ムルモノハ其期限ヲ定メ互ニ契約書ヲ交換スルニアラサレハ之ヲ許サス(五十五)土地共用廢止ノ外、關係者ハ一定ノ程度マテ土地ノ共用ヲ制限スルコトヲ得(五十六)其他ノ州郡ニ向テモ爾後同樣ノ制規ヲ施行シタリ(五十七)

土地共用ノ廢止及土地合併法ハ既ニ大ニ行ハレ土地ノ經濟ヲシテ阻滯ナク發達セシメ殆ト遺利ナカラシムルノ基礎ヲ爲シタリ(五十八)此法ヲ施行シタル土地ハ通路溝渠ノ布設其宜キヲ得テ土地改良ヲ爲スニ其道ヲ開キ且ツ其境界判然タルニ依リ往時ノ際限ナキ境界論ヲシテ其跡ヲ絶タシメタリ又之カ爲メ農業生產物及農民ノ福利大ニ增進シ塲所ニ由リテハ土地合併ハ營利的新規摸ノ農業ヲ開キタル第一基礎トナレル所アリ

第三百卅三條　(戊)農制改革事務官ノ組織及裁判手續ハ別段ノ法律ヲ以テ之ヲ定メタリ(五十九)其法律ハ先ツ普通法典ノ行ハレル地方ニ向ケテ之ヲ發布セシカ後年其他ノ地方ニモ普ク之ヲ施行セリ但シノイフホールボンメルン及ライン ノ二州ニ於テハ(六十)土地合併ニ關係ナキ土地共用廢止及土地義務解除ノ事件ニ對シテ別段ノ裁判手續ヲ履行シシレージエン、ホルスタイン及ヘッセン、ナツソウ(六十一)ノ二州ニ於テハ一ノ例外ヲ設ケスシテ該法律ヲ施行スルモ獨リナッソウニ於テハ土地合併ノ事件ヲ通常ノ行政廳ニ委シテ審判セシム(五十七)其他ホーヘンツオルレルン州(六十二)ニ於テハ法律ノ全部ヲ施行スルモハノーフルフル州ニ於テハ農制改革ト連帶セサル事件ヲ分離シテ之ヲ普通ノ裁判所ニ委任セリ(六十三)

此法律ニ依テ政府ハ農制改革事務官ヲ設置シタリ(六十四)其事務官ノ中心ヲ爲スモノテ總理部(ケヲラル、コムトス總理部ハ部長一名及部員五名ヨリ成ル其五名ノ內三名ハ司法官タルヘキ資格ヲ有スルヲ要ス總理部ノ權限ハ土地共用ノ廢止、地畫整理及土地義務解除ニ關スル事務ヲ處理シ並ニ其事件ヨリ生スル訴訟ヲ裁判ス此塲合ニ於テ總理部ハ又警察權ヲ有シ及公會及遠キ關係者ノ財產ニ關スル事件ヲ處分ス(六十六)ウサスバーデン縣ニ於テハ同一ノ目的ヲ以テ裁判會議ヲ設置シタリ(六十七)總理部ノ機關トシテ專任理事(スペチアールコムミサーリエン)(經濟委員ヲ置ク(六十八)農制改革ニ關スル事務ハ時トシテ他ノ官吏及自治体ノ役員ニ委任スルコトヲ得ルナリ(六十九)又郡ニハ郡長ヲ議長トスル理事員アリ此理事員ハ農制改革ニ關シ關係者

ノ意見協合スルトキ之カ處置ヲ爲ス此理事員ハ郡會ニ於テ選擧シ總理部之ヲ認可ス（七十一）

總理部及裁判會議ノ判決及處分ニ服セサル控訴及故障ハ上等勸農裁判所之ヲ裁定ス（七十二）

審判手續ハ無訟事件ノ取扱順序ノ外ニ爭議ノ下調及判決手續ヲ包括シ且ツ農制改革ノ目的及本性ニ應シテ特別ノ式チ有ス（七十二）普通治罪法ノ規定中爰ニ適用スルコトヲ得サルモノ鮮カラス就中原被告ノ直接訴訟、審問主義及口頭裁判ノ原則ハ爰ニ適用セス（七十三）土地義務解除ニ關スル審判手續ハ其解除ノ法律ニ於テ規定セリ（七十四）

裁判費用ハ協定額ニ從テ徵收ス往時理事員ハ裁判落着後ニ算定シテ訴訟人ヨリ拂ハシムル報償金チ受ケシカ現今ハ俸給及恩給ヲ受ケ且ツ測量師ニ於ルカ如ク旅行スルニ當リ旅費日當ヲ國庫ヨリ受ク（七十五）

（原註）（十三）本書第三一二條第四及第三〇條第四〇（十四）一八〇七年十月九日ノ布令及一八一一年九月十四日ノ勸農令〇（十五）憲法第四十二條及一八五六年四月十四日ノ法律〇（十六）本書第三四五條第一〇（十七）一八五〇年三月二日ノ土地義務解除法第二條、三條及五條〇（十八）同上第二條六項及四條一八七四年六月十一日ノ法律第五七條、ハノーフル州一八七二年十二月二十四日ノ法律〇（十九）憲法第四十條及四十一條（一八五二年六月五日ノ法律）藉土制ノ廢止ハ東孛漏生州ニ於テハ一八七七年三月十六日ノ法律、クールマルク、アルトマルク及ノイマルクニ於テハ一八七五年七月二十三日ノ法律、アルト、ホールポムメルン及ヒンテルポムメルンニ於テハ一八六七年三月四日及ラインデンブルヒ州ノ舊索遜領地ニ於テハ一八七七年三月二十八日及一八八〇年三月十日及一八八三年四月二十日ノ法律、シレーシエンニ於テハ一八七六年六月十九日ノ法律、ウエストフアーレンニ於テハ一八七六年五月三日ノ法律、ラウエンブルヒニ於テハ一八七六年三月八日ノ法律ニ依ル

籍土事件ニ關スル裁判所ノ權限及世襲財產ノ權利義務本書第二一二條、在ハノーフル州國王ノ籍土ハハノーフル縣廳ニ於テ管理ス一八八四年八月二十九日ノ勅令〇（二十）土地義務解除法第六一條」ハノーフルハ別法ニ依ル一八三三年七月二十三日ノ法律〇（二十一）土地義務解除法第九一條〇（二十二）一八〇七年十月九日ノ布令第四條及一八一一年九月十四日ノ布令第一條」ハノーフル一八七三年五月二十八日ノ法律第八條、舊大公國ヘッセン及ナツソウ領一八七八年一月二十三日ノ法律、リンテルン郡一八七〇年二月二十一日ノ法律〇（二十三）一八七六年八月二十五日ノ法律第一條乃至第十二條、二十一條、二十四條乃至二十六條（第九條ノ期限ハ現今二週間ナリ地方行政法第五十條）權限法第一四七條、土地義務解除法第九三條、一八七七年三月十日ノ實施規則第一條乃至十三條乃至十八條（殖民地ノ開設ニ在テモ亦仝シ本書第二八〇條第五）〇（二十四）一八七四年七月二日ノハノーフル州農作地條例、一八八〇年二月二十四日及一八八四年二月二十日ノ附則〇（二十五）一八五〇年三月

三日ノ法律及一八六〇年六月廿七日ノ法律〇(二十六)土地義務解除法第一一〇條乃至一一二條〇(二十七)同上法律、萊因左岸ノ地方ハ既ニ佛國ノ法律ニ依テ滿足セリ〇(二十八)同上第九四條及九五條、管轄及手續同上第一〇四條乃至一一二條〇(二十九)同上第六條及七條「土地義務ヲ分チテ「レアールラステン」及「セルヴヰツート」トス甲ハ行爲若クハ勞役ニ基キ乙ハ放擲若クハ損失ニ原ク〇(三十)同上第八條、賦役第九條乃至十七條、確定ノ穀物稅第十八條乃至二十八條、他ノ物品稅第二十九條乃至三十一條、收穫什一稅第三十二條乃至第三十五條、現有權賣換稅第三十六條乃至四十九條、確定ノ金納稅第五十條乃至五十六條、其他ノ負擔第五十七條五十八條、定準價格及市場ノ確定第六十七條、六十八條、七十一條及七十二條、一八六〇年三月十九日及一八七三年六月十一日ノ法律〇(三十一)土地義務解除第五十九條乃至六十二條及六十六條〇(三十二)同上第六十三條〇(三十三)同上第三章(七十三條乃至九十條)一八五三年五月二十四日及一八五七年三月十六日ノ法律「一八八一年ノ終リマテニ土地義務解除ヲ結了シタル地ハ百五十萬「ヘクタール」ニシテ持主ハ八萬七千百十八ナリ又他ノ方法ニ由テ土地義務ヲ免レタル者ハ二百萬人餘ナリ〇(三十四)同上第六十四條及一八五〇年三月二日ノ歲貢銀行法第五十六條及一八八一年一月十七日ノ法律〇(三十五)歲貢銀行法〇(三十六)歲貢銀行法第一條四條五條及一八五〇年六月十七日ノ勅令「歲貢銀行ハ東西宇漏生ノ二州ニ對シテハキヨーニヒスヘルヒニ一ケ所プランデンブルヒ州及伯林ニ對シテハ伯林ニ一ケ所ポムメルン及シレースウヰヒボルスタインノ二州ニ對シテハステッチン二一ケ所、ポーゼン州ニ對シテハポーセンニ一ケ所シレージエン州ニ對シテハブレスラ

ウニ一ケ所、サックセン及ハノーフルノ二州ニ對シテハマグデブルヒニ一ケ所、ウエストフアーレン、ヘッセンナッソウ及ライン(ライン右岸)ノ四州ニ對シテハミュンステルニ一ケ所アリ〇(三十七)一八五九年七月二日ノ勅令〇(三十八)歲貢銀行法第十八條乃至二十七條及一八六〇年六月二十七日ノ法律〇(三十九)歲貢銀行法第三十二條乃至四十八條、歲貢券ノ償還第五十七條〇(四十)同上第七條及六十四條〇(四十一)土地義務解除法第六五條第一乃至第三〇(四十二)一八七二年四月二十七日ノ法律、一八七三年六月十一日ノ法律第五條及一八七九年三月十五日ノ法律〇(四十三)土地義務解除法第一一三條、一八五〇年三月十一日ノ法律〇(四十四)シレースウヰヒ、ホルスタイン州一八七三年六月三日ノ法律、ラウエンブルヒ一八七九年二月一日ノ法律、ハノーフル一八三三年七月二十三日ノ舊國法律「官有地事務廳ハ官有地ニ附着スル義務解除ヲ請求スルノ權アリ(一八六七年九月二十八日ノ勅令)此權ハ一八六九年四月三日ノ法律ニ依リ教會學校若クハ慈惠ノ目的ニ供スル土地ニモ亦許與シタリ」賦稅ヲ營業上ノ負擔トスルヤ又ハ土地ノ負擔トナスヤニ關シテ爭議起ルトキハ新附諸州ニ於テハ上等勸農裁判所之ヲ判決ス一八六八年三月十七日ノ法律〇(四十五)一八八一年一月十七日ノ法律〇(四十六)土地共用癈止令ノ最舊ルキモノハシレージエンニ布キタル千七百七十一年ノ法ナリ〇(四十七)一八二一年六月七日ノ土地共用癈止令及一八五〇年三月二日ノ「附則」シナイデル氏著「宇國土地共用癈止ノ法規」(千八百八十二年伯林刊行)ヲ見ヨ〇(四十八)同上第一條及二條、附則第一條及二條〇(四十九)同上第四條、五條、九條乃至二十九條、附則第九條及一八三八年七月二十八日ノ勅令」町村有ノ財產ヲ私有財產ニ變スルノ禁ハ土地

共用癈止令第十七條及一八四七年七月二十六日ノ法律第一條〇(五十一)一八七二年四月二日ノ法律、同年六月二十八日ノ實施規則〇(五十二)土地共用廢止令第三十條乃至五十五條、附則第三條乃至六條、九條、十四條及一八四七年七月二十六日ノ法律第五條〇(五十三)土地共用廢止令第五六乃至一〇七條、附則第七條、八條乃至十條〇(五十三)本書第三三九條

賠償ノ原則ハ土地共用廢止令第一〇八條乃至一一三條、山林ニ附着スル權利ノ廢止ハ第一一四條乃至一四〇條、但シ鋼蓄權ハ第一一六條、一一七條及一三〇條、普通法典一ノ二十二、第一八七條乃至一九六條、伐木權ハ該令第一一八條乃至一二六條、一二八條及一二九條、附則第四條及十條、普典一ノ二十二第一九七條乃至二三九條、森林牧蕃權該令第一三一條乃至一三七條及一三九條、附則第十條及十一條、普典一ノ二十二第一七〇條乃至一八六條及一八一一年九月十四日ノ勸農令第二七條乃至三三條、山林落葉採集權ハ該令第一四〇條、附則第四條、東方諸州ニ在テハ一八四三年三月五日ノ勅令並一八八〇年四月ノ田野警察規則第九十六條三項〇(五十四)土地共用廢止令第一四一條乃至一五一條及一五三條乃至一六三條「第三者ノ權利ヲ保スル事一八三五年六月二十九日ノ內閣令」所有權移轉ノ時期第一條〇(五十五)土地共用廢止令第一六四條、一六五條、一八七五年六月二十六日ノ法律第一條〇(五十六)該令第一六六條乃至一九一條〇(五十七)爾餘ノ州郡ニハ一八五年ヨリ一八八五年マテノ間ニ漸次施行シタリ但シハノーフル州ハ孛國領トナル前ヨリ舊國ノ法律ニ依テ夙トニ之ヲ行ヘリ〇(五十八)千八百八十一年ヲ終ルマテニ大約二百萬人ノ所有地千九百五十萬「ヘクタール」ヲ彼此合併シテ其地ニ附着スル義務ヲ解除

シタリ〇(五十九)一八一七年六月二十日ノ勅令及一八三四年六月三十日ノ追加令、一八四四年十一月二十二日ノ勅令及權限法第九五條二項〇(六十)一八五一年五月十九日ノ土地共用廢止令第二四條乃至二六條〇(六十一)一八五一年五月十九日ノ法律第三十條〇(六十二)註文四十四ヲ比較セヨ〇六日ノ勅令第一條及同年三月二十四日ノ法律第三九條及四五條〇(六十三)一八八三年五月二十三日ノ法律第三九條及四五條〇(六十四)一八四二年六月三十日ノ(六十三)一八八三年五月二十三日ノ法律第三九條及四五條〇(六十四)一八四二年六月三十日ノハノーフル法律、一八五六年十一月八日ノ同上附則、一八六二年十二月二十八日ノ同上法律及一八八三年一月十七日ノ法律〇(六十五)此事務官ハ裁判官ト同一ノ服務規律ニ服ス一八五一年五月七日ノ法律第六五條及六九條〇(六十六)一八一七年(註文五十九)ノ勅令第一條乃至九條十五條乃至二十二條、二十六乃至三十三條、十五條、十六條並一八四七年七月二十六日ノ法律第六條、附則第一條七條、八條、十條乃至十三條、十五條、十六條並實施規則第一條乃至九條及一八四四年ノ勅令第一條乃至三條一八一八〇年二月十八日ノ法律第二條乃至四條「權限爭議トルト、アム、オー、デルニ一ケ所、プレスラウニ一ケ所、メルゼブルヒニ一ケ所、ハノーフルニ一ケ所、シコンステルニ一ケ所、チュツセルドルフニ一ケ所合計八ケ所ニアリ〇(六十七)地方行政法第二三條第二、〇(六十八)一八一七年ノ勅令第二七條、四〇條乃至四八條、五二條乃至六一條、附則第十七條、十八條、一八四四年ノ勅令第五條、一八八〇年二月十八日ノ法律第二條、五條、八一條、養成法及試驗法一八三六年四月十一日ノ訓令及一八七八年一月六日ノ勅令第六二條乃至六四條、附則第十九條、一八五〇年

三月二日ノ土地義務解除法第一〇八條及一八五〇年三月二日ノ法律第十五條〇(七十)附則第二條乃至四條〇(七十一)一八四四年ノ勅令第七條乃至十三條及一八八〇年二月十八日ノ法律第二條「私有河川ノ利用ニ關シテハ本書第三三七條第三ヲ見ヨ〇(七十二)審理手續一八一七年ノ勅令第六八條乃至一〇〇條、一〇四條乃至一〇七條、一一〇條乃至一一三條附則第二〇條乃至二九條一八二一年六月七日ノ法律第十條乃至一八條二五條及一八五〇年三月二日ノ法律第十五條」面積測量、地方秤定、及計畫豫算一八一七年ノ勅令第一一四條一四四條」仲裁々判手續、附則第三一條乃至三五條」國席裁判手續一八一七年ノ勅令第一四五條乃至一五三條、一八四四年ノ勅令第五條及一八八〇年二月十八日ノ法律第五七條」判決及勸解一八一七年第一五四條乃至一七二條、附則第三六條乃至三八條、四一條、四三條及一八四一年十二月十八日ノ內閣令「該控訴上告一八一七年ノ勅令第一八七條乃至九條、一九一條乃至四條、附則第五四條、五五條一八二一年六月七日ノ法律第二三條、一八四四年ノ勅令第十四條乃至二二條、一八八〇年二月十八日ノ法律ハ訴願ノ外ニ控訴ヲ許シ第三階ノ廳ニ向テ再審ヲ請フコトヲ許シタリ

地所臺帳及地租簿ノ更正ハ一八七七年一月二七日ノ達〇(七十三)一八七九年三月二四日ノ法律第一條四條、十四條」一八八〇年二月十八日ノ法律ハ審判手續ヲ新訴訟法ト一致セシメタリ〇(七十四)註文第二十八及四十九〇(七十五)一八七五年六月二十四日ノ法律、一八七七年三月三日ノ法律一八八〇年二月十八日ノ法律第八條十條、四五條」國庫支給一八八四年一月二十四日ノ達、書記料同年七月二十五日ノ達、測量官ノ手數料一八八五年三月二十五日

及六月十五日ノ達、裁判費用條例ハ爰ニ悉ク之ヲ適用スルニアラス一八七九年三月十日ノ法律第四三條

第三章　勸農

(甲)　要領

第三百三十四條　農制改革ハ農業及山林業ノ自由利便ナル經營ヲ妨害スルモノヲ除去スルニアルニ國家ハ其外ニ又此二業ヲ奬勵振作スヘキ積極的ノ職務ヲ有スト而シテ其職務即チ國家カ人民ノ營業ニ干渉スルノ程度ハ自然ノ營業自由ヲ以テ境界トナス顧フニ國家ハ一個人ノ經濟ニ干渉スヘカラサル時若クハ事項ノ性質ニ於テ數人ノ協力ヲ要スルトキハ國家ハ自ラ之ヲ爲シ又ハ經營ノ基因ヲ過ル而已

國家カ物產ノ販路及運輸、保險及信用ヲ振作シ之ヲ普ク保護スル事ハ(一)農業及山林業ノ爲メ特ニ緊要ナリトス加之農業及山林業ノ爲メニハ一般ノ保護ノ外ニ特別ノ保護アルヲ要ス即チ農產物及山林產物ノ販路ヲ擴ムルニ保護稅ヲ以テシ(二)雹害及家蓄流行病ヲ保スルニ農業上ノ保險法ヲ以テシ(三)並農業資本ノ融通即チ信用ヲ進ルニ銀行ヲ以テスル事是ナリ就中農業上ノ信用ハ我孛國ニ於テ極メテ重大ナル關係ヲ有シ其進歩ハ土地改良ノ一大基因トナレリ土地改良ノ事務ハ最初中央政府ニ

於テ管掌モシカ其後、改良資金(四)ト共ニ之ヲ州廳ニ移シ(五)政府ハ唯其總轄ヲ爲シ及準備ノ補助ヲ爲シ(六)其他一州ヲ超越スル重大ノ關係アル改良事務ヲ直轄スル而已土地改良ノ事務ニ於テ特ニ注目スヘキハハノーフル州及シレースウサヒ、ホルスタイン州ニ在ル廣大ノ沼澤地ヲ排水法及運河ノ開設ニ依テ耕作ニ適セシムヘキ事業ナリトス(七)其他重要ナル勸農事務ハ治水事業ナリ森林培養ノ道ハ其業ノ一種特異ナルニ依リ特別ノ奬勵ヲ要ス

(乙)　農業上ノ信用

第三百三十五條　農業上ノ信用ハ眞正ノ物上信用(レアールクレジート)ニシテ而モ極メテ堅固ナルニ依リ伸縮スルコト甚タ鮮少ナリ然リ而シテ農家ノ事業タル頗ル多般ニシテ充分ニ流動資本ヲ有スルニアラサレハ其利ヲ全フスルコト能ハサルモノナレハ一般ノ信用ヲ媒介スル施設物ノ外(八)ニ亦特ニ農業ノ爲メ資本ヲ融通スル施設物アルヲ要ス(九)之ニ屬スルモノハ私立ノ土地信用會社及公立ノ抵當券銀行(ブアントプリースアンスタルテン)ナリ往時シレージエン(シレーシエン)州ニ於テ七年戰爭ノ餘弊ニ依リ物上信用大ニ衰落シタルカ爲メ土地ノ豪農輩會合シ債主ト負債主トノ間ニ立チテ資本ノ融通ヲ媒介セントノ目的ヲ以テ地主協會(ラントシャフトナルモノヲ設立セシカ績キテ爾餘ノ諸州モ之ニ倣ヒ各地方殆ト悉ク地主協會ノ設立ヲ見ルニ至レリ(十)其後各地ノ地主協會概ネ在伯林中央協會ヲ以テ共同ノ中心ト爲シタリ(十一)抑々地主協會ハ其規約ニ從ヒ協會ニ加入シタル地主ニ其所有地ノ一定價格マテ金額ノ貸付ヲ爲シ而シテ辨償ノ豫告期限ナク年賦ニ償還セシムルモノナリ貸付ニ供スヘキ資本ハ無記名有利息ノ抵當券ヲ發行シテ之ヲ募集ス此抵當券ニ對シテハ地主協會々員連帶責任ヲ帶フ此ニ依リテ土地ノ代價ハ流動資本ニ變シ市場ニ於テ他ノ貨物ト同樣ノ運轉ヲ爲シ資本調達ノ利便開ケ土地ノ信用大ニ增加セリ地主協會ノ事務ハ會員中ヨリ選擧シタル理事員之ヲ司掌シ國王ノ看護官之ヲ監督ス

農業振勵ノ爲メ地主協會ヨリモ更ニ直接ノ効力アルハ歲貢銀行(○○○)ナリトス(十二)此銀行ハ土地改良、河岸保護堤防修築及水運ノ事業ヲ振起スルノ目的ヲ以テ(自治体)議會ノ決議ニ因リ一定ノ準則ニ從テ設立ス其規約ハ國王ノ認可ヲ受ケサルヘカラス(十三)該銀行ハ土地ヲ抵當トナシテ辨償期限ノ豫告ナキ金額ノ貸付ヲ爲シ且ツ行政上ノ徵收處分ニ依テ其利子及年賦還納金ヲ取立ルノ權ヲ有ス(十四)暗渠布設ノ爲メニ貸付ケタル金額ニ在テハ其布設ニ依リ土地ノ永久ノ改良ヲ爲ストキニ限リ銀行ハ農制改革事務官廳ニ依リ他ノ債主ヨリモ先キニ其利子及年賦還納金ヲ取立ルノ權ヲ有ス(十五)但シ他ノ債主ニシテ負債者ノ不動產ヲ抵當トナシテ裁判所ノ登記ヲ了ヘタル者、負債者ノ財產公賣處分ノ公告アルニ當リ異議ヲ起ストキハ此限ニ非ス銀行カ其資

本ヲ得ルノ道ハ無記名證券(歲貢券)ノ發行ニ依ル剩餘金ハ豫備金トナシ又ハ行政費ノ追加額ヲ控除シテ其餘ヲ關係者ニ分配ス(十六)銀行ハ印稅免除及抵當登記ニ對スル手數料免除ノ特典ヲ有ス其出納計算ハ年々公示スルモノトス(十七)

(丙)　治水(十八)

第三百三十六條　(一)治水ニ關スル法制ハ治水法及水上警察ノ二ニ區別ス治水法ハ水ニ於ル所有權及使用權ヲ整理シ水上警察ハ此二權ヲ全國一般ノ利益ニ屈伏セシメ且ツ災害警察ノ一派トシテ水害ニ對シテ之ヲ保護スヘキ條件ヲ確定ス(十九)水ノ所有權ハ經界ノ定マリタル用水ニ於テ存シ使用權ハ流動スル河水ニ於テモ亦存ス此權利ト連帶シテ河川ハ公用河川ト私用河川ノ二ニ分ツ普通法典ハ船舶ヲ通シ得ヘキ河川ヲ公用河川ニ算入シ其使用ヲ「レガーリエン」ト言ヘリ(二十)故ニ其維持ハ政府ノ負擔ニ屬ス(二十一)其他法律ハ兩種ノ河川ニ於ル使用權ヲ定メ(二十二)之ヲ破壞毀損スル者ニ對シテ罰例ヲ設ケ(二十三)之ヲ塡塞スル事若クハ不潔ニスル事ヲ禁シ(二十四)又私用河川及私有ノ溝渠ニ關シテハ清潔法及維持ノ義務ヲ整定セリ(二十五)其事務手續ハ地方制度施行ノ地ニ於テ道路警察ノ爲メ定メタル規則ニ同シ(二十五)

水利ハ諸般ノ行政ニ關係ヲ有シ農業ノ振作ニモ亦寡カラサル關係ヲ有ス(二十七)蓋シ灌漑ノ法其宜ヲ得レハ瘠土變シテ沃土トナリ排水ノ道其度ニ適スレハ植物ノ成長

ニ利益ス又堤防ノ如キ一タヒ其施設ヲ過レハ不測ノ水害ヲ來ス凡ソ此等ノ事ハ關係者ノ一致協力ヲ以テスルニアラサレハ其効ヲ成スコト能ハス故ニ水利ノ事ニ於テハ往昔ヨリ組合法特ニ効力ヲ顯ハシ近時ニ於テモ水利組合ハ國中一般ニ行ハレ且ツ頗ル堅固ノ組織ヲ有セリ(二十八)其組合ノ目的ハ排水灌漑河岸保護水道貯水水運通船ノ便ヲ開キ之カ施設ヲ維持スルニアリ(二十九)此組合ハ規約ヲ設ケテ諸船ノ關係ヲ定メ理事員ヲ置キテ常務ヲ執ラシメ法人ノ權利ヲ有ス其他組合ニ自由組合ト公設組合ノ二種アリ(三十)自由組合ハ關係者ノ合意ニ成リ官ノ組合簿ニ登錄セラレ裁判所若クハ公證人ノ證明ヲ得テ其契約ヲ確ムノミニテ別ニ政府ノ認許及監督ヲ受ルニ及ハサルモノトス故ニ其權利義務總テ私法ニ屬シ其性質ニ於テ少數者ノ團結ニ適スルモノタリ(三十一)公設組合ハ公共ノ利益ヲ進ムヘキ時又ハ多數共同ノ利益ノ爲メ之ヲ設立スルコトヲ得ルモノニシテ縣知事之ヲ總理シ其他ノ地方ニ於テ州知事之ヲ總理ス此公設組合ハ事業關係者ヲ强迫シテ組合ニ加入セシムルコトナシト雖モ獨リ土地改良ノ爲メニ設ル排水及灌漑ノ組合ニ在テハ關係者ヲ强迫シテ加入セシムルコトヲ得排水及灌漑ノ組合ニ在テハ事業ノ竣成ニ必要トスルトキ及土地ノ爲メ利益アリト認ルトキハ組合員ノ多數決ヲ以テ異議者ヲ强ヒテ加入セシムルコトヲ得組合會議ニ於テ投票ノ多寡ハ所

有地ノ面積及地租簿ノ収穫高ニ從テ定ム加入強迫ノ權ヲ得ンコトスル塲合ニ於テハ組合規約ハ國王ノ制可ヲ得ヘキモノトス其他ノ塲合ニ於テハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘキノミ公設組合ハ政府ノ監督ヲ受ケ其助成金ハ行政上ノ徴収處分ニ依リ取立ルコトヲ得(三十二)

第三百三十七條　(二)排水及灌漑法　排水及灌漑ノ二法ハ舊州ニ對シテ各別ニ之ヲ定メタリ

排水ニ關シテハ普通法典ノ行ハレル地方ニ於テ水門ニ標杙ヲ建テ水量ノ最高度ヲ示シ(三十三)凡ソ下流ニ在ル現用者ヲシテ水ノ排流ヲ妨クヘキ天然及人工ノ障碍物ヲ除去セシム但シ此塲合ニ於テ障碍物ノ除去ニ對シテ充分ノ賠償ヲ爲スヘキハ言ヲ俟ス(三十四)地下ノ暗渠ニ在テモ亦同シ(三十五)又企業者ヲシテ私法上ノ異議及損害賠償ノ請求ニ對シテ安全ナラシムル爲メ自ラ告知手續及後期失効手續ヲ爲スコトヲ得セシム(三十六)普通法典ノ施行セラレサル地方ニ於テハ特別ノ排水法ヲ施行ス(三十七)

灌漑法ハ(三十八)河岸ノ持主カ其持地前ヲ通過スル私用河川(三十九)ヲ利用スルノ權ヲ規定シ同時ニ排水法ニ於ルカ如ク告知手續及後期失効手續ヲ認許ス(四十)新附諸州ニ施行シタル治水法ニ在テハ排水灌漑ノ二業ヲ合同シテ一ノ法律中ニ定メタリ(四十一)

第三百三十八條(二)　堤防法ハ往時頗ル區々ニ渉リシカ近時ニ至リ始メテ之ヲ統合シ一樣ノ制ヲ設ルヲ得タリ(四十二)堤防ハ洪水ノ汎濫ニ對シテ陸地ヲ保護スヘキ人爲ノ丘陵ニシテ其水門ハ堤防以内ノ地ニ滯積スル水ヲ排流スルノ口ナリ洪水ノ害ハ土地ノ人民一般ニ係ルモノナレハ既ニ昔時ヨリ關係者ノ協力合同ヲ惹起シ所謂堤防組合ナルモノヲ組織セシメタリ堤防組合ニ大小ノ別アリ其小ナルモノハ政府ノ許可ヲ得ルニアラサレハ堤防ヲ新築シ又ハ現在ノ堤防ヲ變改スルコトヲ得ス組合所属ノ堤防破潰スルトキハ義務者自ラ之ヲ修築セサルヘカラス(四十三)一般ノ危害ヲ防禦スヘキ時又ハ農業上ノ大利害ニ關スルトキハ關係者共同シテ堤防ヲ新築シ及維持スル爲メ堤防組合ヲ設立セサルヘカラス堤防義務ハ關係ノ地所ニ對シテ免除スヘカラサル負擔トナリ若シ各種ノ土地義務輻湊シテ相撞着スルトキハ其他ノ公ナル義務ノ上ニ立ツモノトス(四十四)堤防組合ノ制ハ國王ノ裁可ヲ經タル規約ニ依リ之ヲ定メ且ツ關係者ニ廣大ナル自治權ヲ附與スルモノナリ(四十五)堤防ノ維持及利用ニ關シテハ主務大臣及地方長官其命令規則ヲ發スルコトヲ得(四十六)又危險切迫ノ塲合ニ於テハ各人堤防ノ維持ニ助力スルノ義務アリトス(四十七)

(丁)　山林培養

第三百三十九條　廣大ナル森林ハ氣中及地面ノ濕氣ヲ平等ニ分配シ土地崩壞及雪崩

ヲ防禦シ山腹ノ流崩及平地ノ洪水ヲ防止シ同時ニ收穫ナキ山地ニ適度ノ價格ヲ保タシムルモノナリ斯ノ如ク重要ノ關係アルニ依リ山林經濟ハ至難ノ行務ニ屬シ且ツ廣大ナル面積ト永年ヲ期シテ損得ノ償ハレ得ヘキ資本ヲ有スル者ニアラサレハ其目的ヲ達スルコト能ハス資本ニ乏シキ小森林ノ持主ハ徃々伐採ノ利ヲ急キ現在ノ森林ヲ維持スルノ力ヲ缺キ到底其利ヲ全フスルコト能ハサルモノタリ

故ニ山林經濟ノ事ニ於テ國家ノ須ク自ラ任スヘキノ責務ハ農業ニ於ルヨリモ甚タ重大ナリトス徃年經濟自由ノ原則始メテ世ニ明カニナリシ當時ニ於テ其自由ヲ無限ノモノト誤認シ(四十八)多年嘗テ山林ノ特別ナル經濟ヲ顧ミサリシカ爲メ樹木殖付ノ業衰退シ或ハ個々ニ細分シ絕テ經濟ノ道ヲ得サリキ輓近ハ始メテ其失策ナリシ事ヲ悟リ山林經濟ノ挽回ヲ勉メ稍々其緒ニ就キタリ

孛國ノ山林ハ官有、自治体有及私有ノ三種アリ(四十九)官有山林ハ政府ニ於テ直接ニ管理シ最完全ノ經濟ニ服スルモノナリ故ニ啻ニ之ヲ保存スヘキノミナラス又可及的擴張セサルヘカラス(五十)官有山林ノ面積廣大ナレハ則チ政府始メテ山林ニ必要ナル諸般ノ施設ヲ行フコトヲ得ルナリ而シテ其施設ハ其他ノ私有山林ニモ亦甚タ利益ヲ與フルモノナリ(五十一)

私有山林ノ爲メニハ其外ニ充分ノ取締法ナクンハアルヘカラス就中山林ノ荒蕪及濫伐ハ嚴法ヲ以テ禁セサルヘカラス此主義ニ依リ地方自治体所有ノ山林ハ國家ノ特別ナル監督ニ服ス(五十二)此監督ハ既ニ數年前ヨリ之ヲ講社有ノ山林ニ及ホシ輓近ニ於テハ又之ヲ一切ノ共同私有山林ニ及ホシタリ(五十三)加之斯ノ如キ山林ハ容易ニ分割セシメス即チ其他復森林ノ用ニ適セサルトキ又ハ森林ヨリモ他ノ目的ニ使用スレハ永久更ニ大ナル利益ヲ收メ得ヘキトキニ限リ其分別ニ許スノミ(五十四)

其他保護林及森林組合ニ關スル近時ノ法律ハ前ニ記シタル諸般ノ弊害ヲ防遏センコトヲ勉メタリ(五十五)

保護林ハ砂、石ノ崩、流、河岸ノ崩潰、雪崩、氷鮮水量ノ減少及風向ノ作用等ニ依リ近隣ノ土地若クハ全地方ニ及ホスヘキ危害ヲ防禦スルモノトス保護林ノ設置及其適應ノ利用ハ關係者若クハ地方自治体ノ上申ニ依リ又タハ地方警察官ノ監督權ヲ以テ當該林主ニ之ヲ命令スルコトヲ得而シテ此命令ヲ受ケタル林主ハ其林内ニ現在スル樹木ノ利益ニ應シ上申者及其他ノ關係人ヨリ賠償ヲ受ルコトヲ得(五十六)其賠償額ノ確定及審判ハ保護林裁判所トナル郡參事會(五十七)ニ於テ特別ノ行政裁判手續ニ依リ之ヲ施行ス

森林地、荒蕪地若クハ瘠地等諸所ニ散在シテ同一人ノ所有ニ屬シ適當ノ經濟ヲ營ミ難ク且ツ山林保護ヲ行ヒ難キトキハ森林組合ヲ設置スルコトヲ得但シ之カ爲メ其

關係人ニ對スル地租簿ノ土地收穫高ノ過半數ヲ占ムル者ノ同意ヲ得サルヘカラス(五十八)森林組合ノ解散並組合有森林ノ產物分配法モ亦同上ノ同意ヲ得テ定ムルモノトス(五十九)森林組合ハ法人ノ權利ヲ有ス(六十)其設置ハ森林保護裁判所ノ認可ヲ得ルヲ要ス(六十一)此裁判所ハ同所ニ其組合ニ向テ國家ノ監督權ヲ施行ス(六十二)森林ニ關スル新法律ハ手續ノ煩雜ナルニ因リ著シキ實効ヲ現ハサヽリシト雖モ(六十三)而カモ從前粗漏ヲ極メタル森林保護ノ道ヲ挽回スヘキ第一着手ヲ爲シタリ

(原註)(一)本編第二章第六章第七章○(二)本書第一五九條第一○(三)本書第三一四條ノ註文十二及十三○(四)ボムメルン州一八八一年一月十八日ノ法律第八條、來因州一八五六年二月二十日ノ勅令○(五)一八七五年七月八日ノ法律第四條二項、十條、二十五條ハノーフル州一八六八年三月七日ノ法律第一條第五項、カツセル縣一八六九年三月二十五日ノ法律第一條第六項○(六)技術上ノ準備一八七二年八月十五日及一八七九年三月二十八日ノ達」各州ニ土地改良土木視察官ヲ設ケタリ○(七)千八百七十六年以來農務大臣ノ顧問官トシテ伯林府ニ中央沼澤委員ヲ置キ且ツプレーメン府ニ沼澤試驗所ヲ設ケタリ○(八)本書第三一六條乃至三一九條○(九)農務大臣ノ管轄ニ屬スルコト本書第五二條ノ註文七十四○(十)東孛漏生州ニ在テハキヨーニヒスベルヒニ地主協會本部アリ部長ニ隷屬スル地價審查會議及農業資本貸附所アリ西孛漏西州ニ在テハマリエンウエルデルニ地主協會本部アリテ四個ノ地方地主協會本部ヲ統轄ス其他ダンチヒ府ニ農業資本貸附所アリ新立ノウエストフアーレン州地主協會モ該本部ノ管轄トス」ブランデンブルヒ州ニ在テハ伯林府ニクールマルク及ノイマルク地主協會本部、農業資本貸附所並伯林抵當券扱所アリ其本部ハ四個ノ地方地主協會ヲ管轄ス新設ノ在伯林ブランデンブルヒ銀行モ亦右本部ノ管轄トス」ボムメルン州ニ在テハステツチンニ地主協會本部アリテ州內四個ノ協會支部ヲ統轄ス又同州ノ農業信用組合モ其本部ニ附屬スポーゼン州ニ在テハ新設ノ農業信用協會アリ」シレージエン州ニ在テハブレスラウニ貸附所アリ(縣廳ヨリ管理ス)同所ニ地主協會ヲ統轄ス其他農業銀行三個アリ」サツクゼン州ニ在テハハルレニ地主協會アリシレースウ井ヒ、ホルスタイン州ニ在テハキールニ同上協會アリハノーフル州ニ在テハ七個ノ地主協會アリウエストフアーレン州ニ在テハミュンステルニ地主協會アリ○(十一)一八七三年五月二十一日ノ勅令及一八八四年一月三日ノ勅則○(十二)一八七九年五月十三日ノ法律、此銀行ハ今日ニ至ルマテシレージエン及シレースウ井ヒ、ホルスタインニ設立シタルノミ○(十三)同上法律第一條乃至五三條、五一條乃至五三條、○(十四)同上第四條乃至九條、三三條乃至三六條○(十五)同上第十條乃至三二條、三七條乃至四八條○(十六)同上第四條、三七條乃至四九條、五○條○(十七)同上第二四九條乃至二五三條○(十八)ニーベルゲンゲ氏著孛國治水法及水上警察法○(十九)本書第二四九條乃至第三八條」一部分ヲ限リテ通船ヲ爲シ得ヘキ河川ニ在テハ其部分タケ公用ノモノトス一八六七年六月三日ノ上等裁判所判決例」佛國ノ法ハ舟筏ヲ通スヘキ河川ヲ國有トナセトモ獨逸普通律ニ於テハ凡テ大ナル河川ヲ公用河川トナス○(二十一)公用河川、普通法典二ノ十五、第三八條乃至六二

條及六六條乃至七九條、私用河川同上一ノ九第二二五條乃至二七四條、本書第三三七條及三四七條ヲ參考セヨ○(二十三)刑法第三二一條、三二五條及三二六條、一八八〇年四月一日ノ田野警察法第二七條三一條○(二十四)普通法典一ノ十八第九六條乃至九九條、一八一六年二月廿四日ノ內閣令、一八四三年二月二十八日ノ私用河川條例第二條乃至六條、本書第二六七條ノ註文五十二ヲ比較セヨ○(二十五)普通法典一ノ八第一〇〇條、一〇一條、一八一一年十一月十五日ノ排水法第十條、私用河川條例第七條○(二十六)權限法第六六條及一六二條(本書第三七〇條第二ヲ比較セヨ)○(二十七)水ハ其水產物ニ依リ漁業(本書第三四七條)ニ、發動力トシテ工業(本書第三五〇條)ニ、水道トシテ交通運輸(本書第三六四條乃至三六六條)ニ利用セラルヽモノトス○(二十三)一八七九年四月一日ノ法律、プユロウ氏及フアステナウ氏著註釋書(伯林刊行千八百七十九年)アリ○(二十九)同上第一條、堤防ノ修築ハ此外トス○(三十)同上第四條乃至十條、處罰第九九條○(三十一)同上第一一條乃至四四條、登記ハ區裁判所ニ於テハ第一三條、一八七八年四月二十四日ノ法律第二五條第一項、三〇條、六九條、一〇九條及一八七九年九月九日ノ達、組織ハ產業及經濟上ノ組合(本書第三二一條)ニ同シ但シ連帶責任ヲ缺クノミ○(三十二)治水法第四五條乃至九十八條(第五三條、七一條及九一條ニ於ル期限ハ今ハ二週間トス地方行政法第五一條及一二一條)及權限法第九四條及一六〇條、一八七九年六月三十日ノ規約準則○(三十三)一八一一年十一月十五日ノ排水法第一條乃至九條及地方行政法ノ行ハレル地ニ於テハ權限法第六七條「水量標ノ保護、刑法第二七四條第二項、水車ノ爲メ水流ヲ抑留スルニハ營業條例ニ依テ官許ヲ得ザルヘカラス○(三十四)排水法第一一條乃至一四條及普通法典一ノ八第一〇二條乃至一一七條、「天然及人工ノ障得物ヲ除去セシムルハ公益ノ爲メニスル排水(土地改良及通船)ニ限リ且ツ官廳ノ認許ヲ得ルヲ要ス此認許ヲ與フルモノハ郡參事會トス權限法第六八條乃至七一條○(三十五)一八五三年五月十一日ノ法律第三條」暗渠ハ人爲ノ排水管ヲ土中ニ埋メ土中ノ水分ヲ排出スルモノニシテ此ニ依リ瘠土ヲ變シ沃土トナス○(三十六)一八四六年一月二十三日ノ法律及權限法第七四條○(三十七)一八六七年二月九日ノノイホールムメルン州排水法及權限法第六五條乃至七二條、一八五九年六月十四日ノ萊因州及ホーヘンツオルレルン州排水法○(三十八)一八四三年二月二十八日ノ私用河川條例○(三十九)同上第一條乃至十八條及權限法第七三條○(四十)同上第十九條乃至五五條及權限法第七四條乃至八〇條○(四十一)一八五七年七月十六日ノホルスタイン治水法、一八五七年五月二十二日ノハノーフル治水法、一八二四年十二月三十一日ノクールヘッセン治水法、一八五八年七月二十七日ノナツサウ治水法○(四十二)一八四八年一月二十八日ノ堤防法、一八七二年四月十一日ノ法律及權限法第九七條○(四十三)堤防法第一條乃至十條、權限法第九六條第一乃至第三」城砦ノ境域地ニ係ル許可一八七一年十二月二十一日ノ帝國法律第十三條○(四十四)堤防法第十一條乃至二三條○(四十五)堤防法第十五條、一八五三年十一月十四日ノ準則一八五三年十二月十三日ノ訓令、權限法第九七條第一○(四十六)堤防法第二四條乃至二六條、權限法第九六條第四○(四十七)刑法第三六○條第十項、堤防毀損ノ罰刑法第三二一條、三二五條及三二六條○(四十八)一八一一年九月十四日ノ勸農令第四條五條○(四十九)孛國ハ千八百八十

三年ニ於テ八百萬「ヘクタール」ノ山林即チ全國面積ノ二割三分三厘ニ當ル山林チ有ス故ニ歐州各國ノ山林ニ比シテ孛國ノ山林ハ冶ト中等ニ位ス今各國ノ山林チ其領地ノ總面積ニ比スレハ瑞典及露斯亞ハ三割九分、巴丁ハ三割七分、瓦敦堡ハ三割四分、巴威里亞ハ三割三分ヘツセンハ三割一分エルサスロートリンゲン及塊地利ハ三割、洪牙利ニ二割六分、伊多利ハ二割二分、瑞西ハ一割九分、白耳義及佛蘭西ハ一割五分、是斑牙ハ九分、荷蘭ハ六分、丁抹ハ四分、英國ハ三分ノ山林チ有ス又孛國内ノ各州ニ在ル山林チ區別スレハ孛漏生、ボーメルン、ボーゼン及サックゼンノ四州ニ在ル山林ハ該州總面積ノ凡ソ二割三分ニ當リ其他ノ六州ニ於テ其割合稍々高クハノーフル就中シレースウ井ヒ、ホルスタインノ二州ニ至レハ其割合大ニ減少ス孛國ノ總山林ノ二割九分五厘ハ官有ニ屬シ一割六分九厘ハ町村及公會有ニ屬シ五割三分六厘ハ人民ノ私有ニ屬ス〇（五十）本書第一二三條〇（五十一）山林學校及山林試作ノ事本書第一二五條殊ニ其註文四十一「官林ヨリ植物ノ種子及苗木チ交付スル事一八六八年四月十二日ノ省令、山林官吏ニ於テ小林ノ持主チ補助スル事ハ甚タ緊要ナリトス〇（五十二）本書第七七條第三〇（五十三）一八八一年三月十四日ノ法律第一條乃至五條、一八八一年四月二十六日ノ告示」共同經濟ノ山林ハ私有山林ト町村有山林ノ中間ニ位ス何トナレハ其法律上ノ性質ニ於テハ私有山林ニ屬シ其起源及經濟ニ於テハ町村有山林ニ類スレハナリ共同經濟ノ山林ニ二種アリ組合山林（ゲノッセンシャフトフホルステン）及共益山林（インテレッセンフホルステン）是ナリ甲ハ西部及中部ノ諸州ニ多ク見ルモノトス乙ハ東方諸州ニ多ク見ルモノニシテ君主ノ賜與又ハ使用權ノ解除ヨリ由來ス總面積ハ千八百八十年ニ於テ拾萬三千五百九十二「ヘクタール」ナリ共同經濟ノ山林ハ新附諸州ニ於テ大概國家ノ監督下ニ立チ舊州ニ於テハ山林ノ法律ニ採用シタル二三ノ地方規則チ設ケタル而已〇（五十四）一八八一年三月十四日ノ法律第六條乃至九條〇（五十五）一八七五年七月六日ノ法律、一八七八年二月二十五日ノ法律」此法律ハ官有、町村有、公會有組合有ノ山林ニ關スル規則チ除キ總テ爾餘ノ經濟上ノ制限チ廢シタリ第一條〇（五十六）同上法律第二條乃至五條〇（五十七）同上第六條乃至二十二條（第十五條ニアル期限ハ今ハ二週間ナリ地方行政法第五一條）及行政裁判所ノ設置ナキ州ニ對シテハ第四八條乃至五二條、處罰第五三條〇（五十八）同上第二三條乃至三〇條（第二十三條ノ正誤アリ）〇（五十九）同上第四五條、四六條（第四七條ハ註文五十三ニ記載シタル法律第十條ニ依リ廢止ス）〇（六十）同上四二條、四三條〇（六十一）同上第三一條乃至四一條〇（六十二）仝上第四四條〇（六十三）千八百八十年マテニ保護林チ設ルコト拾ケ所ニシテ其面積五百三「ヘクタール」ナリ森林組合チ設ルコト二十二個ニシテ其面積二千八「ヘクタール」ナリ

第四章　田野及山林警察

第三百四十條　（甲）田野及山林ニ關スル罪ハ之ヲ犯スニ易ク且ツ其物件モ通常輕易ノモノナルニ依リ其處刑ヲ輕フスト雖モ實際ニ於テ罪ヲ辨知スルコトハ頗ル難事ニ屬スルヲ以テ別段ノ規則ヲ設ケ普通刑法（六十四）及普通治罪法ヲ補足スルニ至レリ其規則ハ事實ノ査定及損害賠償ノ請求ヲ爲スニ簡易ニシテ且ツ安固ナルヲ主眼トス

隣境ノ諸國トハ條約ヲ結ヒテ双方ヨリ其犯罪人ヲ追捕ス(六十五)内地ニ於テハ山林及田野ノ違警察ニ對シ並山林盜ニ對シ各々特別ノ規則ヲ設ケタリ舊時ノ山林及田野違警罪ニ關スル規則ハ甚タ不完全ナリシカ彼ノ農制改革ト農業及山林業ノ新ナル發達トニ依テ各州古來ノ差別大抵消滅シ且ツ新刑法ニ於テ普通ノ原則ヲ定メタル以來全國書一ノ制ヲ設クヘキノ必要ヲ生シタリ之カ爲メ全國ニ通スル山林及田野違警罪ノ處罰法ヲ設ケタリト雖モ各地方ノ事情ハ固ヨリ之ヲ參酌スルノ餘地ヲ存シタリ(六十六)

罰則ハ大体刑法ニ據ルト雖モ亦間々之ヲ擴張シ及之ヲ變改スル所アリ即チ一ハ刑法通則ノ適用ニ關シ一ハ一定ノ行爲ヲ罰スルノ變例ヲ設ケタリ(六十七)(六十八)其特ニ罰スヘキ行爲ハ濫リニ他人ノ所有地ニ蹈入ルコト及之ヲ使用スルコト(六十九)牧草ヲ盜ムコト其他作物ヲ持去ルコト及之ニ害ヲ加ルコト是レナリ牧草盜取ニ關シテハ土地ノ規定ニ餘地ヲ與ヘタリ(七十)又作物ヲ持去ルコト及之ニ害ヲ加ルコトニ關シテハ其作物若クハ損害ノ價格十「マルク」以下ニシテ山林盜ニアラサルトキニ限リ此罰則ヲ適用スヘシト定メタリ(七十一)其他ノ罰條ハ多クハ豫防的警察ノ性質ヲ有ス即チ陷落(七十二)火災(七十三)若クハ獸蓄(七十四)ニ起因スル禍害及損失ヲ豫防シ又ハ木材ノ運搬ニ對シテ盜難ヲ豫防スルノ取締規則(七十五)タリ

治罪ノ手續ハ少許ノ變更ヲ以テ普通治罪法ノ原則ヲ適用ス(七十六)罰金ノ徵收方モ亦普通ノ規則ニ依ル(七十七)損害賠償ノ請求ハ民事訴訟ニ依テ之ヲ起スヘキモノナレ𪜈裁判官ハ被害者ノ申立ニ依リ處罰ト同時ニ損害ノ賠償ヲ命スルコトヲ得(七十八)牧草竊取及他人ノ所有地ニ家蓄ヲ蹈入レシメタル塲合ニ於テ被害者ハ四週日内ニ家蓄ノ種類及員數ニ從テ算定シタル賠償金額ヲ請求スルコトヲ得而シテ町村警察官ハ關係者ノ申立ヲ聞キ此請求ヲ裁定ス此際被害者ハ損害賠償金ノ請求及其費用ヲ保スル爲メ家蓄ヲ質トシテ取押フルコトヲ得但シ取押ヲ爲シタルトキハ二十四時間内ニ町村役塲若クハ町村警察官ニ其旨ヲ申告シテ指揮ヲ請ハサルヘカラス否ラサレハ賠償ノ請求權ヲ失フモノトス其指揮ニ服セサル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得又質物買戻若クハ賣却ノ金額ハ賠償ニ充テ其殘餘ハ家蓄ノ原有者ニ歸ス其原有者不明ナルトキハ救貧金庫ニ納ム(七十九)

田野及山林ノ保護ヲ爲サシムルタメ町村及地主ハ監督官廳若クハ郡長若クハ官廳ノ認可ヲ得テ田野山林看守人又ハ無給ノ田野看守人ヲ置クコトヲ得此看守人ハ職務章ヲ携帶シ官吏ノ資格ヲ占有ス(八十)

山林盜處罰規則ハ裁判所編制法ノ制定アリタルカ爲メ更定シタルモノニシテ(八十一)其罰則及審判手續ハ普通法ニ異ナル所尠カラス山林盜ニ屬スルモノハ木材(木屑樹

皮若クハ切屑ヲ包含ス)及其他未タ占得採集セラレサル山林産物ノ竊盜是レナリ(八十二)

山林盜ハ竊取シタル物品ノ代價五倍ニ當ル過料金ニ處ス而シテ其額ハ如何ナル場合ニ於テモ一「マルク」ヨリ少キヲ得ス事情ノ重キ時及再犯ノ場合ニ於テハ同上代價ノ十倍マテ過料金ヲ增重スルコトヲ得此場合ニ於テ過料金ノ最下額ハ二「マルク」トス又罪狀ノ特ニ重キ者及三犯以上ノ者ニハ別ニ罰金若クハ禁獄ヲ附加スルコトヲ得(八十三)被害者ハ過料金ヲ得ルノ外ニ民事私訴ニ依テ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得又犯罪者ノ携帶シタル器具ハ取押ヘテ官ニ沒收ス(八十四)

山林盜ノ審判ハ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス而シテ通常裁判官ノ處罰令ヲ以テシ且ツ事件ノ頻繁ナルニ依リ別ニ參審官ノ列席ヲ要セスシテ裁判ス(八十五)山林保護ノ任ニ當ル官吏並申報手數料ヲ受取ラサル私設看守人ハ正實ナル申報ヲ爲スヘキコトヲ誓約セサルヘカラス(八十六)

第三百四十一條　(乙)有害動物及植物ノ撲滅　農業及山林業ハ細小動物ノ爲メ害ヲ被ルコト勘カラス其動物ハ甚タ速ニ繁殖蔓延スルニ依リ時トシテ衆力共同シテ之カ撲滅ニ從事セサルヘカラサルコトアリ斯ノ如キ有害動物ノ蔓生スルハ時季ト場所ノ情況ニ原因ス故ニ其豫防法及撲滅法ハ概シテ警察令ヲ以テ定ムヘキ地方規則ニ委任セリ(八十七)但シ馬鈴薯蟲(千八百七十七年)及葡萄蟲(八十八)ノ發生シタルトキハ普通ノ撲滅規則ヲ設ケタリ其他有用鳥ノ保護ハ有害動物ノ撲滅ニ効アルモノトス(八十九)有害植物(雜草ノ繁殖ハ公衆一般ニ害ヲ及ホスコト希レナルニ依リ一二ノ場合ヲ除キ其撲滅ヲ一個人ノ手ニ委ス(九十)

(原註)(六十四)獨逸各邦立法ノ權限本書第一七三條第一項及二〇三條第四「農務大臣カ三十「マルク」マテノ罰金ヲ課スヘキ命令ヲ發スルノ權」(六十五)田野、山林、鳥獸獵及漁業ノ犯罪ニ關スル條約ハ一八四二年三月二十一日及一八四八年一月十五日ノ勅令ヲ見ヨ(六十六)一八八〇年四月二十九日ノ獨白條約ヲ見ヨ(六十七)同上田野山林警察規則、同年五月十二日ノ實施規則、ダウベ氏ノ註釋書(一八八五年伯林刊行第三版)アリ(六十八)同上第二條乃至八條殊ニ未丁年者ノ罰及父母後見人ノ監督ヲ受ル者又ハ家族ノ爲メ父母後見人若クハ雇主若クハ家主カ責ニ任スル事、同上第四條及五條(六十九)仝上第九條及十條、二六條乃至二八條、山林ニ在テハ第三六條、三八條乃至四二條、刑法第三六八條第九項ヲ比較セヨ(七十)田野山林警察規則第一一條乃至一六條、萊因州第九四條、舊來ノ警察規則ヲ當分ノ內續行スヘキコト第九六條第三項(七十一)同上第一八條乃至二五條、三〇條、三一條及六條乃至八條「山林ノ毀損第三五條及三七條」山林盜ハ註文八十一「刑法第三七〇第一及第二ヲ比較セヨ(七十二)田野山林警察規則第二五〇條(七十三)田野山林警察規則第三二條、山林法第四

四條乃至四六條(本書第二五二條ヲ比較セヨ)山林ノ近傍ニ於ル建物ノ火災同上第四二條乃至五二條(本書第二八〇條第二項ヲ比較セヨ)〇(七十四)田野山林警察規則第三三條三四條本書第三四一條〇(七十五)田野山林警察規則第四三條」此規定ハ警察令又ハ別段ノ法律ニ基由ス例之ハ一八三九年六月三十日サツクゼン、ウエストフアーレン及ラインノ三州ニ發布シタル法律ノ如キ是ナリ〇(七十六)田野山林警察規則第五三條乃至六一條參審裁判所ノ審判手續ニ關シテハ本書第二三七條ヲ比較セヨ〇(七十七)田野山林警察規則第九六條」罰金ハ裁判所ノ處罰ニ在テハ國庫ニ納メ警察上ノ處罰ニ在テハ該警察ノ金庫ニ納ム(本書第二三七條)但シ一八四年十一月一日ノ田野警察規則ノ行ハレル地方ニ於テ課徴シタル田野警察上ノ罰金ハ必ス町村ノ收入トス同上第四七條又一八四三年三月五日ノ令ニ依リ山林落葉採用規則ノ違犯者ニ課シタル罰金ハ山林持主ノ收入トス同上第七條第六項〇(七十八)田野山林警察規則第六七條、六八條、審判手續ハ治罪法第四四三條乃至四四五條〇(七十九)田野山林警察規則第六九條乃至八八條(第七六條及八四條ノ期限ハ現今二週間ナリ地方行政法第五一條)罰ハ第一七條」損害賠償ヲ保スル爲メ又ハ將來ノ被害若クハ權利侵犯ヲ防禦スル爲メ質物ヲ取押フルノ權ハ普通ノ原則ニ依ル者ニシテ(即チ普通法典一ノ十四第四一三條乃至四五七條、但シ佛國ノ法律ニ依ラス)此規則ニ於テモ亦第九六條第二項ニ之ヲ採用シタリ〇(八十)田野山林警察規則第六二條乃至六六條、兵器ヲ携帶スルノ權ハ終身官ニ任セラレテ確定ノ俸給ヲ受ケ且ツ誓約ヲ爲シタル山林官ニ屬スルノミ一八三七年三月三十一日ノ法律(本書第一二五條ノ

註文四十六)第一條、抗官ノ罪ハ刑法第一一七條乃至一一九條、下等山林官吏ハ撿察官ノ補助ヲ爲ス本書第二三三條ノ註文六〇(八十二)一八七八年四月十五日ノ山林盜處罰規則、シューフエルト氏ノ註釋(一八八四年伯林刊行)〇(八十二)同上第一條〇(八十三)同上第二條乃至一八條及三四條乃至三六條、就中未丁年者ノ罰及父後見人雇主若クハ戸主カ自己ノ監督下ニアル人ノ爲メ責任ヲ有スルコト第一〇條乃至一二條、第三六條、罰金ヲ納ルコト能ハサル者ヲ禁獄ニ換ヘ之ヲ町村若クハ山林ノ勞役ニ使用スルコト同上第一四條及三四條〇(八十四)同上第三四條及一五條、一六條〇(八十五)同上第一九條乃至二二條、二六條乃至三三條及三五條、山林盜ノ計表ニ關シテハ(第二六條)一八七九年七月二九日ノ法律」裁判費用ハ一八七八年六月一八日ノ帝國法律ニ依テ徴收ス一八七九年三月十日ノ實施規則第二條〇(八十六)同上處罰規則第二二條乃至二五條及地方行政法第一五三條〇(八十七)山林警察規則ニ違ヒタル者ノ罰第三四條、警察官ノ命令シタル蛔蛤(アカムシ)驅除ヲ怠ル者ノ罰ハ刑法第三六八條第二項」警察令ハ主トシテ土撲鼠(ヤマネヅミ)、甘口鼠(ハツカネヅミ)、金龜子(コガネムシ)ノ卵生ヲ驅除スル爲メ並山林ニ在テハ「ホルケンケーフエル」(樹皮ニ生スル金龜子)ヲ驅除スル爲メ之ヲ發布ス〇(八十八)一八八一年十一月三日諸國ト締結シタル葡萄蟲驅除條約ニ依リ獨逸政府ハ葡萄蔓及葡萄園ノ其他ノ產物ノ輸出入ヲ禁スル法律(一八七三年二月十一日及一八七九年十月三十一日並一八八三年七月四日ノ勅令)ノ外ニ又葡萄蟲ノ豫防及撲滅規則ヲ設ケタリ一八七五年三月六日及一八八三年七月三日ノ帝國法律、一八七八年二月二七日ノ法律及一八八五年三月二三日ノ法律〇(八十九)刑法第三六八條第一一項、山林警察規則第三三條及三四條、一八六七年九月十

八日ノ達〇(九十)此例外ニ屬スルモノハ Senecio vernalis (黃色茂生花) Cnsta 及穀物ヲ害スル Berbeiten ノ芟除規則ナリ此規則ニ違ヒタル者ノ罰ハ田野警察規則第三四條

第五章　牧蓄及獸醫

第三百四十二條　(甲)牧蓄ハ耕作ヨリモ曩キニ開ケタレモ耕作ト密着シ耕作ノ發達ニ缺クヘカラサルモノトナレリ(一)而シテ耕作ノ進歩ト共ニ牧蓄モ亦往時ニ比シテ其面目ヲ改メタリ然レモ牧蓄用ノ地所ハ彼ノ牧場ヲ開墾シテ耕地トナシ及他人ノ所有地ニ於テ牧蓄スルノ權ヲ廢シタル以來大ニ縮少シタリ之ニ對シテ特ニ飼草ヲ培養シテ不足ヲ補フト雖モ是ハ蓄舍ニ於テ飼養セサルヘカラサルノ不便ヲ免レス斯ル更鞏ノ既ニ充分實行セラレタル地方ニ於テハ牧蓄ノ一部、殊ニ牧牛ノ事業從前ヨリモ一層精密ニ渉リ飼養保育共ニ鄭重ニ赴キタレモ其他ノ牧畜業ハ維持ノ道ヲ失ヒタリ

就中牧馬ノ業ハ維持ノ道ヲ失ヒタルモノヽ一ナリ牧馬ノ業ハ廣大ナル牧場ヲ缺ク能ハサル者ナレハ漸次其場所ヲ變シ即チ孛漏生、ポーゼン、シレースウサヒ、ホルスタイン及ハノーフル諸州中從前ノ牧場ヲ耕地ニ變スルノ便利ナキ地方ニ移轉シタリ然レモ牧馬ノ業ハ馬匹ノ代價高クシテ經濟上特ニ貴重ノ價格ヲ有シ同時ニ國防上甚タ緊要ナルカ故ニ政府ハ農務省ニ附屬セシムル牧馬官ヲ設ケ以テ此事ニ特別ノ意ヲ用ヒタリ(二)牧馬本部ニ於テハ專ラ良馬ノ繁殖ヲ務メ(三)地方ノ牧馬部ニ於テハ適宜ノ土地ニ種馬ヲ配置シテ人民私有ノ牧馬ノ改良ヲ力トム(四)又政府ハ種馬ヲ得ンカ爲メ集結シタル馬種改良協會ニ補助ヲ爲ス(五)其他二三ノ州ニ於テハ馬種改良ノ目的ヲ達スル爲メ凡ソ私有種馬ハ種馬審査委員ノ認可ヲ得ルニアラサレハ交接ニ供スヘカラストノ規定ヲ設ケタル所アリ(六)種馬ヲ引キテ各地ヲ旅行スルコトハ縣廳ニ於テ之ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得(七)政府ハ又賞ヲ懸ケテ競馬ヲ奬勵シ且ツ伯林府ニ上等仲裁々判所ヲ設ケ競馬ヨリ起ル爭論ヲ裁定セシム(八)

第三百四十三條　(乙)獸醫ニ關スル事務ハ農務大臣ノ管掌トス(九)其事務ノ爲メ技術委員ヲ置キ農務大臣ヲ輔佐セシム(十)獸醫ハ獸醫學校ニ於テ其術ヲ講修ス(十一)獸醫タラント欲スル者若クハ各地ヲ周行シテ獸病ヲ治療セント欲スル者ハ特許ヲ得ルヲ要ス此特許ハ試驗ニ及第シタル人ニ附與スルモノニシテ獨逸全國ニ向テ効力ヲ有ス(十二)

郡若クハ縣ノ獸醫トシテ郡長若クハ縣知事ノ顧問タル官任獸醫ハ獸醫事務技術委員ヲ以テ搆成シタル特別試驗委員ノ試驗ヲ受ケテ之ニ及第シタル者ニ限ル(十三)(十四)

第三百四十四條　(丙)獸疫警察ハ獨逸帝國立法上ノ管掌ニ屬ス(十五)故ニ帝國法律ハ獸畜ノ傳染病ニ關ノ官廳ノ命令シタル封鎖規則及取締規則ヲ犯ス者ノ處罰ヲ定メ(十六)且

ツ萬一ノ傳染ヲ豫防スル爲メ鐵道會社ニ負ハシムルニ獸畜運搬ニ使用シタル車臺ヲ使用後必ス消毒スヘキ義務ヲ以テシタリ(十七)其他牛疫及爾餘ノ家畜流行病ニ對シテ各々特別ノ法律規則アリ

牛疫ハ傳染力ノ猛劇ナルト蔓延ノ迅速ナルトニ因リ特ニ危險ナル獸病ニ屬ス(十八)牛疫豫防法ハ(十九)疫病ノ疑ヒアリ病牛ノ隔離若クハ撲殺及傳染ヲ媒介スル物品ノ剿滅及消毒ヲ行フコトニアリ(二十)撲殺シタル牛及剿滅シタル物品ニ對シテ帝國政府ハ評價人ノ評定シタル價格ヲ償給ス(二十一)豫防法ヲ實施スルハ各邦官廳ノ任トス但シ帝國政府ハ之ヲ監督シ且ツ必要ノ場合ニ於テハ委員ヲ任用スルコトヲ得、病牛隔離法ヲ施行スルニ當リ軍隊ハ必要ノ補助ヲ爲サヽルヘカラス(二十二)何人ニ限ラス牛疫ノ發生及其發生ノ兆アルトキハ之ヲ官ニ申告シ並其住地ニ於テ官廳ノ施行スル豫防ニ助力スルノ義務アリトス(二十三)其違犯者ハ相當ノ罰ニ處ス(二十四)其他ノ家畜傳染病ニ關シテモ近時家畜貿易ノ盛大ナルト共ニ其危險モ亦增多シタルニ依リ帝國政府ハ全國ニ通スル豫防法ヲ定メタリ(二十五)即チ傳染病ニ罹レル家畜ノ輸入ハ之ヲ嚴禁シ外國ニ於テ家畜傳染病ノ發生シタル時ハ臨時ニ一切ノ家畜ノ輸入ヲ禁シ又ハ之ヲ制限シ且ツ國境ニ於テ家畜賣買取引ノ制限及家畜檢查ヲ實行スルコトヲ得セシム(二十六)內地ニ於テ家畜傳染病ノ發生スルコト又ハ發生ノ疑アルトキハ家畜ノ持主及其代理人獸醫及獸肉檢查員ハ其旨ヲ警察官ニ申報スヘキ義務ヲ負ヘリ(二十七)家畜傳染病發生ノ有無ハ郡ノ獸醫之ヲ認定ス(二十八)其獸醫ハ同時ニ當業者ノ入費ヲ以テ家畜市場及馬市場ヲ視察セサルヘカラス(二十九)傳染ノ危險ニ對スル豫防方ハ現ニ傳染病ニ罹レル家畜若クハ之ヲ牧場ニ引ク コトヲ制限シ畜舍若クハ發病地ヲ封鎖シ之カ使役ヲ制限シ若クハ之ヲ種接法及獸病治療法ヲ行ヒ發病ノ家畜ヲ撲殺シ死體及排泄物ヲ無害的ニ除去シ消毒法ヲ行ヒ其他市場ヲ閉チ傳染病流行地若クハ其近傍ニアル家畜ノ察病ヲ行フ等ニアリ(三十)

法律ニ揭ル各種ノ獸病中特別ノ處分ヲ規定シタルモノ左ノ如シ(三十一)

(一)「ミルツブラント」病ニ在テハ屠殺及剝皮ヲ禁シ獸醫ノ外、其病畜ヲ切截シ及解剖スルコトヲ禁シ並ニ死體ヲ無害的ニ除去スルコトヲ命ス(三十二)

(二)狂犬病ニ在テハ病畜及其病畜ヨリ咬傷ヲ受ケタリト思量スヘキ犬及猫ヲ撲殺シ且ツ狂犬若クハ其疑アル犬ノ逃走シタルトキハ其他ノ犬ヲ總ヘテ其危險ノ存スル間拘鎖スルモノトス(三十三)

(三)馬鼻疽(ロッツ)ニ罹リタル馬、驢及騾ハ直ニ撲殺シ其死體ヲ無害的ニ除去セサルヘカラス罹病ノ疑アル動物ハ之ヲ隔離シ警察上監視シ時トシテ又之ヲ撲殺シ其死體ヲ

無害的ニ除去スルコトアルヘシ(三十四)

(四)「アフテン病」ニ罹リタル牛、綿羊、山羊及豚ハ之ヲ隔離ス其生乳ハ人類ノ飲用ニ供スルヲ禁ス(三十五)

(五)肺疫ニ在テハ罹病牛若クハ罹病ノ疑アル牛ヲ撲殺ス(三十六)

(六)群羊中ニ痘瘡ノ發生シタルトキハ未感染ノ羊並他ノ群羊ニ種痘ヲ施シ且ツ之ヲ隔離ス他ノ種痘ハ之ヲ禁ス(三十七)

(七)馬ノ「ベシエール」病ニ在テハ馬及牛ノ急性發疹病ト同シク此病ニ罹リタル種馬ノ交接ヲ禁ス(三十八)

(八)馬(驢及騾)及綿羊ノ疥癬病ニ對シテハ獸醫ノ療法ヲ定ム(三十九)

以上ノ規則ハ家畜屠殺場及公共屠獸場ニ適用ス(四十)

警察官ノ命令ニ依リテ撲殺シタル家畜又ハ警察規則ニ因リ疫病ノ爲メ斃レタル家畜アルトキハ國庫ヨリ其普通ノ價格ヲ賠償ス但シ馬鼻疽ニ在テハ普通價格ノ四分三、肺疫ニ在テハ其五分四ヲ償給スルノミ(四十一)又馬鼻疽及肺疫ノ場合ニ於ル償金ハ州自治体ノ負擔トス州自治体ハ別段ノ規則ニ依リ馬、驢、騾若クハ牛ノ持主ニ其償金ヲ賦課ス(四十二)痘瘡ニ罹リタル綿羊ヲ撲殺シタルカ爲メ其持主ニ賠償ヲナスコトハ州自治体ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得(四十三)總テ賠償金額ハ郡獸醫ト郡參事會及市參事會ノ選擧シタル仲裁人二名ヨリ成ル所ノ委員ニ於テ之ヲ確定ス(四十四)

違犯者ニ對シテハ處罰規則アリ(四十五)

法律ノ施行ハ各邦官廳ノ任務ニ屬シ(四十六)帝國大宰相ハ之ヲ監督シ必要ノ場合ニ於テハ帝國委員ヲ設ケテ事務ヲ統理セシムルコトヲ得(四十七)

(原註)(一)牧畜ノ事業ハ第一ニ馬、牛、綿羊、豚及山羊ノ繁殖保育、第二ニ家禽、蜜蜂及蠶兒ノ育養ヲ包括ス千八百八十三年孛國ノ家畜統計ニ據ルニ馬ハ貳百四拾壹萬七千百三拾八頭、牛ハ八百七拾三萬七千百九拾九頭、綿羊ハ千四百七拾四萬七千九百七拾五頭、豚ハ五百八拾壹萬八千七百三拾貳頭山羊ハ百六拾七萬九千六百八拾六頭ナリ家禽保險ハ本書第三一四條」シレージエン州ニ在テハ交互保險協會ノ廢止ニ由テ遺留シタル家畜保險資金ヲ州自治体ニ移シ畜牛上ノ經費ニ供シタリ一八七五年七月八日ノ法律第一一條、種牛ニ供スル牡牛ハ各村ニ於テ保有スルモノトス普典二ノ七第三七條十一項、萊因州ニ關シテハ本書第七八條ノ註文六十二ヲ見ヨ○(二)本書第五二條ノ註文七十四「農務省中牧馬ノ事務ニ任スル官吏ハ上等牧馬監ト稱ス地方牧馬部ノ長ハ牧馬監ト名ク牧馬官吏ノ制服ニ關シテハ本書第七〇條ノ註文九十三ヲ見ヨ○(三)牧場本部ハ現今トラケーネン、グラチッツ及ベーベルベックニ各々一ケ所アリ此本部ニアル純血統及半血統ノ牝馬ハ六百拾五頭及同數ノ牡馬アリ○(四)地方牧馬部ハ各州ニアリ(東孛漏生州ニ三ケ所、ポーゼン州及シレージエン州ニ各々二ケ所アリ)今其所在地ヲ擧ケレハラスデンブルヒ、インステルブルヒ、グ

ートウワルレン、マリエンウエルデル、ノ井スタツト、フリードリヒ、ウラーベス、チルクング子井ルヘルム牧場ーゼン、ロイプス、コーゼル、リンデナウ、トラウエンタール、ツエルレ、ウワーレンドルフ、ザルレンブルヒ、及ウ井ツケラートニシテ種馬ノ合數貳千百七拾五頭ナリ○(五)一八七〇年四月十三日ノ規則、畏種ノ牝馬報酬料ハ一八四〇年三月七日ノ閣令、一八五三年四月六日及一八五八年四月五日ノ省令○(六)例之ハポムメルン州ニ在テハ一八八〇年五月四日ノ州令、ボーゼン州ニ在テハ一八五九年十一月十日ノ州令○(七)營業條例第五六條乙第三項○(八)一八四六年十月五日ノ內閣令及一八六一年五月二十七日ノ勅令○(九)本書第五二條ノ註文七十四○(十)一八七五年五月二十一日ノ勅令○(十一)獸醫學校ハ伯林及ハノーフルニアリ其他キヨーニヒスベルヒ大學及ギヨツチンケン大學ニ附屬スル獸藥講究所アリ○(十二)營業條例第二九條、四○條及五六條甲第一項、特許ノ取上ハ同上第五三條、五四條及地方行政法施行ノ地ニ於テハ(權限法第一二○條第一項)特許ナキ者ニシテ獸醫ノ稱號ヲ濫用スルトキノ罰ハ營業條例第一四七條第三項」獸醫ノ試驗ハ一八七八年三月二七日ノ告示」國境ニ於テ外國獸醫ノ營業ヲ許スコトハ本書二七○條ノ註文六十六○(十三)一八七六年六月十九日及一八八五年一月二十九日ノ告示○(十四)一八七二年三月九日ノ賠償法、其第二條及五條ハ一八七六年九月十七日ノ法律ニ依テ改定セリ第三條ハ一八八一年二月二日ノ法律ニ依テ追補セラレタリ○(十五)帝國憲法第四條第十五項○(十六)刑法第三二八條○(十七)一八七六年二月二十五日ノ法律、一八七六年五月六日ノ告示、一八七六年六月十六日及一八七七年二月二十四日ノ指令○(十八)牛疫ハ畜牛ニ固有ナル神經熱ニシテ同時ニ內臟炎ヲ發シ壞

疽ニ陷リ竟ニ死ニ歸スルヲ例トス其傳染毒ハ病牛ノ諸器臟及分泌物中ニ存シ殊ニ揮發性ヲ有ス故ニ甚タ感染シ易ク且ツ甚タ速ニ空氣中ニ蔓延ス此病ハ露國ノ原野ニ於テ發生ス○(十九)一八六九年四月七日ノ法律、其第六條ハ一八七六年ノ法律(註文十七)第六條ニ依テ瘧セラレタリ○(二十)同上第二條、七條、八條、一八六九年五月二十六日ノ訓令、第一章乃至三章ハ一八七三年六月九日ノ訓令ニ依テ補足セラレタリ○(二十一)同上法律第三條其他ノ獸疫ニ關スル評價人ノ手數料ハ牛疫ノ場合ニ適用ス一八七九年五月十四日ノ達○(二十二)同上法律第一條、七條、九條乃至十四條○(二十三)同上法律第四條、五條○(二十四)註文十六、禁令ヲ犯シテ輸入スル者ニ關シテハ一八七八年五月廿一日ノ法律○(二十五)一八八○年六月二十三日ノ獸疫條例、一八八一年三月十二日ノ孛國實施規則及一八八一年三月廿二日ノ適用令、バイエルル氏著註釋(一八八一年伯林刊行)アリ○(二十六)同上條例第六條乃至八條、同上適用令第四條」單個ノ發病アルニ當リ郡長ハ町村警察官ノ職務ヲ執行スルヿヲ得其訴願ハ指令及爭議ノ手續(本書第二三一條)ニ依ルヲ要セス適用令第二條及地方行政法第一二四條第二項」獸疫及類似獸疫ノ定義ハ獸疫條例第一條及六條○(二十八)同上條例第十二條乃至十六條、適用令第五條、適用令第七條及廿四條○(二十九)同上條例第一八條乃至二九條○(三十)同上條例第一○條及三○條、一八八一年二月十二日ノ訓令○(三十一)同上條例第三一條乃至三三條、同上訓令第五條乃至一五條「ミルツブント」ハ多クハ死ニ轉歸スル猛劇ノ家畜病ニシテ主モニ食草獸ヲ襲フ其病毒ハ空氣、飼料及飲水ニ依テ家畜ノ体中ニ侵入シ殊ニ其血液中ニ於テ增殖スル而シテ体外ニ於テ就中、地中ニ於テモ亦永ク發生力ヲ保有ス

故ニ此病ハ一定ノ地方(河岸地)ニ於テ地方病トシテ時々反覆流行シ之ニ反シテ動物ヨリ動物ニ傳染スルハ希レナリ之カ爲メ血液、排泄物及埋葬ニ對シテハ特別ナル豫防方法ヲ規定セリ○(三十三)同上條例第二一條、三四條乃至三九條、同上訓令第十六條乃至三一條、其第二〇條ハ一八八二年五月二日ノ告示ニ依テ變化セリ」狂°犬°病ノ主トシテ犬ニ發シ犬ヨリ他ノ動物及人類ニ傳染ス其傳染毒ハ全身ニ播布シ殊ニ唾液中ニ混在ス故ニ咬傷ニ依テ傳染スルヲ多シトス犬猫此病ニ罹レハ發病ノ初期ニ於テ頻リニ狂走シ好テ他ノ動物及人類ヲ咬ム經過ハ甚タ速ニシテ且ツ死ニ歸ス○(三十四)同上條例第四〇條、乃至四四條、同上訓令第三二條乃至五六條、損害賠償ハ註文四十一、四十二、馬鼻°疽°ハ傳染ニ依テ發スルノミ其傳染ハ概シテ本病ニ罹レル動物ノ分泌液ニ原因ス其症狀ハ皮膚ノ潰瘍若クハ鼻粘膜漏ナリ經過ハ甚タ緩慢ニシテ殆ト悉ク死ニ轉歸ス○(三十五)同上條例第十五條、同上訓令第五七條乃至六九條、豚ニ關スル豫防ハ一八八三年八月一日ノ達、此病ハ口圍及蹄裂ノ發疹ヲ其子タル熱病ニシテ經過甚タ速カナリ其死ニ歸スルハ希レナリ然レ°モ家畜ノ勞動力ヲ減弱シ且ツ最容易ニ傳染スルカ故ニ甚タ有害ノ病トス○(三十六)同上條例第四五條、適用令第三〇條、訓令第七〇條乃至九一條、損害賠償ハ註文四十一、四十二」肺°疫ハ畜牛ニ固有ナル肺炎ニシテ獨リ患肺ノ呼氣ヲ吸入スルニ因テ發スルノミ始メ甚タ緩慢ニ經過シ而シテ後チ或ハ肺ノ硬結ヲ以テ消散シ或ハ速ニ蔓延シテ急性期ニ移ル末段ノ場合ニ於テ治癒スル牛ハ患牛ノ凡ソ五割ニ過キス又假令治癒スルモ顏ル緩徐ニシテ且ツ不全ナリ此病ハ通商貿易ニ依テ甚タ廣ク傳播シ其經過緩慢ナルニ依リ牛疫ヨリモ寧ロ有害ノ疫病

タリ○(三十七)同上條例第四六條乃至四九條、同上訓令第九二條乃至一〇九條」損害賠償ハ註文四十三、痘瘡ハ熱性發疹病ニシテ單ニ傳染ニ由テ發スルノミ其傳染毒ノ甚タ揮發性ナルニ依リ一トタヒ群羊中ニ發生スルトキハ之ヲ防遏スルニ至難ナリ種痘ハ蔓延ヲ抑止スルノ効リア此病ハ患羊ノ一割乃至二割ヲ斃ス○(三十八)同上條例第五一條、適用令第一〇九條」此°病ハ獨リ馬ニ發スルノミ而シテ交接ニ由テ傳染ス其經過緩慢ナルトキハ生殖器及膚ノ腫脹ヲ來シ痲痺ヲ併發シ往々死ニ轉歸ス水°泡°病°ハ馬及牛ニ發シ交接ニ由テ傳染ス但シ通常速ニ治癒ス○(三十九)同上條例第五二條、同上訓令第一二〇條乃至一三二條」疥癬病ハ寄生蟲(疥癬蟲)ニ因スル發疹病ニシテ其傳染ノ甚タ容易ナルニ由リ速ニ蔓延シ獨リ充分ノ浴治法ニ由リ其根ヲ絕ツコトヲ得ルノミ○(四十)同上條例第五三條乃至五六條、適用令第十一條、同上訓令第二條○(四十一)同上條例第五七條及五九條、乃至六三條、適用令第十三條○(四十二)同上條例第五八條及六四條、適用令第十二條、十四條乃至十六條」カツセル、ウ井スバーデン、ジグマーリンゲンノ三縣ラウエンブルヒ郡及伯林府ノ自治体ハ州自治体ニ同シ○(四十三)同上第二二條○(四十四)同上條例第五八條適用令第十七條乃至二一條、仲裁人ノ手數料ハ一八七六年三月二十六日ノ達、及一八八年二月二十一日ノ達、誓約ハ一八八五年八月十一日ノ達○(四十五)同上條例第六五條乃至六七條」刑法ニ依レハ故意ヲ以テ警察令ヲ犯シタル者ニアラサレハ罰スルヲ得ス○(四十六)同上條例第二條及五條、適用令第一條、二條及費用ニ關シテハ第二三條乃至二八條、軍衙ノ權限ハ條例第三條○(四十七)同上第四條

第六章　鳥獸獵（四十八）

第三百四十五條　（甲）獵權ハ君主ノ領地ニ於テ特有權（レガール）（四十九）トナリ地頭ノ支配地ニ於テ狩獵獨占權（五十）トナリテ發達シタルモノナルカ他人ノ所有地ニ於テ狩獵スルコトヲ禁シタル以來、土地所有權ノ一部トナレリ此ニ依リテ自己ノ所有地ニ於ル獵權ヲ他人ニ讓與スルコトアルモ之ヲ一ノ物權トシテ永久土地ヨリ別離スルコトナシ（五十一）獵權ニ屬スル物体ハ總テ狩獵セラレ得ヘキ鳥獸ヲ言フ狩獵セラレ得ヘキ鳥獸ハ舊州ニ於テ個々ノ獵則及山林規則ニ據テ之ヲ定メ此規則ナキ地方ニ於テハ普通法典ニ依ル（五十二）

獵權ハ濫リニ狩獵スル者ノ處罰ヲ以テ之ヲ保護ス其處罰ハ本刑ノ外ニ携帶ノ獵銃獵具及獵犬ヲ沒收ス（五十三）又狩獵ノ豫備ヲ爲シテ他人ノ所有地ニ蹈入ル者並狩獵セラレ得ヘキ野禽ノ卵巢ヲ取ル者ニ對シテ罰則ヲ設ク（五十四）

第三百四十六條　（乙）鳥獸獵警察　鳥獸獵ノ自由ハ一ノ制限ナカリシニ因リテ諸般ノ弊害ヲ誘起シ竟ニ之ニ一定ノ制限ヲ加ルノ必要ヲ生シタリ其制限ハ身命財產ノ安全、農業ノ保護及禽獸ノ保存ヲ目的トス（五十五）土地所有者ハ墻壁欄柵アル所有地若クハ三百「モルゲン」以上ノ連續地ニ限リテ狩獵スルコトヲ得數人ノ所有地ニ在テ狩獵ヲ爲スノ允許ヲ得ル者ハ三名以內トス町村內ニ在ル爾餘ノ地所ハ共同獵區ヲ攝成ス（五十六）共同獵區ノ持主ハ町村役所ニ於テ代理ス町村役所ハ其獵區ノ狩獵ヲ停止シ若クハ持主ヲ利スル爲メ獵師ヲ任シテ狩獵セシメ若クハ三年乃至十二年間ヲ期シ三名以下ノ人ニ獵區ヲ賃貸スルコトヲ得（五十七）狩獵ハ獵券ヲ有スル者ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス又獵權者ト同伴セサル人ハ獵權者ノ允許證ヲ有スルニアラサレハ狩獵スルコトヲ得ス獵券ヲ得ルニハ郡自治体ノ金庫ニ手數料三「マルク」ヲ拂ハサルヘカラス（五十八）新州ニ於テモ亦殆ト同一ノ規定ヲ行フ一地方ニ於テ受ケタル獵券ハ全國ニ向テ効力ヲ有ス（五十九）土地所有者ハ野禽野獸ノ爲メ被ムル損害ニ對シ一定ノ保護權ヲ有スルモ其賠償ヲ請求スルノ權アルコトナシ（六十）各種ノ鳥獸ニ對スル禁獵期限ハ全國平等ニ確定セラレタリ（六十一）但シホーヘンツオルレン（六十二）及ラウエンブルヒ（六十三）ニ於テハ別段ノ法律ヲ施行ス

以上ニ略述シタル法制ハ元ト數多ノ不適當ナル狩獵者ヲ制限スルノ目的ヲ以テ設定シタルモノナルニ實際ニ於テ法網ヲ脫スルニ容易ク隨テ其目的ヲ達スルコト能ハサリキ其他廣大ナル所有地ヲ別離シテ殘留スル町村內ノ土地ヲ獵區ニ合併スルコトハ從々其區域ヲ畫定スルニ困難ヲ釀スコトアリ此法制ヲ變改セント試ミルモノアルモ今ニ至ルマテ未タ其効ヲ見ス

（原註）（四十八）ヴグ子ル氏著孛國狩獵法（千八百八十三年伯林刊行）ヲ見ヨ本書第一二二條ノ註

文十五ヲ比較セヨ○(四十九)本書第一三○條ヲ見ヨ普典二ノ十六第三章ハ狩獵特有權ヲ揭載ス○(五十)普典一ノ九第一二七條、一四九條乃至一五八條○(五十一)一八四八年十月三十一日ノ法律○(五十二)普典二ノ十六第三三○條乃至三六條○(五十三)刑法第二九二條乃至二九五條」獵具沒收ヲ以テスル害刑ハ一八五四年六月二十六日、一八六八年五月十九日及一八七六年九月六日ノ達」野鳥野獸ノ貿易ニ對シ警察令ハ其狩獵原地ヲ證明セシメ以テ監察ヲ施行ス一八七三年八月九日ノ達、國境地方ニ於ル獵則違犯者ノ處罰規則ハ本書第三四○條ノ註文六十五○(五十四)刑法第三六八條第十項及第十一項○(五十五)一八五○年三月七日ノ舊九州鳥獸獵警察法、地方行政法施行ノ地ニ施行シタル權限法第一○三條乃至一○六條及一○八條ハ新附諸州ニ於ル從前ノ鳥獸獵警察ハ町村警察官ノ司掌トス權限法第一○三條第一項○(五十六)鳥獸獵警察法以下獵警法ト略記ス第一條乃至七條及地方行政法施行ノ地ニ於テハ權限法第一○四條、一○五條、城砦領域内ニ於ル狩獵ハ獵警法第八條及二八條並一八四八年十月三十一日ノ法律第五條○(五十七)獵警法第九條乃至一三條、權限法第一○四條第二項及一○六條○(五十八)同上第一四條乃至一七條獵警法ノ違犯ニ對スル責任ハ同法第一九條、罰ノ期滿效ハ第二○條、罰金ヲ禁錮ニ換ヘルコトハ第二九條○(五十九)一八六八年三月九日ノ法律「獵券手數料ハラウエンブルヒニ於テ六「マルク」、ハノーフルニ於テ九「マルク」、ヘッセンナサウニ於テ七「マルク」半及ホーヘンツオルレルンニ於テハ「マルク」半トス○(六十)獵警法第二一條乃至二五條權限法第一○三條第二項、ハノーフル及ヘッセンナサウ「フランクフルト府ヲ除ク」ニ於テハ野鳥野獸ノ爲メ被ムリタル損害賠償ノ請求權ヲ認ム○(六十一)一八七○年二月二十六日ノ法律及權限法第一○七條○(六十二)一八五三年五月二日ノ法律○(六十三)一八七○年二月二十六日ノ法律

第七章　漁業

第三百四十七條　(甲)漁權ハ水ノ所有權ヨリ出テタルモノニシテ其原則ハ獨リ湖池井壕等ノ潦水ニ對シテ効力アルノミ(六十四)(六十五)何トナレハ斯ノ如キ潦水ニ在テ始メ漁權ヲ生スレハナリ流水ニ在テハ特別ノ漁權アリ(六十六)公共河川ニ於ル漁權ハ國家ニ屬スルヲ例トス(六十七)特別ノ漁權存在セサル所ニ於テハ町村其漁權ヲ有ス自由漁業ノ權ハ既ニ廢止セリ(六十八)

濫リニ漁業ヲ爲ス者ニ對シテ處罰規定アリ(六十九)

第三百四十八條　(乙)漁業警察政府ハ漁業ヲ直接ニ奬勵スルノ外(七十)亦之ヲ保護セサルヘカラス故ニ往時ノ錯雜ヲ極メタル不充分ノ地方規則ニ換ヘテ今日ハ全國一樣ノ漁業法ヲ設ケテ之ヲ施行ス漁業法ノ目的ハ舟運、工業及農業ノ利益ヲ損セスシテ漁業ヲ認許シ水產物ノ保育及繁殖ヲ害セスシテ營業ニ從事セシメ得ルニアリ(七十一)漁業法ハ鰛、牡蠣、貝類及其他ノ有用水產物ノ漁獲マテヲ規定シタレ𪜈單ニ海岸河岸及河湖ノ漁業ヲ整理シタルノミ(七十二)大洋漁業ニ至テハ列國條約ニ依ラサルヘカラ

ス(七十三)他人ノ所有水ニ於テ漁業スルノ權利ハ其水ノ經濟上利用ヲ妨害スルニ依リ賠償ヲ爲シテ之ヲ制限シ若クハ之ヲ全廢スルコトヲ得(七十四)町村ハ漁夫ヲ雇ヒテ其所有水ニ於テ漁獲セシメ又ハ其漁權ヲ貸貸スルコトヲ得(七十五)又廣大ナル漁業場ノ權利者ハ監督保護及經濟ノ爲メ相合シテ漁業組合ヲ組織スルコトヲ得(七十六)凡ソ漁業ヲ爲ス者ハ漁權アル者自ラ之ヲ爲スノ場合ヲ除キ警察官ノ允許證ヲ携帶セサルヘカラス(七十七)有害ノ漁具(毒性餌食、水雷火)及魚ノ泳行ヲ抑止スル漁獲裝置ハ法律ノ禁スル所ナリ(七十八)又魚類ノ成育ヲ妨害セサランカ爲メ各州各別ノ法律ヲ以テ市ニ販賣スル魚ノ最小寸尺及最下重量ヲ定メ並各種ノ魚類ニ由テ異同アル不漁期及漁具ノ使用製法ニ關スル規準ヲ定メタリ(七十九)法律ハ魚ノ附卵ヲ妨害セサルカ爲メ並ニ附卵ノ時ニ海ヨリ河湖ニ遡ホルコトヲ容易ナラシムルカ爲メ禁漁區域ノ設定ヲ許シ(八十)並所謂轉徙魚類(鮭、鱒、鰻、石班魚、鰻)ノ河中昇降ヲ妨害セサランカ爲メ魚道ノ設定ヲ許ス(八十一)農業上及工業上ヨリ生スル有害ノ殘滓物ヲ放流シテ魚類ノ生存スル水ヲ不潔ニナス事及圍閉セサル潦水及流水ニ於テ大麻亞麻ヲ曬晒スル事ハ法律ノ禁スル所ナリ(八十二)新ニ「チウルビン」水車ヲ設ル時ハ保護格子ヲ附セサルヘカラス(八十三)漁業ヲ爲ス者ハ獵銃ヲ用ヒスシテ水瀕、鷺、鵜等ノ水獸水鳥ヲ殺戮シ及捕獲シ之ヲ己レノ所有トナスコトヲ得(八十四)漁權者、漁業組合若クハ町村ニ於テ任スル漁業看守

人ハ官吏ト同樣ノ義務ヲ有ス政府ニ於テモ特ニ漁業官ヲ置キテ視察ヲ爲サシム漁業官ハ町村警察官ノ權利義務ヲ有ス(八十五)漁業條例ヲ犯ス者ニ對シテ處罰規則アリ現行犯ヲ發見スル者ハ沒收スヘキ物件ヲ取押ヘ漁業ノ器具及漁船ヲ質物ニ取ルコトヲ得(八十六)

(原註)(六十四)本書第三三六條第一項○(六十五)普典一ノ九第一七九條乃至一八三條○(六十六)同上第一七〇條乃至一七五條、一九一條及一九二條」上等裁判所ハ一八四五年九月二十三日及一八四六年八月三十一日ノ判決ヲ以テ私川沿岸地持主モ亦其所有權ノ一部トシテ漁權ヲ有スト宣言シタリ」他人ノ所有地ニ於ル漁權ノ解除ハ本書第三三二條、其制限及廢止ハ註文七十四、○(六十七)普典二ノ十五第七三條乃至七八條、公共河川ニ於ル漁權ハ普通法典ニ於テ國家ノ特有權ト記載ス西孛漏生州ニ於テハ其制ヲ異ニス一八七四年四月十九日ノ州法第七二條ヲ見ヨ之ニ反シテ佛國一八〇二年三月四日ノ法律ハ此權ヲ國家ニ屬セシム○(六十八)一八七四年五月三十日ノ漁業條例第六條及七條、萊因法ノ魚釣自由モ亦廢セラレタリ一八八〇年三月三十日ノ法律第一欵○(六十九)刑法第二九六條及三七〇條第四項、外國人ノ海岸漁業ハ同上第二九六條甲」漁濫ノ處罰ニ關スル國約ハ本書第三四〇條ノ註文六十五○(七十)千八百七十年以來存在スル獨逸漁業協會ハ特ニ東海及北海ノ水產物調查及人工養魚法ノ振作ニ盡力スルモノニシテ毎年帝國々庫ヨリ補助金ヲ受ク○(七十一)一八七四年五月三十日ノ漁業條例及一八八〇年三月三十日ノ附則○(七十二)漁業條例

第一條乃至三條及一八八〇年一月十二日ノ勅令[圍閉シタル潦水及河川ハ條例第四條及地方行政法實施ノ地ニ於テハ權限法第一〇二條第一項]海岸及河岸ノ漁業ニ關シテハ本書第三六五條第一項ニ記シタル河岸領域ノ定義ヲ參考セヨ〇(七十三)北海漁業ニ關シテ一八八二年五月六日佛、英、白及丁抹ト締結シタル條約ハ一八八四年四月三十日ノ帝國法律ヲ以テ海岸漁業ニ擴充シタリ〇(七十四)漁業條例第五條及權限法第一〇二條第二項〇(七十五)漁業條例第八條〇(七十六)仝上第九條、十條、權限法第一〇〇條、一〇一條、一八七九年十月二十九日ノ規約準則〇(七十七)漁業條例第十一條乃至十二條[圍閉ヲナキ池沼河川ニ漁業スル免許證ノ附與ニ制限アルコトハ附則第二款〇(七十八)漁業條例第二〇條、二一條、二八條及附則第三款〇(七十九)同上第二二條乃至二八條、一八七七年五月十一日及一八八四年六月九日ノ孛漏生州實施規則〇(八十)漁業條例第二九條乃至三四條及地方行政法施行ノ地ニ於テハ權限法第九八條第一項〇(八十一)漁業條例第三五條乃至四二條、權限法第九八條第二項第三項〇(八十二)漁業條例第四三條、四四條權限法第九九條〇(八十三)附則第五款〇(八十四)漁業條例第四五條及附則第四款〇(八十五)漁業條例第四六條、四七條及地方行政法第一三四條第十項、一八七七年十月五日及一八八五年二月十六日ノ服制、旅費及日當ハ本書第七三條ノ註文百六〇(八十六)漁業條例第四八條乃至五二條

第五　營業

第一章　總論

第三百四十九條　營業ナル語ハ廣ク之ヲ解釋スルトキハ營利ノ目的ヲ以テ不斷經營スル獨立ノ事業ヲ指シ狹ク之ヲ解釋スルトキハ營利ノ目的ヲ以テ天產物ノ精製ニ不斷從事スル獨立ノ事業ヲ謂フ此狹義ノ營業ハ天產物ノ獲得事業ト貨物ノ販賣ヲ媒介スル商業トノ中間ニ位スル然レ𪜈實際ニ於テハ未製物生產者ニシテ同時ニ其未製物ノ精製及販賣ニ從事シ或ハ營業者ニシテ同時ニ其貨物ノ販賣ニ從事スル者アルニ依リ未製物生產營業及貨物販賣ノ三業ハ往々相連絡シテ離レサルコトアリ一定ノ物品若クハ一定ノ地方ニ關スル營業ノ全体ハ稱シテ工業(インヂストリー)ト云フ

營業ハ其原料タル未製物ノ外ニ資本ト勞力ヲ要ス而シテ資本及勞力ノ大小ニ從テ大營業(製造)及小營業(手工)ヲ區別ス甲ハ大器械ヲ用ヒ乙ハ小器具ヲ使ヒ甲ニ於テ營業者ハ唯業務ノ指揮監督ヲ爲シ乙ニ於テ營業主ハ自身直接ニ業ヲ執ル然レ𪜈此二者ハ元ト同一ノ基礎ノ上ニ立チ且ツ甲ヨリ乙ニ遷ルノ階段決シテ急峻ナラサルカ故ニ之ヲ同種類ノモノト視做スモ敢テ不可ナルコトナシ

往時ハ工作品ノ種類ニ從テ各個ノ營業ヲ區別セシカ此區別ハ營業ノ自由及技術ノ進歩ニ伴ハレテ自然ニ廢止セリ故ニ營業統計ハ各種ノ營業ヲ細密ニ類別スヘキ當初ノ目的ヲ廢シ今ハ仝ク概括的ノ綱領ニ從テ營業ヲ區分スルニ過キス(二)

營業ニ關スル行政ハ獨逸帝國ニ於テ內務官(三)孛國ニ於テ商工務大臣之ヲ統理ス但

シ孛國ニ於テ營業警察ノ一部ハ內務大臣ノ管掌ニ屬シ工藝敎育ノ事務ハ文部大臣ノ管掌ニ屬ス(三)評議機關タル營業技術委員ハ營業ニ關スル學術上ノ問題ヲ評定スヘキ職務ヲ以テ主務大臣ヲ翼贊ス(四)

其次ノ管轄ニ關メハ一般ノ裁判所及行政官廳各々其職權ニ依テ營業ノ事務ヲ司掌ス獨リ萊因州營業裁判所(五)及各州各縣ニ配置セラレタル製造場視察官ハ特別ノ機關トス此視察官ハ各工場ノ視察及兒童勞役ノ監査ヲ爲スヘキモノタリ(六)營業者ヲ特ニ代表スルモノハ現今存在セス(七)

營業ノ沿革ニ關シテ一言センニ抑々營業ハ當初都會ノ地ニ於テ發達シ爰ニ既ニ中古ノ時代ニ於テ之カ保護ヲ要シタルニ因リ營業者ノ協同ヲ引起シ以テ自己ノ法律及自己ノ行政ヲ設ケタリ此協同ハ最初「ギルデン」ト稱シ其後同業組合ト言ヘルモノニシテ(八)貴重ノ特權ヲ有シ市制中重大ナル元素ヲ爲セリ同業組合ハ營業ヲ振起シタル偉効アリト雖モ而カモ其特權ヲ禁止權ニ變シ他ノ競爭ヲ痛ク拒絕シ以テ其勢力ヲ自己ノ利益上ニ濫用シタリ此濫弊ハ十七世紀ニ於テ最モ甚シキニ達シ十八世紀ニ於テ竟ニ國權ノ干涉ヲ招キ此ニ於テ始メテ警察官カ營業ヲ認可スルノ端緒ヲ開キタリ故ニ當世紀ノ始メニ當リ營業者ハ一方ニ於テ同業組合ノ尙殘留スル制限就中撿束權(九)及「バン」權(九)ノ制限ヲ受ケ一方ニ於テ嚴密ナル警察規則ニ依テ著シク

自由ヲ妨ケラレタリ此兩個ノ妨害ハ宰相スタイン、ハルデンベルヒ氏ノ法制ニ依リ始メテ除去セラレタリ蓋シ同氏ノ法制ハ有害的ノ鎖鑰ヲ解除シ有害無益ノ形式ヲ廢除シテ各人ニ產業ノ自由ヲ與ヘタルモノニシテ營業ノ自由ハ僅ニ其法制ノ一部分タルノミ(十)從前、市府又ハ一定ノ人及種族ニ限リテ營業ヲ爲スノ權ヲ有セシメタルコト並一切ノ特權及獨占權ハ此法制ニ依リ悉ク消滅シ獨リ公益ノ爲メニ缺クヘカラサル制限而已ヲ存シタリ(十一)爾後此原則ハ孛國營業條例トナリテ(十二)全國一般ニ施行スルニ至リ加之其他ノ獨逸諸國ニ於テモ亦此原則ニ依據スルコト、ナレリ然レトモ完全統一ノ條例トナリテ獨逸各國ニ行ハレルニ至レルハ獨逸帝國ノ新法發布以後ニアリ

營業ニ關スル行政ヲ帝國ノ監督及法制ニ屬セシメタルト同時ニ帝國內各人ノ營業上ノ同等同權ナルヘキ原則モ亦明カニ認メラレタリ(十三)帝國營業條例ハ獨リ工業ニ止マラス一切ノ營利事業ヲ規定セリ(十四)但シ二三ノ生產事業、學藝美術上ノ職業、其他諸種ノ營業ハ該條例ヨリ排除シ他ノ帝國法律若クハ各邦條例ノ規定スル所ニ任シタリ故ニ此等ノ營業ハ各邦立法權ノ支配ヲ受ケサルヘカラス(十五)又營業條例ハ主トシテ營業ノ許否ヲ規定スルニ止マリ營業ノ取締ハ二三ノ場合ヲ除キ專ラ各邦ノ立法權ニ讓委セリ營業ノ取締ニ關シテハ建築、火災、衛生、保安及風儀警察ノ通則ヲ適

用ス(十六)其他若干ノ事件ハ市町村自己ノ定ル地方規則ニ委任セラレタリ(十七)

營業條例ハ營業自由ノ原則ヲ最モ廣ク適用シタリ而シテ其條例施行ノ後實際上ノ關係ヨリシテ許多ノ制限ヲ追加シ隨テ營業ニ對スル政府ノ干渉ヲ增加シタリト雖モ今日ニ至ルマテ其根底ヲ動カサス(十八)營業ノ自由ヲ實行セシメンカ爲メ條例ハ都鄙ノ營業ヲ區別シ數業兼營ノ禁ヲ解キ手工者ノ組合檢束及試驗義務ヲ廢シ營業獨占權、免許權及免許料賦課權ヲ禁シ若クハ賠償ニ依リ此等ノ權利ヲ解除シ得ヘキモノト宣言シ且ツ此等ノ權利ノ再興ヲ禁シタリ(十九)又該條例ハ關稅、其他ノ稅法及郵便法並或場合ニ於テ各個人ノ保護ノ爲メ設ケタル豫防的ノ規則ニ依リ特例ヲ要スルノ外、各人ニ向テ營業ノ自由ヲ認許シタリ(二十)而シテ其自由營業ノ權ハ帝國法律若クハ現行稅法ニ依ルニアラサレハ剝奪スルコトヲ得サルモノトナセリ(二十一)其他警察上ヨリ營業品ノ代價ヲ制限スル事モ亦一定ノ條件ヲ以テ之ヲ許スノミ(二十二)

營業ニ關スル法律上ノ制限ハ營業警察上ノ規則ニ屬ス此規則ハ定住營業ト轉行營業トニ由テ殊別アリ營業ニ關スル行政ハ其他營業組合ノ組織勞動者ノ看護及一般營業ノ振作ニ及フモノトス

(原註)(一)最後ノ營業統計(千八百七十五年)ハ社會改良上ノ問題ヲ解クヘキ基礎トナサンカ爲メ一八八二年二月十三日ノ法律ニ基キ調査シタル職業統計書ナリ此統計書ニ依レハ

孛國ノ人口二七、二八七、八六〇人ノ內產業ヲ營ム者ハ一一、七一二、四八五人ナリ其別左ノ如シ

番號	職業ノ種類	人員	百分比例
第一	農業、牧畜、園藝、森林業、漁業及鳥獸獵	四、六九二、三四八	四ノ〇〇六
第二	採礦業、冶金、製造及建築業	三、六五〇、六二六	三一ノ一八
第三	商業及交通業	九一一、七〇六	七ノ七八
第四	婢僕及各種ノ賃業	二七八、九二三	二ノ三八
第五	陸海軍內廷教會ノ勤務及自由職業教師著述者代言人ノ類	五八七、二一〇	五ノ〇一
第六	無職業及職業未詳	七〇五、四九五	六ノ〇二
	家計上使役セラルヽ者	八八六、一七七	七ノ五七
	合計	一一、七一二、四八五	一〇〇

(一)本書第二〇條第二ヲ見ヨ營業ニ關スル總監督權及立法權ハ帝國政府ニ屬シ其法律ノ實施及營業ノ看護(本書第三五五條)ハ各邦政府ノ職務ニ屬ス本書第三四九條第六ヲ比較セヨ〇(三)本書第五〇條、四八條第一及四九條第一ヲ見ヨ〇(四)一八〇八年十二月十六日ノ

公布○(五)本書第一八五條第六ヲ見ヨ○(六)營業條例第一三九條乙及一四九條七項」註文九十六ヲ比較セヨ製造場視察官ハ「營業參事官」ナル稱號ヲ有シ試補ノ上ニ位ス一八七九年五月十四日ノ勅令ヲ見ヨ其職務章程ニ關シテハ一八七九年五月二十四日ノ訓令ヲ見ヨ其年數ハ一八七六年以來每年公文トシテ發行セラル○(七)營業會議ノ施設(一八四九年)ハ永續セサリキ商業ト連合スル營業ハ商業會議所(本書第三五八條)ニ於テ之ヲ代表シ一般經濟上ノ利害ハ經濟會議(本書第三一二條第七)ニ於テ之ヲ代表ス○(八)同業組合ハ往時ノ營業者組合ニシテ強大ナル羈絆權ヲ有シ現時ノ營業組合(インヌング)ト反對ス○(九)撿束權トハ義務者ニ向テ權利者外ノ人ニ就テ一定ノ物品ヲ製作スルコトヲ禁スルノ權ヲ言フ其禁ニシテ一地方若クハ一部分ノ住民ニ普及スルトキハ之ヲ「バン」權ト謂フ○(十)本書第三一二條第四及三○條第四ヲ見ヨ○(十一)一八一○年十一月二日及一八一一年九月七日ノ布令○(十二)一八四五年一月十七日ノ孛國營業條例○(十三)帝國憲法第三條及四條一項」二一八六七年十一月一日ノ自由轉徙法第一條○(十四)一八六九年六月二十一日ノ帝國營業條例」此條例ハ後日大ニ增補セラレ殊ニ一八七八年七月十七日、一八七九年七月二十三日、一八八一年七月十八日、一八八三年七月一日ノ法律ニ依テ增補セラレ並一八八三年七月一日ノ告示ニ依リ現行法典ノ文ニ編纂セラレタリ其施行規則ニ關シテハ一八六九年九月四日、一八八三年十二月二十九日及一八八四年七月十九日ノ命令ヲ見ヨ」ベルゲル氏著、營業條例註釋(第五版一八八三年伯林刊行)及マルチノウスキ氏著(第三版一八八四年伯林刊行)並イルリング氏著(第二版一八八五年伯林刊行)ノ註解書アリ○(十五)營業條例第六條ニ依レハ此條例ハ

漁業(本書第三四八條代言人及公證人(同第三四八條及二一九條)、藥舖ノ設立及移轉(同第二七二條第二項)、報酬ヲ得テ小兒ヲ養育スル業(同第二六九條第一)、教育(同第三○四條第四)、外國出稼及賣買代理營業(同第一一條)、保險營業(同第三一四條第五)、鐵道營業(同第三七三條)、通運及航海營業(同第三六五條第四)ニ適用セサルナリ而シテ採抗業(同第三二四條)、醫療(同第二七○條及二七一條)、賣藥業(同第二七二條第三)、富籤興行(同第一三二條)及牧畜(同第三四二條)ニ對シテハ條例中若干ノ條則ヲ適用スルノミ○(十六)一八七○年十一月四日及一八七一年一月十八日ノ上等裁判所判決ニ依ル」營業者其職業上ノ義務ニ背反スルトキノ罰例ハ營業條例第一四四條、刑法第二二二條、二三○條、二三二條、二九○條、二六六條第三項、三六七條第三項乃至七項、九項、十五項及三六九條ニ載ス○(十七)營業條例第一四二條○(十八)註文十四ヲ見ヨ斯ノ如キ制限ハ經濟上ノ新政ニ起因ス(本書第三一二條第五)○(十九)營業條例第二條乃至四條、七條乃至十條」此等ノ權利ノ廢止及解除ハ舊州ニ於テハ一八四五年一月十七日ノ法律ニ依リ新州ニ於テハ一八六八年三月十七日ノ法律ニ依リテ實行ジタリ○(二十)營業條例第一條及五條(婦人ハ第一一條、外國ノ法人ハ第一二條第一項及一八六一年六月二十二日ノ法律第一八條)軍人(本書第九五條第三)及官吏本書第二三條及六五條)ノ制限ハ特別ナル官職上ノ義務ニ基ヒス○(二十一)營業條例第一四三條(本書第三五三條第二ヲ比較セヨ)二三ノ營業條例禁止ハ本書第三五○條ヲ、許可ノ取消ハ營業條例第五三條及五四條○(二十二)營業條例第七二條、其例外ハ註文四十四乃至四十六並醫師ニ關シテハ本書第二七○條第二項、藥舖ニ關シテハ第二七二條第三項ヲ見ヨ其他、麵包製造人、麵包賣捌人及客舍營業者

ハ求メニ應シ自己ノ確定シタル代價ヲ公告スヘキ義務アリ營業條例第七三條乃至七五條、七九條及一四八條第八項

第二章　營業警察

第三百五十條　(甲)凡ソ定住營業ヲ始ムル者ハ其營業及場所ヲ町村役場ニ申告セサルヘカラス而シテ其營業ニシテ認可ヲ經ヘキモノナルニ之ヲ經サルトキハ警察官ニ於テ其營業ヲ差止ルコトヲ得(二十三)

認可ハ一面營業場ノ位置及性質ニ依リ一面營業者自身ノ能力若クハ品行ニ依リ之ヲ附與シ又ハ附與セサルモノトス

其一、營業場ノ位置及性質ニ關シテ左ノ制限アリ

第一、隣傍人又ハ公衆ニ向テ著大ノ損失危險若クハ迷惑ヲ加フヘキ營業場ハ警察官ニ於テ之ヲ審査シ關係人ノ異議ヲ聞キ之ヲ審理判決シタル後始メテ其認可ノ附與ヲ決ス(二十四)千八百八十三年七月三十日ノ行政法ヲ施行スル地方ニ於テハ郡(市)參事會其認可ヲ附與シ二三ノ場合ニ於テハ縣廳之ヲ附與ス(二十五)

第二、前項ノ手續ハ蒸滊鑵ノ製作業ニ適用ス但シ審理判決ハ茲ニ之ヲ缺ク之ニ反シテ營業認可ハ開業前尚一回檢查ヲ施行シテ後之ヲ附與ス(二十六)

寺國ニ於テハ其他瀛鑵ノ定期檢查ヲ施行シ以テ其營業ヲ監查ス(二十七)

第三、非常ノ騷擾ヲ發スル營業場ヲ寺院、學校、公用建物、病院又ハ治療所ノ近傍ニ設立セントスルトキハ其認可ヲ拒ムコトヲ得(二十八)

第四、風車ヲ使用スル業ニ在テハ警察令ヲ以テ隣傍ノ地所及公共道路ヨリ若干ノ距離以內ニ於テ其業場ヲ設クヘカラスト定ムルコトヲ得(二十九)

第五、如何ナル營業場ト雖モ公共ノ治安ニ大ナル損害危險アルトキハ其使用ヲ禁スルコトヲ得但シ之カ爲メニ生スル損害ハ別ニ辨償セサルモノトス(三十)

其二、各營業者ニ附與スル認可ハ其營業者自身ノ能力ニ關スルトキハ之ヲ准許(アツプロバチオン)ト云ヒ其他ハ免許(コンセツシオン)ト稱ス官署ハ若干ノ營業ニ對シ一定ノ條件內ニ於テ拒絕權ヲ有ス又若干ノ營業ニ對シテ任命權ヲ有ス其他ノ營業ニ在テハ其全部若クハ一部ヲ官署ノ定ムヘキ規定ニ委任ス

第一、準許ヲ得ヘキモノハ醫師藥舖產婆(三十一)航海業者、海上按針師及水先案內者(三十二)ニナリ准許證書ハ產婆及水先案內者ヲ除ク外、獨逸全國ヲ通シテ效力アリ即チ獨逸國內自由移轉營業ヲ認メタルモノトス蹄鐵打付業ハ試驗ヲ受ルニアラサレハ准許ヲ受ルコト能ハス(三十三)

第二、免許ヲ得ヘキモノハ私立病院、分娩所及癲狂院(三十四)ヲ設ル者並ニ演劇興行者

(三十五)ナリ客舍及飲食店、火酒燒酎ノ小賣商ニ要スル認許ハ若シ其營業者ニシテ泥酔、賭博、犯罪隱匿又ハ不德義ヲ勸奬スヘキニ其營業ヲ濫用スルノ事實アルトキ又ハ其營業場ノ位置及性狀、警察上ノ要件ニ適セサルトキ又ハ火酒店及火酒燒酎小賣商ノ需要アラサルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ヘシ末段ノ條件ハ人口壹萬五千以內ノ地方又ハ地方自治体ニ於テ規定ヲ設ケタル場合ニ於テ其他ノ客舍及飲食店ニ適用スルコトヲ得セシム(三十六)同樣ノ條件ニ依リ特別ノ認可ヲ經ヘキモノハ演劇及音樂ニ附屬シテ興行スル唱歌ノ營業ナリ但シ其業ハ別ニ高尙ナル學藝美術上ノ効益ナキモノニ限ル(三十七)又道路廣場ニ於テ若クハ各家ニ就キテ奏樂及演劇ヲ業トスル者ハ豫メ町村警察官ノ特許ヲ得サルヘカラス(三十八)

其他、質屋營業並之ニ算入スヘキ古物買取營業モ亦免許ヲ得ルヲ要ス毒物商ハ各邦ノ規定ニ從ヒ免許ヲ得ルヲ要ス(三十九)

爆裂藥ヲ製造、販賣及現有スル者並之ヲ外國ヨリ輸入スル者ハ特別ノ認可ヲ得ルノ外ニ帳簿ニ登記セラレサルヘカラス而シテ其認可ハ何時ニテモ取消ヲ命セラレ得ルモノタリ(四十)

第三、營業上不誠不義ノ事實アル場合ニ於テ其營業ヲ差止ムヘキモノアリ即チ舞蹈體操水泳ノ敎授並湯治場營業ニ在テハ之ヲ認可スルトキニ同時ニ差止權アルモノトス

古服商、屑、絲及其他ノ廢物小賣商無免許代言商、不動產契約、貸借及婚姻ノ照會人、雇僕口入人、職業世話人及競賣人ニ在テモ亦同シ(四十一)

末項ニ列擧シタル營業ハ警察上ノ特別取締ヲ受ク(四十二)質屋營業ニ在テモ亦特別取締アリ而シテ法律ハ利息、質物抵當權及其販賣ニ關スル質屋營業者ノ權利義務ヲ詳細ニ規定ス(四十三)

第四、測量師、競賣者及貨物ノ數量性狀ヲ確定スル者ハ官廳及法人ヨリ任命セラルヘキ權利ヲ有ス其他ノ場合ニ於テ此營業ハ全ク自由トス(四十四)

第五、途上營業(途上ニ於テ勞役ヲ求ムル者及公共交通物ノ保存ヲ業トスル者)ハ町村警察ノ規定ニ服ス(四十五)烟突掃除人ニ對シテハ掃除區ヲ設ルコトヲ允許ス(四十六)定住營業ヲ爲スノ權利ハ同時ニ仲間、徒弟、職工(四十七)及代理人ヲ使用スルノ權利ヲ包含ス但シ代理人ハ各營業ニ對シテ規定シタル要件ヲ具備セサルヘカラス(四十八)又永久使用ノ爲メ設置シタル營業場ヲ有スル營業者ハ行商ニ對シテ賣買ヲ許シタル物品ノ制限ヲ確守シテ其町村區內ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得而シテ轉徙營業ニ屬セサル業ハ其町村區域外ニ於テモ營ムコトヲ得ルナリ(四十九)此精神ニ從ヒ

該營業者ハ免許鑑札ヲ持シ若クハ旅行者ヲシテ町村外ニ於テ其營業ノ爲メ貨物ヲ購買シ及之ヲ註文スルコトヲ得、但シ其購買ハ商人若クハ製造人若クハ公ケナル販賣所ニ就テ之ヲ爲シ得ルノミ（五十）

第三百五十一條　(乙)轉徙營業ハ營業者自己ノ町村區外ニ於テ一定營業店ナク又豫メ註文ヲ受ルコトナク貨物ヲ販賣シ又ハ再賣センカ爲メニ購買シ貨物ノ註文ヲ求メ勞役ヲ求メ又ハ高尚ナル學藝美術上ニ關係ナキ音樂演劇ヲ觀覽ニ供スルモノヲ言フ轉徙商店ノ業ヲ營ム者ニ特ニ免許鑑札ヲ受ケサルヘカラス而シテ其免許鑑札ハ一定ノ物品及人物ニ由リ之ヲ下付セサルノ規定ナリ（五十一）又其鑑札ハ本人及下付ノ曆年ニ對シテノミ效力アリ此營業者ハ獨逸全國ニ於テ營業スルコトヲ得ルモ許可ナクシテ他人ノ住宅ニ入ルコトヲ得ス又夜間他人ノ住宅及庭地ニ立入ルコトヲ得ス（五十二）其他音樂演劇ニ關スル轉徙營業ノ免許ハ各縣ノ管轄區域ニ對シ及適宜ノ人員ヲ限リ之ヲ付與ス且ツ各地ニ於テ此營業ヲ興行スルトキハ其地警察官ノ準許ヲ得ルヲ要ス（五十三）一定ノ小營業殊ニ自己製造若クハ未製ノ農產物及山林產物、自ラ漁穫シタル魚類及鳥獸並自製ノ週市賣品ヲ住居地十五「キロメートル」以內ノ地ニ販賣スル者ハ前記ノ免許鑑札ヲ受ルヲ要セス（五十四）各邦ノ營業稅ハ轉徙營業ノ免許鑑札ニ由リ之ヲ徵收ス（五十五）

持賣商ハ收稅上ト警察上トノ二點ニ關シ特別ノ監督ヲ受ケ而シテ其警察上ノ監督ハ持賣商ノ競爭ニ對シテ定住營業者ヲ保護スルニアラス唯タ公安及風儀ノ維持ヲ以テ主眼トナスノミ

轉徙商店ノ弊害ヲ除去センカ爲メ營業警察上ノ監督ヲ特ニ嚴重ニナシタルト其商店ニ重キ町村稅ヲ賦課シタルトノ處置ハ定住營業者ヲ保護スルノ目的ヲ全ク缺キタルニアラス（五十六）

（原註）(二十三)營例營業條例ヲ略記ス以下之ニ倣ヘ第一四條第一項及一五條、罰ハ同上第一四八條第一項火災保險會社ノ代理人ノ特別屆出義務ハ本書第三一四條第五ニ記ス書籍及印刷物ノ調製及販賣ハ本書第二四五條第三ニ記ス禁止營業關シテハ本文第一ノ五及第二ノ三ヲ見ヨ屆出ハ同時ニ營業稅賦課ノ爲メニ必要ナリトス本書第一四三條ノ註文五十八ヲ見ヨ〇(二十四)營例第一六條(目錄ノ追加ハ一八八四年七月十二日ノ告示、一八八五年一月四日及三十一日並四月二十四日ノ告示)審判手續ハ同上第一七條乃至二二條、實施期限ハ同上第四九條及五〇條、罰ハ、第一四七條第二項、認可ノ效力ハ第二五條及二六條、認可ハ同時ニ建築ノ許可ヲ包含ス一八八〇年三月二日ノ達、建築及火災警察上ノ注意ハ本書第二八〇條ノ註文二十六ニ記ス必要ナル安全裝置ノ事ハ本書第三五三條第二ニ記ス各種ノ營業ニ對スル技術上ノ示導ハ一八七五年四月十四日ノ達、洋紅（アニリン）製造ニ關シテハ一八六五年六月十日及一八七六年十月十三日ノ達ヲ、摺附木製造ニ關シテハ一八五七年十月二十九日及一八

七六年六月二十日ノ達ヲ見ヨ」摺附木製造ニ白燐ヲ使用スル者ハ中毒ノ危險アルカ爲メ專用ノ室内ニ於テ作業シ且ツ未丁年ノ職工ヲ其室内ニ入ラシムルコトヲ得ス一八八四年五月十三日ノ法律第一條乃至五條、一八八四年七月十一日ノ實施規則)屠獸場(本書第三三七條第七)ノ新設ニ關シテハ特別ノ規定アリ鑛山及冶金所ニ於ル水車場ハ同時ニ上等鑛山官ノ管轄ヲ受ク一八六五年六月二十四日ノ坑法第五九條、權限法第一一〇條第二項〇(二十五)行政法施行ノ地方ニ於テハ權限法第一一〇九條、一一〇條、一一三條及一八八四年八月十三日ノ布令〇(二十六)營例第二四條、期限處罰及効力ハ註文二十四ニ記ス檢査手數料ハ十五「マルク」一八七三年十月八日ノ達及一八七四年六月二十二日ノ達ヲ見ヨ本文ノ事件ハ行政法施行ノ地方ニ於テ郡(市)參事會ノ管掌トス權限法第一〇九條及一一三條、鑛山及冶金所ニ於テハ上等鑛山官ノ管掌トシ鐵道ノ瀝罐車ニ在テハ鐵道事務官ノ管掌トス一八六五年六月二十四日ノ坑法第五九條)海陸軍管轄ノ瀝罐檢査ハ海陸軍官衙ニ於テ施行ス一八七二年九月八日、一八七五年十一月十日及一八七八年十一月五日ノ達ヲ見ヨ、技術上ノ原則ニ關シテハ一八七一年五月二十九日及一八八三年七月十八日ノ告示ヲ見ヨ〇(二十七)一八七二年五月三日ノ法律及一八七二年六月二十四日ノ實施規則、官設鐵道及鑛山ニ於ル權限ハ一八七二年十月十二日二十七日及三十一日ノ達ヲ見ヨ」此檢査ノ爲メ瀝罐檢査協會ナルモノ興レリ而シテ孛國ニ於テ千八百八十五年ニ此協會二十一日ヲ認可シタリ此協會ノ檢査ヲ經タル瀝罐ハ國家ノ認可ヲ經ルトキニ限リ別ニ官廳ノ檢査ヲ受ケサルコトヲ得、鐵道ノ瀝罐車ハ其地警察規則ニ服ス一八五

五年三月十三日ノ達、街路瀝罐車ニ關シテハ本書第三七〇條ノ註文二十九ヲ見ヨ孛國ニ於テ千八百八十五年一月一日ノ調査ニ依レハ固定蒸氣器械三八、八三〇個、船舶瀝罐一、二一一個及船舶蒸氣器械一、〇四八個アリ〇(二十八)營例第二七條及行政法施行ノ地方ニ於テハ權限法第一一三條〇(二十九)營例第二八條及一八六一年七月一日ノ法律第一三條〇(三十)營例第五一條、五二條、五四條、行政法施行ノ地方ニ於テハ權限法第一一二條及一一三條〇(三十一)醫師ハ本書第二七〇條(註文六十六)藥舖ハ第二七二條(註文八十五)產婆ハ第二七三條(註文九十六)獸醫ハ第三四三條(註文十二)〇(三十二)本書第三六五條第三〇(三十三)營例第三〇條甲及一八八四年六月十八日ノ孛國法律、免許狀ノ取上ハ營例第五三條、試驗ハ一八八五年一月二十三日ノ達、軍馬蹄鐵工ノ試驗ハ一八八五年三月四日ノ達〇(三十四)本書第二七四條第六〇(三十五)營例第三二條、四〇條及行政法施行ノ地方ニ於テハ權限法第一一五條一一八條及一八六九年七月三十日ノ勅令、與行期限ハ營例第四九條五〇條、免許ノ取上ハ同上第五三條及權限法第一二〇條第一項)興行スヘキ演劇ノ題ハ警察令ヲ以テ届出サシムルコトヲ得ヘシ崩去セラレタル皇族ノ事跡ヲ演スルコトハ通常之ヲ許サス一八四四年四月二十日ノ勅令及一八八四年七月二十八日ノ達〇(三十六)營例第三三條及四〇條、需要ノ證明ハ一八七九年九月十四日及十一月二十五日ノ命令並一八八〇年六月五日ノ上等行政裁判所判決)其管掌ハ行政法施行ノ地方ニ於テ權限法第一一四條及一六二條及一八八四年五月六日ノ郡制第三五條第五項免許ノ取上ハ營例第五三條、權限法第一一九條第二項、一六二條及郡制第三五條第七項、開始期

限ハ營例第四九條及五〇條」法人ニハ之ヲ許サス一八八二年九月十六日ノ上等行政裁判所判決」小賣商トハ舊州ニ於テ生「アンケル」(一七、一七五リートル)以內ノ量ヲ賣リ而シテ木製ノ樽若クハ札紙ヲ付シタル慣用ノ硝子壜ヲ以テ販賣セサルモノヲ云フ一八三五年八月十三日ノ達第二款、一八三七年十月十二日及一八八一年十一月二十日ノ達」灰酒ハ蒸溜ニ依テ製造シタル「アルコール」性ノ流液ナリ一八八四年八月二十三日ノ達、他ノ流液ト混和シタルモノ(人工葡萄酒)亦同シ一八八四年十一月二十六日ノ上等行政裁判所判決」客店ハ警察令ニ依リ旅人ヲ宿泊セシムルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得ス一八二六年六月二十六日ノ上等裁判所判決及一八七八年十月二十五日ノ達、此營業ノ取締ハ本書第二五六條〇(三十七)營例第三三條甲及四〇條(免許取上)第五四條、其管掌ハ行政法施行ノ地方ニ於テ一八八三年十二月三十一日ノ布令第一條若クハ第四條甲、舞踏場ハ本書第二五六條第五〇(三十八)營例第三三條乙及(處罰)第一四八條第五項〇(三十九)營例第三四條、四〇條及(代理)第四七條、管掌及免許取上ハ註文三十六ニ記スルカ如シ舊來ノ賣屋營業ハ一八八三年十二月三十一日ノ布令第四條丁」賣屋營業ハ地方ノ規則ニ依リ需要ノ有無ニ從ヒ之ヲ許否スルコトヲ得一八七九年九月二十一日ノ告示」毒物商ハ認可ヲ要ス一八六一年六月二十二日ノ法律第四九條及刑法第三六七條第三項、鼠取營業ハ警察上ノ規定ニ服ス一八四八年七月十一日及一八七〇年五月十九日ノ達、水先案內營業ハ本書第三六五條第三及三六六條第四、鑛坑測量師ハ本書第三二三條ノ註文二十一〇(四十)一八八四年六月九日ノ法律第一條乃至第四條及(處罰)第九條、一八八四年九月十一日ノ實施規則、一八八五年七月四日及三月

十三日ノ附則、其他ノ刑法上ノ規定ニ關シテハ本書第一七三條ノ註文一ヲ比較セヨ〇(四十二)營例第三五條及四〇條、行政法施行ノ地方ニ於ル管掌ハ權限法第一一九條第一項第一六二條、處罰ハ營例第一四八條第四項〇(四十三)營例第三八條第二、競賣者ノ營業ハ一八四八年八月十五日ノ規則及一八五六年十二月二十一日、一八七二年十月十八日ノ附則、其他、此ニ列擧シタル營業ニ關シテハ一八八五年三月十八日ノ警察令ヲ見ヨ〇(四十三)營例第三八條第一、刑法第二九〇條、三六〇條第十二項及一八八一年三月十七日ノ法律並一八八一年七月十六日ノ達、國立及地方立ノ抵當貸附所ハ本書第三一八條〇(四十四)營例第三八條七九條及一四八條第八項、不誠實ノ者ノ處罰ハ刑法第二六六條第三項、任命取消ハ第五三條及行政法施行ノ地方ニ於テハ權限法第一二〇條、田野測量師ノ營業ニ關シテハ一八七一年三月二日ノ法律及一八八五年八月二十六日ノ改定法律ヲ見ヨ其試驗規則ハ一八八二年九月四日ノ規則」獸肉撿查人ハ本書第二六八條ノ註文六十〇(四十五)營例第三七條、手數料同上第七六條七九條及一四八條第八項、營業ノ差止ハ第四〇條第二項及權限法第一一九條第一項、鐵道馬車モ亦此ニ屬ス一八七二年六月十四日ノ達〇(四十六)營例第三九條及(代理)第四七條、一八四五年一月十七日ノ孛國營業條例第五六條及九二條、一八八〇年五月十四日ノ達、權限法第一三二條、手數料營例第七七條、七九條及一四八條第八項〇(四十七)營例第四一條、其詳細ハ本書第三五三條及(藥舖)第二七二條殊ニ其註文八十五〇(四十八)營例第四五條及四七條、代理ハ特則ノ免許ヲ要セス一八七八年十二月十日ノ上等裁判所判決、處

罰ハ營例第一五一條、死後、寡婦若クハ未丁年相續者ノ爲メニスル營業ハ同上第四六條、權利ノ讓與ハ同上第四八條〇(四十九)同上第四二條四二條甲、認可狀ヲ受クヘキ義務ヲ町村ニ施行スルコトハ營例第四二條乙、其他行政法施行ノ地方ニ於テハ一八八三年十二月三十一日ノ布令第一條及(取上)第四條乙ヲ見ヨ處罰ハ營例第一四九條第一項及一四八條第五項、印刷物ノ頒布ハ本書第二四五條〇(五十營例第四四條、四四條甲貨物合送ノ禁ハ金銀器物製造人ノ利益ノ爲メ例外ヲ設ク營例第四四條第二及一八八三年十月三十一日ノ規則第一欵、其管掌ハ行政法施行ノ地方ニ於テ權限法第一一七條第一一八條及一八八三年十二月三十一日ノ布令第二條、特別稅ノ免除ハ一八七六年七月三日ノ法律第二條第二項、(通商條約(本書第三五八條ノ註文七)ニ依テ墺洪國、瑞西、ルクセンブルヒ西班牙、葡萄牙、ルーメニア及セルビアト約定シタル雙方ノ交通上ニ用ヒル營業認可狀ハ內地ノ交通ニモ亦効力アルモノトス營業條例第四四條甲第六項〇(五十二)營例第五五條乃至五八條、一八六九年十一月二十四日ノ實施訓令、然レヒモ是等ノ條則ハ近時ノ營業稅規則ニ依リ大ニ變改シタリ(本書第一四四條ノ註文五十九)而シテ又一八八三年十二月二十九日ノ訓令ニ依リ補充セラレタリ」認可狀ノ取上及營業差止ハ行政法施行ノ地方ニ於テ一八八三年十二月三十一日ノ布令第四條及五條、處罰ハ營例第一四八條第六項乃至第一四九條第二項乃至五項及禁止ノ爆裂藥ヲ賣買シタル者ノ處罰ハ一八八四年六月九日ノ法律第九條第二項」轉徙營業狀ヲ外國人ニ附與スルコトハ營例第五六條丁、四二條乙、第四項及一八八三年ノ規則第二欵及三欵〇(五十二)營例第六〇條乃至六〇條丁、隨行者ヲ許スコトハ同上第六二條、

國境地方ニ於ル持賣商ハ同盟關稅法第一二四條(本書第一六〇條ノ註文九十一)〇(五十三)營例第五七條五項及六三條第二項第六〇條第二項及三項及第六〇條、甲(會社ニ對スル轉徙營業證ハ一八七九年八月四日ノ達、書籍持賣商ノ制限ハ本書第二四五條第三項〇(五十四)營例第五九條、五九條甲、〇(五十五)同上第六〇條第一項(本書第一四四條ヲ比較セヨ)〇(五十六)營例第五六條丙及第一四八條第七項、課稅ハ本書第七七條第四ノ丙

第三章　同業組合(五十七)

第三百五十二條　帝國營業條例ハ現在ノ同業組合ノ存立及同業組合ノ新設ヲ認許シタレヒモ其組合ニシテ公法上ノ効力ヲ有スルコトヲ禁シ之ヲ單純ノ私立會社ニ變シタリ故ニ該條例ハ現時社會ノ進歩ニ連レテ大製造者トノ競爭ニ倒レントスル各營業者カ往時ヨリ一層堅固ナル支柱ヲ必要トスルコモ拘ラス此支柱ヲ各營業者ヨリ剝取シタルモノト謂フヘシ此ニ於テ同業者相團結シテ營業上ノ利益及手工者ノ風儀及經濟ヲ振興スル爲メ就中業務ノ改良、徒弟ノ養成、勞役ノ整理、職業ノ媒介及相互ノ扶助ヲ爲スカタメ新ニ組合ヲ設立スルノ必要ヲ生シタリ(五十八)此ノ如クシテ成立シタル同業組合ハ法人ノ權利ヲ有シ組合所有ノ財產ヲ以テ其責任ヲ負ヒ其他、組合員ヨリ助成金ヲ强制徵收セルノ權ヲ有シ且ツ高等行政官衙ヨリ此權ヲ付與セラレタル場合ニ於テハ自己ノ組合ニ屬セサル業主ニ係ル徒弟マテニ其權ヲ擴充施行ス

ルコトヲ得ヘシ又其組合ハ組合員ニ徒弟引受ノ特權ヲ付與スルコトヲ得ヘシ(五十九)舊來ノ同業組合ハ舊規ニ依ルコトヲ得ヘシト雖モ千八百八十五年マテニ新法ノ條則ニ從ヒ其組織ヲ變改セサルモノハ同年以後廢解セシムルコトヲ得ルナリ(六十)

(原註)(五十七)同業組合ノ沿革ハ本書第三四九條第五ニ記ス○(五十八)營例第六章殊ニ同業組合ノ行務及規約ハ同上第九七條乃至九八條丙、同業組合准則ハ一八八二年一月十一日ノ告示、組合員及其權利ハ營例第九九條乃至一〇〇條並一八八三年六月十五日ノ法律第七三條、組合幹事ハ營例第一〇一條、解散及閉止ハ同上第一〇三條、一〇三條甲、監察ハ第一〇四條、數多ノ組合聯合シテ共同總代ヲ設ルコトハ第一〇二條、組合合併ハ第一〇四條乃至庚、處罰ハ第一四八條第十項、第一四九條第八項及一八八二年三月九日ノ訓令、行政法施行ノ地方ニ於ル管掌ハ權限法第一二三條乃至第一二六條○(五十九)營例第九九條、一〇〇條乙及戊、一八八四年十二月八日ノ法律此法律ハ同業組合ニ對シテ確守セラレタル營業自由ノ原則ヨリ取除ヲ設ケタル無二ノ例ナリ○(六十)一八八一年七月十八日ノ法律第三條、營例第八一條乃至九六條及權限法第一二三條、一二四條

第四章　營業上ノ職工

營業上ノ職工ハ總職工ノ最大部ヲ占メ諸般ノ特別規則ニ服ス(六十一)其規則ハ一面、職工ノ地位ヲ救護シ一面、職業契約ノ安全ヲ保スルニアリ

第三百五十三條　(甲)仲間助手及徒弟ノ職業ニ關スル權利義務ニ對シテ其原則ヲ異ニセス唯二三ノ事件ニ於テ營業上ノ發達ト大製造場職業ノ一種特別ナルトヲ參酌シ以テ此兩種ノ職工ニ對シ各別ノ規定ヲ設ケタリ

營業上ノ職工ニ對シテハ賃銀ヲ增加セシメンカ爲メ同盟罷工スルコトヲ禁スルノ法令ヲ廢シタリ(罷工權)但シ强迫若クハ强制シテ加盟セシムルコトハ之ヲ禁ス(六十二)

職業ニ關スル權利義務ハ任意ノ契約ニ依テ定ムヘキモノトス但シ日曜日就職ノ義務ハ之ヲ認許セス國民榮譽權ヲ有セサル營業者ハ十八歲未滿ノ職工ヲ雇使スルコトヲ得ス(六十三)又職工ノ權利義務ヲ全フセシムル爲メ二十一歲未滿ノ職工ニ在テハ警察官署ヨリ交付スヘキ職業簿ヲ備ヘ之ニ其職工ノ就職退職及業務ノ種類ヲ登記セシム職工其業主ヲ去ルトキハ自己ノ從事シタル職業及品行ニ關シ其業主ニ向テ證明ヲ求ムルコトヲ得(六十四)賃銀ハ帝國ノ通貨ヲ以テ現金拂ニ爲サヽルヘカラス賃銀ヲ拂フニ物品ヲ以テシ若クハ之ヲ延拂スルコトヲ禁ス(六十五)十八歲未滿ノ職工ヲ雇使スル者ハ其年齡ニ應シ衛生及品行上ノ特別ナル配慮ヲナシ進修學校(フホールトビルヴングスシューレ)ニ入リテ修學スヘキタケノ時間ヲ與ヘサルヘカラス十八歲以下ノ職工ハ地方條例ニ依リ進修學校ニ入ルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得(六十六)其他營業者ハ生命健康ノ安全ヲ保スルニ足ルノ裝置ヲ其營業場ニ設備スヘキ義務アリ(六十七)職工ノ權利義務ニ關スル

爭議ハ特別ノ官廳ナキトキ又ハ地方條例ニ依リテ設ケタル仲裁々判所ナキトキニ限リ（六十八）同業組合ニ於テ裁定シ此組合ナキ場合ニ於テハ町村役場之ヲ裁定ス而シテ其裁定ニ服セサル者ハ十日以內ニ裁判所ニ告訴スルコトヲ得但シ當初ノ裁定ハ告訴アルニモ拘ラス假リニ執行スヘキモノトス（六十九）執行ハ訴訟法ノ手續ニ依ル（七十）仲間、助手及大製造場職工ハ職業及業主ノ家制ニ關シ業主ニ服從セサルヘカラス就職契約ヲ解クヘキ豫告期限ハ十四日トス其期限前職業ヲ去ルコトヲ敎唆シタル者及他ノ業主ニ對シテ執業ノ義務アル職工ヲ故意ニ雇入レタル者ハ之カ爲メ生シタル損害ノ責ニ任セサルヘカラス（七十一）

徒弟（大製造場職工ノ徒弟ヲ包含ス）ハ其父ト同樣ナル業師ノ敎導監督ヲ受ケサルヘカラス徒弟ト業師トノ關係ハ若シ特定ノ約束ナキトキハ敎習年期ノ終ルヲ俟チテ始メテ之ヲ解クモノトス又師弟契約ヲ締結スルモノニ在テハ法律ハ敎習ヲ離レタル徒弟ヲ警察上抑留シテ其師ニ就カシメ以テ其師ノ損害ヲ避ケシムルノ保護ヲ與フ徒弟ハ敎習年期ノ終ル後、町村役場ヨリ無代價ニテ證明書ヲ受ルコトヲ得（七十二）徒弟ノ養成ハ政府ニ於テ諸般ノ方法ヲ設ケ之ヲ奬勵ス（七十三）

大製造場職工ハ十二歲未滿ノ者ハ總テ之ヲ禁シ十二歲以上十六歲未滿ノ者ハ其年齡ニ應シテ配當セラレタル執業時間ニ限リテ執業スルコトヲ得ルナリ且ツ少年ノ

職工ニ對シテハ其健康、品行及養成ニ關シ相當ノ配慮ヲ爲サヽルヘカラス又學校及寺院ノ敎授ニ要スル時間其他日曜祝日ニ於テ執業セシムルコトヲ得ス其他各地特別ノ事情アルニ依リ法律ハ製造場主ヲシテ其取扱ヲ多少伸縮寬嚴スルコトヲ得セシム少年職工ヲ使役スル者ハ其旨ヲ警察署ニ申告セサルヘカラス就學義務アル兒童ハ職業簿ノ代リニ職業鑑札ヲ受ク婦人ノ職業ハ雖婦ニ對シテ制限アリ又或ル職業ニ由テハ衛生上及風儀上ヨリ婦人ノ職業ヲ禁止若クハ制限スルコトヲ得（七十四）

第三百五十四條　（乙）資本ナキ職工ハ時勢ノ變遷ニ對シテ殆ト自衛自立スルコト能ハサルノ勢アリ故ニ此輩ノ保護ヲ目的トナシタル職工保險法ハ今日社會改良ニ關スル立法ノ至緊至要ナル責務ニ屬ス抑々職工保險法ハ職業ヲ執ル能ハサルカ爲メニ由來スル慘害ヲ豫防スヘキモノニシテ其無職業ノ原由ニ從ヒ之ヲ三種ニ區別ス一ハ一時ノ疾病ヲ救濟スヘキ療病保險法ハ舊來ノ補助金庫ヨリ發達シタルモノナリ抑々其金庫ハ維持ノ爲メ規定セラレタル條件ヲ具備シ之カ爲メ特ニ設置セラレタル官ノ帳簿ニ登記セラレ一定ノ權利、殊ニ法人ノ權利ヲ有スルモノニシテ元ト唯療病金及埋葬金ノ相互擔保タルニ過キス而シテ其他ノ事ハ加盟者ノ自由決議ニ任シ且ツ必シモ營業上ノ强要保險ノ目的ニ限局セス（七十五）當初補助金庫ノ制ヲ定ルニ當リ獨立營業者ニ負ハシムル

ニ該營業者ノ爲メニ從來存在シタル療病金庫、補助金庫及死亡、金庫ニ必ス加入スヘキノ義務ヲ廢シ(七十六)其職工ニ關シテハ補助金庫法ニ依テ療病金庫ヲ設置スル事及強制加入法ヲ施行スル事ヲ一ニ町村及其他ノ地方自治体ノ自ラ定ル所ニ任シタリ(七十七)然ルニ爾來此事ヲ實行シタル地方自治体ハ甚タ希レニシテ實際ノ需要ニ缺ル場合尠カラサリキ此ニ於テ帝國政府ハ法律ヲ設ケテ新ニ此事ヲ規定シ從前地方自治体ノ自ラ定ル所ニ一任シタル強制保險ノ事ヲ法律上ノ義務ニ定メタリ(七十八)此法律ニ依リ凡ソ賃銀若クハ給料ヲ受ケテ常ニ業務ニ從事スル職工ハ保險ノ義務ヲ負ヒ臨時ノ執業者、營業助手、小製造ノ職工並農業山林ノ職工ニ町村又ハ其他ノ地方自治体ノ條例ヲ以テ之ニ保險ノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得ルコトヽナレリ(七十九)新法ノ精神ハ成ルヘクタケ獨立自治ノ同業組合ヲシテ保險ヲ實行セシムルニ在リタルカ爲メ各種區々ノ金庫ヲ聯立セシムルニ至レリ舊來ノ坑夫金庫、同業者療病金庫及各邦ノ規定ニ基キ又ハ登錄ヲ經テ設置シタル補助金庫ハ新法ニ於テ二三ノ改定ヲ加ヘ之ヲ認許シタルニ(八十)同時ニ又大製造場持主及建築事業者ハ一定ノ條件内ニ於テ營業(大製造)職工金庫及建築職工金庫ヲ設置スルノ權務ヲ有スルコトヽナレリ(八十二)總テ是等ノ金庫ハ固ヨリ一定ノ限度アリテ普通ナルモノニアラス尋常普通ノ療病保險ト看做スヘキモノハ町村又ハ其他ノ地方自治体ニ於テ各種各部類ノ同業

者ノ爲メ各別ニ設置スヘキ所謂「地方療病金庫」ナリトス(八十二)此種類ノ金庫ヲ缺ク所ニ於テハ町村保險ノ方法ヲ施行シ即チ町村自ラ保險料ヲ徵收シ扶助料ヲ支出セサルヘカラス(八十三)此保險ニハ各種ノ營業ニ屬スル職工ニシテ保險義務ナキ者及使丁ヲ業トスル者マテヲ加入セシムルコトヲ得(八十四)其保險料ハ町村保險ニ在テハ土地慣用ノ日雇賃平均額ノ百分一半、其他ノ保險ニ在テハ其百分二トス業主ニシテ其使雇ス凡職工ノ疾病ニ罹ル者アルニ當リ其旨ヲ三日以内ニ申告スヘキ者ハ職工給料ノ内ヨリ保險料ヲ控除シ加之職工自己ノ支拂フヘキ金額ノ半ハヲ補充スヘキ義務アリ(八十五)罹病者ノ扶助ハ十三週間以内トナシ無代價ニテ醫療藥劑及其他少許ノ療病物ヲ給與シ且ツ產業ヲ營ムコト能ハサルノ場合ニ於テハ罹病第三日ヨリ給助金若クハ之ニ代ヘテ食料及病院ノ看護ヲ附與ス妊婦ニ對シテハ三週間右同一ノ扶助ヲ與ヘ死亡スルトキハ死亡金ヲ給シ仍其他ノ扶助ヲ與ヘルコトヲ得セシム(八十六)災害ヲ被ムリタル者ニ在テハ前記罹病者扶助ノ法律上ニ期限ヲ超ユル後尙其生計ノ困難ナル者アルカ爲メ帝國法律ハ更ニ此輩ニ對シテ災害保險ノ方法ヲ定メタリ(八十七)抑〻舊時ニ於テハ採礦、石工、堀壕若クハ大製造ノ企業者ニシテ自己若クハ其委任者ノ過失ニ因リ人ヲ負傷セシメ又ハ死セシメタルトキハ其賠償ノ責ニ任スヘキ法律アリタル而已(八十八)然ルニ此救護法ハ實際ニ於テ未タ充分ノ功ヲ奏セサリキ何ト

ナレハ其法ハ自己ノ過失及偶然ニ起因スル數多ノ場合ヲ取除キ同時ニ職工ヲシテ其業主ヲ相手取リ訴訟ヲ起サシメ以テ職工ト業主トノ關係ヲ損敗セシムレハナリ

災害保險ノ新法發布以後ハ前記賠償義務ノ法律ハ唯故意ヲ以テ職工ニ災害ヲ被ラシメタル場合ト保險金額ヲ超過スル賠償ヲ求ムル場合トニ限リ之ヲ適用スヘキコトヽナレリ其他ハ療病及災害ノ保險ニ關スル支出金ヲ補充スルカ爲メ療病金庫及災害保險社ヨリ業主ニ對シテ其賠償義務ヲ果サシムヘキ權利アルモノトス（八十九）

災害保險義務ハ前ニ擧ケタル賠償義務アル各種營業ニ屬シテ作業スル職工及役員ニ限リ之ヲ負ハシメ而シテ小營業（手工）ニ在テハ爆裂藥及爆裂スヘキ物品ヲ製作スル者建築職烟突掃除職蒸氣鑵又ハ風車水車ヲ使用スル職業ニノミ同一ノ義務ヲ負ハシム（九十）其後運輸營業（郵便電信、鐵道、陸海軍ノ技術事業及建築、馬車運送業、內地水運業貨物送達業）ニモ亦此義務ヲ負ハシメタリ但シ帝國及聯邦ハ其自ラ經營スル事業ニ關シ政府直接ニ保險ヲ施行スルコトヽナレリ（九十一）其他ハ總テ企業主ヲ以テ一定ノ同業組合區ニ於ル同業者若クハ同種類ノ官業者ニ對シテ保險ノ負擔者トナシ且ツ相互保險ノ爲メ之ヲ合併セシムル其保險組合ハ法人ノ權利ヲ有スル外其規約及事務ニ關シ充分ノ自治權ヲ有ス（九十二）保險義務アル企業主ハ法律ニ依リ其同業組合ノ一員タリ新ニ營業ヲ始メ營業ヲ變更スル者ハ其旨ヲ管轄官廳ニ申告セサルヘカラス（九十三）又職工ノ利害ニ直接ノ關係アル事件ヲ處分スルカ爲メ同等組合ノ外ニ職工ノ代表者ヲ設ク（九十四）就中損害ヲ確定スルトキ控訴所ニ充ツヘキ仲裁々判所（九十五）ヲ設置スルニ當リ並同業組合ノ役員ヨリ發布スヘキ災害豫防規則ヲ確定スルニ當リ職工代表者ノ承認ヲ經スンハアルヘカラス（九十六）

災害保險法ニ依リ賠償ヲ爲スヘキ場合ハ業務中ノ負傷及死亡ニシテ被害者ノ故意ニ起因セサルモノトス而シテ其賠償ハ負傷ノ場合ニ於テ病院ニ入リテ無代價ノ治療及衣食住ヲ得サルトキハ療病費及職業ヲ執ル能ハサル間手當ヲ給ス手當ノ額ハ職工ノ平均勞銀ニ依リテ算定シ且ツ職業ヲ執ル能ハサルノ輕重ニ從ヒ差等ヲ設ク又其賠償ハ當初支給スル療病金ヲ參酌シ第十四週ニ入リ始メテ之ヲ付與スヘシ然レ共企業主ノ負擔ヲ以テ第五週日ヨリ之ヲ付與シ且ツ其手當ヲ增加スルコトアリ被害者死亡ノ場合ニ於テハ埋葬料ヲ給シ尙其遺族ニ手當ヲ給ス（九十七）賠償ニ供スヘキ金額ハ同業組合員ニ屬スル職工ノ賃銀若クハ業務ニ應シ並規約ニ定メタル災害等級表ニ依リ每年同業組合員ニ賦課ス若シ組合ニシテ資力ナキニ至ルトキハ帝國政府代リテ其義務ヲ果ス（九十八）其他帝國政府ハ同業組合ヲ設置セシメ之ヲ監督セシメ及爭議ヲ裁定セシムルカ爲メ帝國保險事務官ヲ設立シタリ此事務官ハ常置僚員三名及常置ニアラサル僚員四名ヨリ成ル其四名ノ內二名ハ同業組合ノ役員中ヨリ、二名

ハ職工代表者中ヨリ四年ノ任期ヲ以テ選任セラル、モノトス(九十九)爾來各邦ニ於テ保險官ノ設置スヘキ權利ハ事實上無用ノモノトナレリ(百)

療病保險及災害保險ハ貴重ノ施設物タルコト言ヲ俟タサレ𪜈職工社會ノ困厄ノ一部ヲ除去スルニ過キサルモノトス蓋シ職工社會ノ困厄ハ疾病及災害ノ外亦給養者ノ老衰及死亡ニ起因スルコト尠カラサルヘシ今此老衰及死亡ニ起因スル困厄ヲ救護スルニハ從前行ハレタル職工任意ノ保險法ヲ以テ其目的ヲ達スルコト能ハス何トナレハ其効力ノ及フ所極メテ狹少ナレハナリ(百一)故ニ充分ニ其目的ヲ達スルハ唯強制的ノ職工養老金庫ヲ設置シ恰モ坑夫金庫ニ於ルカ如ク養老及寡婦孤兒扶助ノ事ヲモ併セ行フヘキノ一途アルノミ然ルニ此金庫ノ實行ハ容易ナラサル困難ニ遭遇ス何トナレハ保險ノ基礎トナルヘキ契約ノ關係、彼ノ療病金庫ニ於ルカ如ク簡單ナラス且ツ時日ヲ以テ限ルモノニアラサレハナリ又坑夫組合ニ於ルカ如ク同種類ノ職工ヨリ成ルニアラス且ツ其一員一個所ニ輻湊スルニアラサレハナリ然リト雖モ今日ニ至ルマテ療病金庫及坑夫金庫ニ依テ經驗シタル事跡ハ職工養老金庫ヲ新設スヘキ貴重ノ根據トナルヘシ顧フニ此問題ハ近年瀕リニ增加スル貧民救助費ノ負擔ヲ減シ同時ニ職工社會ノ生活ヲ安全ニシ及其風儀ヲ振興スルノ効アルモノナレハ一日モ之ヲ忽諸ニ付スヘカラス況ンヤ其金庫果シテ實行セラル、ニ至レハ社會改良ノ難問中ヨリ其至難ナル部分ヲ消除セシムルノ効アルニ於テオヤ

(原註)(七十五)一八七六年四月七日ノ補助金庫法及一八四八年六月一日ノ附則、行政法施行ノ地方ニ於テハ權限法第一四一條、一四二條、一八四四年七月十四日ノ訓令及一八四年十月十六日ノ告示、註文八十ヲ比較セヨ○(七十六)營業條例第一四〇條、此金庫ハ該條例ニ依リテ存在シ新設ノ場合ニ於テモ亦高等行政官衙ノ認可ヲ經テ法人ノ權利ヲ占得ス○(七十七)同上第一四一條乃至一四四條參、○(七十八)一八八三年六月十五日ノ療病保險法、一八八三年十一月二十六日ノ實施規則、ウオエトケ氏著註釋書(一八八四年伯林及エーベルト刊行第二版)アリ○(七十九)療病保險法第一條乃至三條、實施規則第五款、運輸營業及其他上記ノ各營業ニ擴充シタルコト一八八五年五月二十八日ノ法律第一五條乃至一七條並一八八五年八月二十一日ノ訓令○(八十)坑夫組合金庫ニ就テハ本書第三二六條ヲ見ヨ、同業組合ノ療病金庫ニ就テハ註文五十八ヲ見ヨ」補助金庫ニシテ今日尚見ルヘキモノハ各人ノ好意ヲ以テ設立シタル金庫ナルノミ療病保險法第七五條並一八八五年一月二十八日ノ法律及實施規則第九款及十款、而シテ加入義務ヲ付シタル金庫ハ自今療病保險法ノ支配ヲ受ケサルヘカラス同上第八五條八六條及實施規則第十一款乃至二十款○(八十二)大製造場療病金庫ハ療病保險法第五九條乃至六八條及實施規則第七款、其權限及規約准則ハ註文八十二ニ掲クルカ如シ建築療病金庫ハ同上法第六九條乃至七二條及實施規則第八款○(八十三)同上法第一六條乃至五八條、七六條七九條及實施規則第六款、其權限ハ(第五七條ノ場合ニ於テ)第五八條第二項及一八八五年九月十二日ノ布令、規約准則ハ一八八四年三月十四日ノ

告示〇(八十三)療病保險法第四條乃至一五條、四九條乃至五八條、七九條、八三條及實施規則第九欵〇(八十四)町村ノ規定ハ同上法第四條、町村保險金庫ハ同上法第一九條〇(八十五)町村ノ規定及町村保險金庫ハ同上第五條第二項第八條乃至一〇條、二二條、三〇條乃至三三條、四九條、乃至五三條及五五條、處罰ハ第八一條、八二條、日雇賃ノ確定ハ第八條第二〇條及實施規則第三欵〇(八十六)其扶助ハ貧民救助ニアラス第七七條〇(八十七)一八八四年七月六日ノ災害保險法此法律ハ一八八五年十月一日ヨリ實施シタリ第一一三條、一八八五年九月二十五日ノ勅令第一〇九條一八八四年七月三十日ノ勅令、礦山官ニ就テハ一八八四年八月十三日ノ勅令、孛國陸軍ニ關シテハ一八八五年九月三日ノ勅令第一四條及一七條、此法律ハ一八八五年九月二十日ノ告示郵便電信ニ關シテハ一八八五年九月三十日ノ達、ウガエトケ氏著註釋書アリ(一八八五年伯林刊行第二版)〇(八十八)一八七一年六月七日ノ賠償義務其法、第六條ハ一八七七年一月三十日ノ法律ニ依リ廢止セリエンデマン氏著註釋書アリ(一八八五年伯林刊行第三版鐵道ノ特別賠償義務法ハ本書第三七四條第二、航海業ニ於ル賠償義務ハ商法第四五一條及四七八條、刑法上ノ結果ハ註文六十七〇(八十九)災害保險法第九五條乃至九八條〇(九十)同上第一條乃至四條並一八八五年一月二十二日ノ告示、契約上ノ制限ノ禁ハ第九九條〇(九十二)一八八五年五月二十八日ノ法律第一條乃至一四條及一七條、此法律ハ一八八五年十月一日ヨリ施行シタリ一八八五年九月二十五日ノ勅令第二條」此法律ニ依リ保險セラレタル人員ハ三百八拾萬八ナリ之ニ反シテ農業及森林業ニ屬スル職工大約八百萬人ハ未タ保險セラレズ〇(九十二)同上第九條第一一條乃至

一五條及(設立セラレタル職業組合五十七ノ目錄)一八八五年五月二十二日及九月十五日ノ告示規約ハ第一六條乃至二一條、規約准則ハ一八八四年十二月二十日ノ告示)一八八五年官報第二十一號)、役員ハ第二二條乃至二七條、組織變更及解散ハ第三一條乃至三三條、法律上ノ補助、手數料及印稅免除ハ第一〇一條及一〇二條、坑夫ノ職業組合ハ第九四條〇(九十三)同上第三五條乃至四〇條及處罰ハ第一〇四條乃至一〇六條、新設ノ申告(第一一一條)ハ唯一時ノ効力アルノミ一八八四年七月十四日ノ告示心得〇(九十四)同上第四一條乃至四五條及(孛國內職業上組合ニ對シテ職工代表者ヲ選擧スル事)一八八五年十月十四日、十一月七日及十月二十二日ノ規則(同年官報第二五八號及二六五號)〇(九十五)同上第四六條乃至五〇條其位置ハ一八八五年九月廿五日ノ告示、審理手續ハ一八八五年十一月二日ノ勅令〇(九十六)同上第七八條乃至八六條及(處罰)第一〇八條災害豫防ハ國家ヨリ之ヲ爲スモノト並ヒ行ハル、〇(九十七)災害保險法第五條乃至八條及(管轄)一八八五年九月十二日ノ勅令、金額ノ確定及郵便ヲ以テ拂渡スコトハ第五一條乃至七〇條及(處罰)第一〇四條乃至一〇六條、療病金ノ多額ヲ許ス事ハ一八八五年九月三十日ノ告示〇(九十八)同上第一〇條、二八條乃至三〇條及帝國ノ保證ハ第三三條及九二條第四項、審理手續ハ第七一條乃至七七條、計算年ハ一八八五年二月二十三日ノ告示」賦課ヲ爲ストキハ其新ニ生シタル費用ヲ義務者ニ分配シテ之ヨリ徵收スル之ニ反シテ資本補充ヲ爲ストキハ其補充ニ要スル金額ヲ定規ノ助成金ニテ得ルナリ災害保險法ハ事務ノ簡易ナランカ爲メ賦課法ヲ選用シタリ然レ𪜈其費用一定ノ時期ヨリ以後非常ニ增額シ以テ現在ノ負擔ヲ將來ノ負擔ニ推移スルノ

弊アルヲ慮リ豫備資金ノ取集ヲ初年ニ於テ助成金ニ割當ル事ニ規定シタリ(第一八條)○(九十九)災害保險法第八七條乃至九一條、審理及事務手續ハ第九〇條及一八八五年八月五日ノ勅令一八八五年以來帝國保險官ノ報告ヲ刊行ス○(百)同上第九二條、九三條○(百一)千八百七十五年ニ現在スル金庫ノ員數左ノ如シ

獨逸帝國				學國		
	金庫人	員	財産	金庫人	員	財産
養老金庫	一六六	三九、一〇七	百万馬 三	一一一	二七、三七九	百万馬 一、五
死亡金庫	一一、一一九	一、五九九、二〇一	二四、五	九、四二六	九七三、八五九	一七、
寡婦金庫	一八九	二一、五八〇	九	一二〇	一二、六九七	五、五
混合扶助金庫	一、〇九四	一七一、八八〇	一七、五	九四一	一二九、四五〇	一〇
合計	一二、五六八	一、八三一、七六八	五四	一〇、五九八	一、一四三、三八五	四四

此金庫ハ生命保險社(本書第三一四條)ニ於ルカ如ク職工而已ニ限局スルニアラス「ウヰルヘルム」保險社ニ在テモ亦同シ即チ其社ハ總テ資産ナキ人民ニ積金ヲ爲サシメ以テ之ニ資本若クハ永久所得ヲ給與シ兼テ養老保險組合ノ設置ヲ奬勵スルモノナリ一八七九年三月二十四日ノ追加規約」之ニ類スル手工組合ノ保險

金庫ヲ設カラスト雖モ其規模小ニシテ此ニ列擧スルニ足ラス

第五章　營業ノ振作

國家カ營業ヲ振作スル事ハ第一、生産物ノ販賣ヲ容易ナラシメ(一)第二營業上ノ教育及智巧ヲ上進シ第三、贋造僞作ニ對シテ正業者ヲ保護スルニアリ

第三百五十五條　(甲)現今文部省ノ直轄ニ屬スル工業學校(二)ハ諸般ノ變遷ヲ經タルモノナリ工業上ノ高等教育ヲ施スヘキモノハ在アーヒエン、在ハノーフル及在伯林高等工藝學校(三)並國家ノ補助ヲ受ケ地方自治体ニ於テ維持スシ地方工藝學校トス地方工藝學校ハ當初設立ノ際(千八百二十年)手工專門學校ト定メラレシカ爾後此性格ヲ失ヒタリ何トナレハ其學校ハ同時ニ高等工藝學校ノ豫備校トナリタレハナリ此ノ如ク其學校ニ二樣ノ地位ヲ占有セシメテ以テ其組織ヲ改定セント試ミタルコト數回ナリシモ皆其効果ヲ見サリシニ依リ(四)終ニ二樣ノ目的ニ從テ學校ヲ分割スルコト、ナレリ爾來其學校ハ羅甸語ヲ缺ケル學期九個年ノ高等學校(高等實業學校)ニ變シ否ラサルモノハ工業中學校(專科ヲ有スル高等庶民學校)ニ變シタリ(五)甲ノ學校卒業生ハ高等工業學校ニ入ルヘキ資格及土木建築ニ關スル政府ノ試驗ヲ受ル資格ヲ有シ乙ノ學校卒業生ハ實地工業ニ從事スル者ヲ養成シ隨テ美術建築、摸型(六)及工業圖畫學校ト同一ノ目的ヲ有ス(七)

國家ハ又營業協會ヲ補助ス營業上ノ事件ニ關スル協會ハ農業上ノ協會ニ於ルカ如ク甚シク分岐錯綜セスト雖モ尚營ノ業各種類及一定ノ場所ニ對シ其種類ヲ異ニシ且ツ往々本部ト支部トニ分レルモノアリ(八)

營業ハ意匠雅美ヲ主トスル美術ニ反對シテ專ラ實地ノ効用ヲ主眼トスルモ美術工藝ニ在テハ同時ニ優美ト實用トヲ目的トスル獨逸ニ於テ工業上ノ製作品ニ美術上ノ意匠ヲ適用スル事ハ嘗テ廉價ノ物品ヲ出來得ヘキタケ多量ニ製造スルノ一方ニ走リタルカ爲メ一時殆ト其跡ヲ斂メタリ蓋シ斯ノ如キニ至リタルハ國民富裕ナラス其需要甚タ大ナラサルノ致ス所ナリ之レニ反シテ英國ニ於テハ製作物ノ堅牢ヲ佛國ニ於テ其優美ヲ始終全失セサリキ往時獨逸ニ於テ工業上ノ美術品製作所兼摸範所トモ稱スヘキモノハ獨リ孛國千七百六十三年以來官業トシテ經營シタル陶器製作所ナル而已輓近十年間ニ於テハ其趣キヲ殊ニシ美術ヲ貴重スルノ風一般ニ興起シ彼ノ勞力ト材料ヲ消費スルコト多カラサルモ苟モ其製作品ニ美術上ノ意匠ヲ加フレハ其價格ヲ增ストノ證明、漸次勢力ヲ有シ政府モ亦此方向ヲ取リテ美術ヲ奬勵スルニ至レリ之カ爲メ伯林府ニ於テ美術工藝ノ博物館ヲ設立シ同時ニ美術工藝敎習所ヲ置キテ其博物館ト連絡セシメ以テ其奬勵ノ一ニ供シタリ此博物館ハ當初政府ノ補助監督ヲ受ル私立營造物ナリシカ現今ハ政府ノ直チニ經營スヘキ官有博

物館トナレリ(九)

第三百五十六條　(乙)專賣特許ハ帝國立法權ノ管轄ニ屬シ(十)現ニ帝國法律ニ依テ規定セラレタリ(十一)而シテ工業上價格ヲ有スル所ノ發明品ニ對シテ之ヲ付與ス專賣特許ハ年々增率スヘキ手數料ヲ徵收シ十五個年ヲ期シテ之ヲ付與スルモノニシテ之ヲ占得スル人ハ已レ獨リ發明品ヲ工業上ニ利用スヘキ權利ヲ有シ又此權利ヲ適度ニ施行スヘキ義務及公共ノ利益上ヨリ必要ナル場合ニ於テハ報酬ヲ得テ之ヲ他人ニ讓與スヘキ義務ヲ有ス(十二)專賣特許ノ付與、取上若クハ無効宣告ハ在伯林專賣特許局ニ於テ公簿ニ登錄シ專賣官報ニ揭載シテ廣告スルヲ以テ其効力ヲ得セシム(十三)專賣ニ對スル異議ハ成規ニ依リ申告ヲ爲シ(十四)並特許局ノ廣告ヲ經タル後ニ起スヘキモノニシテ之ヲ裁定スルモノハ特許局ノ一課ナリ專賣特許ヲ出願シタル者又ハ裁定ニ由リテ妨害セラレタル者ハ四週間以內ニ特許局ノ他ノ一課ニ向テ訴願スルコトヲ得(十五)專賣特許ノ取上若クハ無効宣告ノ請求ニ係ル異議ニ更ニ他ノ一課ニ訴願スルコトヲ得(十六)其訴願ニ對スル裁定ニ服セサル者ハ帝國大審院ニ控訴スルコトヲ得(十七)賣買權ヲ毀損セラレタル者ハ賠償若クハ之ニ代ヘテ罰ヲ課スヘキコトヲ請求スルコトヲ得又毀損者ハ其外ニ刑法ニ依リ其罪ヲ問ハル、モノトス末段ノ二件ハ裁判所ノ審判ヲ受ケテ決スルモノトス(十八)

第三百五十七條　(丙)摸型及商標保護　新ニ工夫シタル一種特別ノ摸型ハ獨逸ニ於テ爾地諸工業國ノ先例ニ倣ヒ學問上及美術上ノ著作物ト同樣ノ方法ヲ以テ之ヲ保護シ他人ノ擬造摸作ヲ禁ス此保護ハ出願者ノ選擇ニ從ヒ一年乃至三年間希レニ十五年間マテヲ期シテ之ヲ付與シ公ケナル摸型名簿ニ登錄シテ其効力ヲ得セシム(二十)保護ノ出願ヲ受ケ及之ヲ登錄スル事ハ區裁判所ノ管掌トス(二十一)

商業上ノ取引ニ慣用スル貨物ノ記標(商標)ニ關シテ獨逸帝國ハ他國ノ例殊ニ佛國ノ先例ニ摸倣シタリ商標ノ保護ハ刑法中他人ノ姓名及屋號ヲ濫用スルノ禁ヲ擴充シ之ヲ彼ノ營業者間貨物ノ識別ニ常用スル記號ニ及ホシタルモノナリ而シテ其商標保護ノ効力ハ營業者ノ本人ヲ商人名簿ニ記入シ並其使用セント欲スル商標ヲ裁判所ニ呈出シテ登錄及廣告ヲ經タル時ヨリ起ルモノトス他人ノ商標權ヲ侵シタル者ハ被害者ノ申立ニ依リ罰ヲ課セラルヽノ外ニ損害ヲ賠償シ又ハ賠償ニ換ヘテ罰金ヲ拂ラハサルヘカラス(二十二)商標交互保護條約アル場合ニ於テハ外國ノ營業者モ同一ノ保護ヲ受ク(二十三)獨逸帝國ノ鷲印及孛國ノ鷲印ハ紋楯ヲ除ク外商標ニ使用スルコトヲ得(二十四)(二十五)濫リニ帝國、聯邦公伯及聯邦ノ紋章ヲ使用スル者ハ處罰セラルヘシ(二十六)

(原註)(一)此奬勵ハ商業及交通ノ部ニ於テ論スヘシ、營業ノ關稅保護ハ本書第一五八條及一五九條ニ記載ス○(二)本書第四九條ノ註文五十五○(三)一八八○年九月七日ノアーヒエン及ハノーフル高等工業學校々則)在伯林高等工業學校(一八八二年七月二十八日ノ校則)ハ往時ノ建築大學院及工業大學院ヲ合併シタルモノニシテ現今、建築、土木、器械、工藝、化學及冶金、普通學術ノ五部ヨリ成リ國家、地方自治体及工業社會ノ爲メ工業ヲ專務トスル者ニ高等教育ヲ授クル所トス此學校ニ附屬スル器械工藝試驗所アリ(一八八○年一月二十三日ノ校則)此試驗所ハ一八八四年十月一日以來紙試驗ノ一部局ヲ設ケ而シテ化學工藝試驗所(第三二二條ノ註文十四)及建築材料試驗所第二七七條ノ註文七)ト共ニ委員ノ監督ヲ受ク此委員ニ關シテハ一八八○年一月廿三日ノ規則ヲ見ヨ○(四)一八五○年六月五日ノ計畫書及一八七○年三月二十一日ノ達○(五)一八七八年十一月一日ノ達)往時ノ工業學校中、八校ハ高等實業學校ニ(第三○八條第二六校ハ工業中學校(一八八三年十月十七日ノ試驗規則)ニ變改シタリ○(六)在プレスラウ美術學校、在伯林美術工藝學、在キヨーニヒスベルヒ美術兼手工學校、在ダンチーヒ美術兼手工學校、在ザュッセルドルフ美術工藝學校、在マグデンブルヒ建築兼手工學校(一八八二年九月六日ノ試驗規則、同時ニ美術工藝ノ圖畫學校ナリ)アリ其他ケンチン、エッケルンフホルデ、ニーンブルヒ、ホックステル、イトスタイン及キヨルンノ諸府ニ各々一ノ建築兼工手學校アリ又機織學校ハスプレルベルヒ、コツトブス、アイムベック、ミュールハイム、アム、ライン、及クレーフエルトニ各々一アリクレーフエルトノ機織學校ハ染色術及裝飾術ノ學科ヲ兼備ス其他、アイムベッタニハ機械學校、イーゼルローン及レームシャイトニハ金工學校、ボーヒユムニハ冶金學校、ハインスベルヒニ

ハ編籃學校、ヘール、グレンツハウゼンニハ陶器學校、マグデーブルヒニハ彫刻學校アリ徒弟ノ工業養成ニ關シテハ本書第三五三條ノ註文七十三ヲ見ヨ○(七)在コツトブス、ブレテラウ、マグデブルヒ、エルフールト、ハルレ、カツセル、キヨルン及エルベルフエルト工業圖書學校ハ同時ニ染色用法及摸樣用法ヲ教授ス在ハーナウ圖書大學院及協會ノ設立ニ係ル同樣ノ教習所ニ關シテハ千八百八十一年ノ「セントラールブラット」文部省發行第百八十九葉ヲ見ヨ○(八)シユーレージエン中央工業協會、ハノーフル工業協會(一八七六年十一月十二日及十二月三十日ノ規約ヂユツセルドルフ工業協會(一八三六年六月二十日ノ規約)アリ千八百四十四年伯林府ニ設立シタル勞動社會中央協會ハ獨逸全國ニ擴充シタリ工業ニ關シテ功勞アル者ニハ政府ヨリ賞牌ヲ付與ス一八四六年十月二十二日ノ內閣令及一八五〇年八月三十一日ノ達○(九)一八七三年七月十四日及一八七九年六月二十七日ノ勅令○(十)帝國憲法第四條第五項○(十一)一八七七年五月二十五日ノ專賣特許法、ベルゲル氏著註釋書(一八八四年伯林刊行)アリ○(十二)同上法第一條乃至十二條、舊來ノ專賣特許ハ第四一條乃至四四條○(十三)同上法第十三條乃至十九條及一八七七年六月十八日ノ勅令○(十四)同上法第二〇條乃至二二條及一八七七年七月十一日ノ告示○(十五)同上法第二四條乃至二六條及三三條、獨逸法ハ從來李國ニ行ハレタル豫審ノ制ヲ採用シ佛國白國及露國ニ行ハレル所ノ屆出ノ制ヲ排除シタリ豫審ノ制ハ米國ニ於テモ亦採用セラレタリ○(十六)同上法第二七條乃至三〇條、三三條○(十七)同上法第三二條及一八七九年六月十六日ノ法律、手續ハ一八七八年五月一日ノ勅令○(十八)專賣特許法第三四條乃至四〇條○(十九)本書第三一〇條○(二十)一八七六年一月十一日ノ帝國法律、一八七六年二月二十九日及七月二十三日並一八八三年十一月十二日ノ實施規則○(二十一)一八七八年四月二十四日ノ法律第二五條第一項、三〇條、六九條及一〇九條○(二十二)一八七四年十一月三十日ノ帝國法律、一八七五年二月八日ノ實施規則及一八七五年三月二十二日ノ達○(二十三)一八七八年四月二十四日ノ法律第二〇條、兩國交互ノ保護ハ塊國トハ一八八一年五月廿一日ノ通商條約第二〇條、大貌列顚トハ一八七五年四月十四日ノ協議書、佛國トハ一八七三年八月八日ノ協議書、白耳義トハ一八八三年十二月十二日ノ條約、荷蘭トハ一八八二年一月十九日ノ告示葡萄牙トハ一八七二年三月二日ノ條約第一〇條、西班牙トハ一八八三年七月十二日ノ通商條約第七條、伊太利トハ一八七五年四月二十日ノ告示及一八八三年五月四日ノ通商條約第五條、デンマルカトハ一八七九年四月四日ノ告示、瑞典那威トハ一八八二年七月十一日ノ告示、露斯亞トハ一八七三年八月二十七日ノ告示、ルーメリニアトハ一八八二年一月二十七日ノ告示、北亞米利加トハ一八七一年十二月十一日ノ條約、ブラジリトハ一八七七年二月二十八日ノ告示、ウエチツエラトハ一八八三年十二月八日ノ告示ニ依リ之ヲ施行ス其他瑞西トハ商標ヲ除キ屋號家名ノ爲メ交互ノ保護ヲ施行ス一八六九年五月十三日ノ條約第十條○(二十四)一八七二年三月十六日及四月十一日ノ勅令○(二十五)一八六二年一月四日ノ勅令○(二十六)刑法第三六〇條第七項

第六　商業

第一章　總論

第三百五十八條　商業トハ生產者ヨリ消費者ニ貨物ヲ轉賣スル獨立營業ヲ總稱ス○商業ハ貨物アルニアラサレハ之ヲ營ムコトヲ得ス故ニ生產及工業(一)ヲ俟チテ始メテ行ハレルモノタリ然レ𪜈亦商業ハ自己ノ純益ノ外ニ貨物ニ出來得ヘキタケノ價格ヲ附與スルノ効用ヲ爲シ之ニ依リ經濟上貴重ナル事業トナレリ

商業ハ歷史ニ於テ夙トニ發達シタレ𪜈亞米利加ノ發見以來始メテ政治上ノ事件トナレリ(商業政策)商業ノ効益ハ重大ナルカ爲メ之ヲ民富ノ無二ノ源泉トナシ以テ適良ノ組織ヲ設ケ之ヲ國家ニ利用セント試ミルモノアルニ至レリ(重商主義(メルカンチールシステム))(二)此主義ハ則チ輸出品ニ保護ヲ與ヘ輸入品ヲ制限シ以テ自由ノ發達ヲ抑制シタル時代ニ於テ盛リニ行ハレタリ(鎖港主義(ブロヒビチーブシステム))然ルニ當世紀ノ初メニ於テ重農主義、就中アダム、スミス派ノ學說世ニ行ハレルニ及ヒ始メテ商業自由ノ原則一般ノ認ムル所トナリ爾來各國ノ商政擧ケテ此原則ニ據レリ抑々商業自由トハ商業ニ關スル諸般ノ制限ヲ解キ一切ノ特權、獨占權及其他自由ノ運動ヲ妨害スル施設ヲ除クニアリ故ニ商業自由ハ自由貿易說ト保護稅說(五)トノ鬪爭ニ關係ナキモノニシテ唯タ保護稅ヲ徵收スルニ其他ノ關稅ト同シク出來得ヘキタケ抑制ヲ輕クスル事ヲ要スルノミ(六)

商業ニ關スル行政ハ外商及內商ニ由テ殊別アリ外商ハ通商條約ニ依リ(七)內商ハ商法ニ依リ其秩序ヲ得ルモノナリ而シテ甲ハ外務官及領事(八)ニ於テ乙ハ商工務省(九)及地方廳ニ於テ管理ス商工業者全体ノ利益ヲ代表スルカ爲メ一定ノ地方ヲ區畫シテ商業會議所ノ設ケアリ(十)商業會議所ハ商人ト官廳トノ間ニ立テ雙方ヲ連結スルモノニシテ(十一)其設立ハ商務大臣ノ認可ヲ要シ(十二)其議員ハ通常商人名簿ニ登記シタル一地方ノ商人中ヨリ三年ヲ期シテ選擧セラルモノトス(十三)又商業會議所ハ其出納計算及事務ヲ自ラ規定シ費用ノ徵收ヲ議決ス費用ハ商人ノ營業稅ニ割合ヒ之カ附加稅トシテ徵收ス其額若シ其營業稅ノ一割ヲ超ヘントスルトキハ大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス(十四)キヨーニグスベルヒ、メーメル、ウルジート、ダンチヒ、エルビング、伯林、ステツチン及マグデブルヒノ諸府ニ於テハ商人組合(カウフメンニシエアリテ商業者ヲ代表シアルトナ府ニ於テハ商業議會(コンメルツコアリテ商業者ヲ代表ス此議會ハ同時ニ財產權ニ關スル規定及公會(コルポラチオーンスレヒト)ノ權ヲ有ス(十五)商業上ノ行政ニ對シ緊要ナルモノハ商業統計ナリ此統計ハ近時外國貿易ノ監督ニ由リ(十六)其面目ヲ改メタルモノニシテ立法ノ材料ト共ニ通商報告ニ揭載シテ刊行ス(十七)

商業ハ主トシテ當業者自己ノ行爲ニ依據スルモノナレハ政府ノ之ニ干涉スルハ一定ノ制限內ニ於テスルノミ其干涉ノ一部ハ民力養成ノ普通政務、就中信用及交通ノ行政ト同一ナルコトアリ(十八)國家ハ又商業上ノ關係ニ對シ一定ノ法則ヲ設ケ且ツ市場、取引所、仲買ノ如キ偏ト𪜈ニ商業ノ目的ニ使用セラルヘキ施設ヲ定メ或ハ度量衡

及通貨ノ如キ主トシテ商業ノ目的ニ使用セラルヘキ制度ヲ設ク凡ソ此等ノ事件ハ帝國法律ヲ以テ定ムヘキモノタリ(十九)

(原註)(一)商業ト工業トハ學理上全ク殊別ノモノナレ𪜈實際ニ於テハ二者往々連結シ加之法律モ亦之ヲ混合シタリ例之ハ商業稅ヲ工業稅ヨリ區別セサルカ如シ(本書第一四三條第二)又持賣商(第三五一條)及仲買商(第三六〇條)ハ商業會議所ヲシテ自己ヲ代表セシムルニモ拘ハラス營條例ニ依リ支配セラルル其他工業ニ屬スル事件ニシテ商業中ニ算入セラレタルモノ尠カラス商法第二七一條、二七二條〇(二)本書第三一二條第一〇(三)字國ニ關シテハ一八一八年五月二十六日ノ法律第一條乃至七條及十六條ヲ比較セヨ〇(四)本書第三一二條第二第三〇(五)本書第一五八條〇(六)同第一六〇條〇(七)獨逸帝國ト通商條約ヲ締結シタル諸國及其年月日ハ左ノ如シ

墺洪國	一八八一年五月二十三日
荷蘭	一八五一年十二月三十一日
佛國	一八七一年五月十日
伊太利	一八八三年五月四日
葡萄牙	一八七二年三月二日
デ子マルク	法令全書(一八四六年)
白耳義	一八六五年五月廿二日、一八八一年五月三十日ノ繼約
瑞西	一八八一年五月二十三日
英國	一八六五年五月三十日
西班牙	一八八三年七月十二日及一八八五年五月十日
瑞典那威	法令全書(一八二七年)
希臘	同上(一八八五年)
ルーマニア	同上(一八八一年)
土耳其	同上(一八六三年)
日本	同上(一八七〇年)
朝鮮	同上(一八八四年)

リベリア	同上(一八八八年)
公果國	一八八五年二月二十六日
コスタ、リカ	法令全書(一八七七年)
北亞米利加	同上(一八二八年)
智利	同上(一八六三年)
ウルクワイ	同上(一八五七年)
セルビア	同上(一八八三年)
波耳斯亞	同上(一八七三年)
支那	同上(一八六三年)
シヤム	同上(一八六四年)
マダガスカル	同上(一八八五年)
サン、サルウワドル	同上(一八七二年)
メキシコ	同上(一八八三年)
ブラジリア	同上(一八七五年)
パラグワイ	同上(一八六二年)
アルゼンチン	同上(一八五九年)
トンガー	同上(一八七七年)
サモア	同上(一八八一年)
ハワイ	同上(一八八〇年)

ベントチル氏著、獨逸通商、航海、領事及文學ニ關スル條約一ト題スル書アリ(千八百八十三年伯林刊行)

〇(八)本書第八三條及八五條〇(九)第五〇條經濟會議ハ第三一二條第七〇(十)一八七〇年二月二十四日ノ法律〇(十一)同上法律第一條第三一條、乃至三四條、事務手續第二六條乃至三〇條〇(十二)同上第二條〇(十三)同上第三乃至一九條並行政施行ノ地方ニ於テハ權限法第一三五條、一三八條〇(十四)商業會議所法律第二〇條乃至二五條並權限法第一三四條、一三五條及一三八條〇(十五)商業會議所法律第三六條並權限法第一三六條、一三八條〇(十六)本書第一五九條第三〇(十七)一八八〇年四月二十四日ノ達〇(十八)本書第一三六條乃至三一九條及三六三條乃

至三七八條○(十九帝國憲法第四條第二及第三

第二章　商法

第三百五十九條　統合書一ノ商業律ハ商業ノ性質及需要ニ依リ缺クヘカラサルモノニシテ獨逸ニ於テ既ニ帝國建設前ヨリ獨逸商法ノ制定アリタリ其商法ハ特別ノ實施規則ヲ以テ之ヲ各邦ニ施行セシカ(二十)帝國ノ建設以來之ヲ帝國一般ニ施行シ以テ將來ニ對シ各國立法權ノ干渉ヲ絶チタリ(二十一)

商法ハ商事(商業ニ關スル權利爭議)ニ適用スヘキモノニシテ其規定ナキ場合ニ於テハ商業慣例ニ依リ商業慣例ナキ場合ニ於テハ普通ノ民法ニ依ルモノトス(二十二)

商法ハ商人(第一編乃至第三編)商業(第四編)及海商(第五編)ノ三部ヨリ成レリ(二十三)

商人トハ商業ヲ營業的ニ爲所ノ一個人(二十四)若クハ會社ヲ言フ凡ソ商業ヲ營ム者ハ屋號ヲ以テ相區別ス此屋號ハ第三者ニ對シ効力アラシムル爲メ公ケナル商人名簿ニ登記セラレテ必要ノ證明ヲ得サルヘカラス(二十五)此登記及證明ハ區裁判所ノ管掌トス(二十六)商業ニ參與スル人トハ委托販賣人、商業代理人(二十七)商業補助者(二十八)及仲買人(二十九)ヲ言フ商社(三十)ニハ合名會社、合本會社、無名會社ノ別アリ合名會社ハ共同ノ屋號ヲ用ヒテ營業シ社員ノ責任ヲ其拂込ノ金額ニ制限スヘカラサルモノヲ言フ(三十一)差金會社ハ共同屋號ヲ用ヒルモ其社員ニシテ無限責任ヲ負フヘキ者ハ數

名ニ止マリ其他ノ社員即チ差金者ハ拂込ミタル金額ノミヲ以テ責ニ任スルモノトス(三十二)而シテ其拂込金額ヲ若シ幾多ノ株ニ分割スルトキハ之ヲ合本差金會社ト稱ス(三十三)合本會社ニ在テハ一切ノ社員其責任ヲ株金ニ限ルノミ(三十四)無名會社ニ在テハ或者若干ノ金額ヲ拂込ミテ他人ノ商業ニ加入シ其利益損失ヲ共ニ受ク(三十五)此無名會社ハ唯商業者ノ寄合ヒタルモノヽ如ク完全ノ商社ト看做スコトヲ得ス(三十六)

商業ハ契約法ノ一部ヲ爲ス其契約法ハ商法ノ行ハルヘキ部域ト商業ノ特性トヲ參酌シ別ニ商法中ニ規定シタルモノト謂フヘシ(三十七)成規ニ依リテ登錄シタル商業簿ニハ特別ノ證憑力ヲ有セシム(三十八)商業ノ種類ハ賣買(三十九)並授任者ノ爲メ自己ノ名ヲ以テスル委托賣買(四十)、他人ノ爲メ自己ノ名ヲ以テ貨物運送業(四十一)及貨物運送業(四十二)トス

海外貿易ニ關スル規定ハ航海條例ノ範圍ニ入ル(四十三)

商業ニ關スル爭訟ハ通常ノ手續ニ依リ裁判所ニ於テ通常ノ手續ニ依リ裁判ス(四十四)

(原註)(二十)獨逸商法ハ北獨逸聯邦法令全書(千八百六十九年分第四〇四葉ニ載スマコーウエル氏著註釋書(第九版千八百八十四年伯林刊行アリ○(二十一)一八六九年六月五日ノ實施規則○(二十二)商法第一條○(二十三)商法ノ條則ノ順序ハ正確ナラス商法(第二編及三編ハ第一編ニ記シタル商業者ノ一部ナリス又商業簿ノ證憑力(第二八條乃至四〇條)ハ商業者ノ部

ニ(第一編)ニ屬セスシテ商業ノ部(第四編)ニ屬ス○(二十四)商法第四條乃至一一條(二十五)商法第一二條乃至二七條○(二十六)一八七八年四月二十四日ノ法律第二五條、三〇條、六九條及一〇九條○(二十七)商法第四一條乃至五六條○(二十八)同上第五七條、乃至六五條、商人ノ助手及徒弟ニ關スル條則第一〇五條乃至一三三條)ヲ適用セス同上第一五四條第一項○(二十九)本書第三六〇條第三○(三十)露國トノ貿易ニ於ル兩國交互ノ認可ハ本書第三二〇條ノ註文八十四ニ記ス(三十一)○商法第八五條乃至一四九條○(三十二)同上第一五〇條乃至一七二條○(三十三)合本差金會社ニシテ近時ノ組織ヲ有スルモノハ合本會社ノ一種トナシ之ト同視ス本書第三二〇條第三○(三十四)合本會社ハ假令商業ヲ營マサルモ尚同一ノ原則ニ依リテ定メラレタル條例ニ服ス本書第二三〇條○(三十五)商法第二五〇條乃至二六五條○(三十六)同上第二六六條乃至二七〇條○(三十七)同上第二七一條乃至三三六條○(三十八)同上第二八條乃至三三條、三七條、三八條及四〇條、本章ノ爾餘(チツデル)ノ規則ハ一八七七年一月三十日ノ法律ニ依リ廢止ス○(三十九)商法第三三七條乃至三五九條○(四十)同上第三六〇條乃至三七九條○(四十一)同上第三八九條乃至三九〇條乃至四二一條、就中鐵道運輸事業ハ第四二二條乃至四三一條○(四十三)本書第三六五條第二○(四十四)商法第三條、地方裁判所中ニ設クヘキ商事局ハ本書第一八二條第二

第三章　市場、取引所及仲買

第三百六十條　市場(マーケツト)ハ近時交通運輸ノ便開ケ販賣ノ道容易クナリタルカ爲メ大商業

者ニ對シテハ既ニ其効力ヲ減少シタリ(四十五)然レ𪜈小賣易ノ爲メ年市及小賣市(トシテハ仍其効力ヲ保チ就中農產物ノ賣買ニ對シテ緊要ノモノタルコトヲ失ハス即チ穀物、家畜、羊毛ノ賣買ニ對スル市場並日常需要物ノ賣買ニ對スル毎週市場ノ如キハ今日ニ於テ仍缺クヘカラサルモノトナレリ凡ソ此等ノ市場ハ行政官廳ニ於テ其個所、時日及開市時間ヲ確定シ(四十六)競爭上及收稅上ノ關係ニ於テ大ナル便利ヲ享有ス(四十七)市場稅ハ開市時間ト使用スル場所ノ廣狹ニ從ヒ壹平方「メートル」ニ付一日貳拾片(ペンニヒ)以內トシ行政官廳若クハ縣參事會ノ許可ヲ得テ之ヲ徵收ス(四十八)

取引所(ボールス)ハ賣買契約ヲ締結スル市場ニシテ資金取引所ト貨物取引所トノ二種アリ取引所ヲ設立スルニハ大臣ノ許可ヲ受ケサルヘカラス(四十九)取引所ハ商關スル取引所規則ヲ施行スルニモ大臣ノ許可ヲ受ク(五十)

人組合若クハ商業會議所ノ監督ヲ受ケサルヘカラス又相場及物價ノ確定及報告ニ仲買(マクラー)ハ裁判所ニ於テ宣誓シタル商業媒介人ニシテ官任ノ資格アルモノトス仲買人ハ公證ノ權ヲ有ス然レ𪜈本業獨占ノ權アルコトナシ其任命ハ商人組合及商業會議所ニ於テ縣知事ノ認定ヲ得テ之ヲ實行ス(五十一)

(原註)(四十五)麻布ノ大小精粗ヲ撿定證認スル在ハノーフル州、在ウエストフアーレン州、在ヘ

ツセン州官立麻布撿査所ハ一八七五年三月十五日ノ法律ニ依リ廢セラレタリ〇(四十六)營業條例第六五條、六六條、行政法施行ノ地方ニ於テハ權限法第一二七條乃至一二九條」私設市場ノ設立モ亦許可ヲ受ケサルヘカラス但シ毎週場市ノ物品ニ限局スルヲ要セス一八八一年九月十五日及一八八三年四月二十三日ノ上等行政裁判所判決〇(四十七)營業條例第六四條、六六條、六七條、六九條乃至七一條、處罰ハ第一四九條第六項〇(四十八)同上第六八條、一八七二年四月二十六日ノ法律〇(四十九)取引所ハ商人組合ノ存在スル地方及其他ブレスラウ、ボーゼン、フランクフルト、アム、マイン並キヨルンノ諸府ニアリ〇(五十)一八七〇年二月二十四日ノ法律第三四條及權限法第一三七條、一三八條〇(五十一)商法第六六條乃至七六條七九條第一及八〇條乃至八四條、一八七〇年二月二十四日ノ法律第三三條、徵戒罰ニ對スル告訴ハ權限法第一三七條、第一三八條

第四章　度量衡

第三百六十一條　獨逸ニ於テ度量衡ノ制ハ各地方ノ慣例ニ依リ甚タ區々ニ渉リ嘗テ統合スル所ナカリキ各邦政府及關稅同盟ハ度量衡ノ制ヲ一ニセント試ミ屢々之ヲ計畫シタレ𪜈其始メテ獨逸普通ノ制度ヲ設クルニ至リタルハ帝國立法ノ權ニ依レルナリ而シテ新ニ制定セラレタル度量衡ハ「メートル」及其十倍並十分一ヲ以テ基礎トナス(五十二)「メートル」ヲ以テ基礎トスル度量衡ノ制ハ爾他諸國ニ於テ往々之ヲ施行スルニ因リ且ツ條約ニ依リ交互ノ一致ヲ保スルニ因リ(五十三)其制ハ獨逸國內普通ノ

モノタル而已ナラス同時ニ列國間普通ノモノトナレリ

新定度量衡ノ區分及稱號ハ左ノ如シ

(甲)長尺ハ「メートル」トス「メートル」ヲ百分シタルモノヲ「センチメートル」ヲ千倍シタルモノヲ「キロメートル」トス又「メートル」ヲ一ミルリメートル」トス(乙)平面尺ハ平方「メートル」トス百平方「メートル」ヲ一「ヘクタル」トス(平方千「メートル」、平方「センチメートル」、平方「ミルリメートル」)

(丙)容量ノ基礎ハ立方「メートル」トス其千分一ヲ「リートル」トシ百「リートル」ヲ「ヘクトリートル」トス(立方「センチメートル」及立方「ミルリメートル」)

(丁)重量ノ一位ハ「キログラム」トス其千分一ヲ「グラム」トシ「グラム」ノ千分一ヲ「ミルリグラム」トス「キログラム」ノ千倍ヲ噸ト稱ス(五十四)

度量衡警察ノ原則ニ依レハ公衆ノ交通取引ニ於テ物品ヲ測度秤量スルニハ官ノ撿印アル度量衡ヲ使用セサルヘカラス(五十五)酒性流液ノ賣買ニ用ヒル「アルコール」撿測器及寒暖計並葡萄酒ノ樽其他點燈瓦斯ノ賣買ニ用ヒル瓦斯撿測器モ亦同シク官ノ撿印アルヲ要ス(五十六)總テ營業者ハ其營業ニ付無撿印若クハ不正ノ度量衡ヲ有スルコトヲ得ス(五十七)

度量衡ノ撿査及撿印ハ特置ノ撿査官之ヲ管掌ス在伯林度量衡撿査委員ハ巴威里亞

ヲ除キ獨逸全國ニ於ル檢査事務ヲ統理シ交通上ノ爲メ度量衡ノ一致ヲ監察ス（五十八）地方ニ於テハ州知事ニ屬スル度量衡視察官及檢査アリ其視察官ハ一州内ノ度量衡ヲ監督ス（五十九）其檢査官ニシテ視察官所在地ニアラサルモノハ市町村ノ吏員トス（六十）檢査ハ獨逸全國ニ向テ効力ヲ有ス（六十一）檢査及檢印ノ條件、手續及手數料ハ別段ノ規則ニ依リテ定メラレタリ（六十二）

度量衡ノ監督ハ之ヲ他ノ場合ニ適用スル純金銀ノ量ヲ隨意ニ增減スルコトヲ得ルモノトス（六十三）又金銀製ノ器物ハ其信用ヲ高メ及誤認ナキヲ保スルカ爲メ千八百八十八年一月一日以來特別ノ監督ヲ受ケシメ金銀器物ノ純金若クハ純銀包含量ハ獨逸全國ニ向テ法律上ノ規定ヲ設ケ此規定ニ依リタル器物ニ限リ純金若クハ純銀ノ包含量ヲ證記ス其他、金銀器物ハ其包含スル純金銀ノ量ヲ隨意ニ增減スルコトヲ得ルモ法律ノ規定ニ適ハサルモノハ證記ヲ受ルヲ得ス金銀製ノ裝飾器ハ純金銀量ノ多寡ニ拘ラス證印ヲ受ルコトヲ得證記若クハ證印アル金銀器ニ對シテハ販賣人其純金銀包含量ノ正確ナルヲ保スヘキ義務アルモノトス（六十四）

（原註）（五十二）帝國憲法第四條第三項、一八六八年八月十七日ノ度量衡條例、一八八四年七月十一日ノ法律〇（五十三）列國「メートル」條約ハ一八七五年五月二十日獨逸、墺地利、白耳義、佛蘭西、伊太利、瑞西、葡萄牙、西班牙、墨馬、瑞典那威、露斯亞、土耳其、北米、ウエネツエラ、ブラジル、白露及アルゼンチン聯邦ノ間ニ締結セラレタリ其後大貌列顯、セルビア、及ルーメニアノ加盟ハ一八八四年十二月三十日ノ告示、日本ノ加盟ハ一八八五年十一月九日ノ告示〇（五十四）度量衡條例第二條乃至七條、第四條ノ廢止（一八七三年十二月七日ノ法律）ト同時ニ「マイレ」及「シエフェル、ツエントネル」「プフンド」ノ量名ハ廢セラレタリ略記號ニ關シテハ一八七七年十二月十三日ノ達ヲ見ヨ數位及分數ノ數字記載方ハ本書第六一條ノ註文八十九〇（五十五）度量衡條例第十條、一八六九年十二月六日、一八七一年八月十六日、一八七二年十二月十四日、一八七五年七月十一日、一八八一年三月十二日ノ告示、一八八五年八月五日ノ度量衡檢查ニ關スル規則〇（五十六）度量衡條例第十一條乃至十三條〇（五十七）刑法第三六九條第二項〇（五十八）度量衡條例第十八條、十九條、一八六九年二月十六日ノ告示及同年七月二十一日ノ訓令、一八七一年十一月二十六日ノ法律第三條〇（五十九）一八七〇年四月二十六日ノ達〇（六十）度量衡條例第十四條、十五條乃至十七條及十九條、一八六九年十一月二十六日ノ孛國法律並一八七〇年一月六日ノ訓令〇（六十一）度量衡條例第二十條〇（六十二）同上第十八條及一八八四年七月十一日ノ法律第二條一八八四年十二月二十七日ノ度量衡檢查條例、一八八四年十二月二十八日ノ檢查手數料規則（舊式ノ度量衡ノ允許期限ハ一八八四年十二月三十日ノ告示）一八八四年十二月二十七日ノ及一八八二年十月二十四日ノ告示ヲ施行ス）一八七〇年四月十四日ノ訓令〇（六十三）一八八一年七月二十日ノ法律及一八八三年四月二十七日ノ達〇（六十四）一八八四年七月十六日ノ

法律

第五章　貨幣

第三百六十二條　通貨ハ財産ノ價格ヲ測度スヘキ共同準尺ナリ貴金属ヲ以テ鑄造シタル通貨ニシテ其物質ニ由リ價格ヲ保有スルモノハ稱シテ硬貨ト言フ（六十五）貨幣ノ鑄造ハ昔時國王ノ特權ニ屬シ國庫収入ノ一源泉ヲ爲シタリ然ルニ既ニ前世紀ニ於テ之カ爲メ貨幣濫造ノ弊ヲ釀シ交通上ニ大害ヲ與ヘタルコトヲ經驗シタリ此ニ於テ政府ノ權力ヲ以テモ變更スヘカラサル一定不拔ノ貨幣制度ヲ設クルニ至レリ其制度ニ據レハ國内ニ主トシテ通用スヘキ貨幣即チ主幹ノ貨幣ハ一定ノ地金價格ヲ有セサルヘカラス（貨幣標準）而シテ少額ノ取引ニ缺クヘカラサル補助貨幣ハ非貴金屬若クハ價格ノ高カラサル地金ヲ以テ鑄造シ紙幣ト同ク其總額ヲ限リテ發行スヘキモノトス（六十七）當世紀ニ至リテハ啻ニ一國内ニ於ル貨幣制度ヲ固定スルノミナラス列國間交通ノ利益ヨリシテ列國間ニ於テモ亦互ニ之ヲ一定不拔ノモノタラシメントノ傾向ヲ生シタリ

貨幣ノ價格ヲ基定スルモノハ稱シテ本位ト云フ本位ハ黄金又ハ銀又ハ金銀両種ヲ基礎トスルニ從ヒ之ヲ金本位、銀本位又ハ複本位ト言フ複本位ハ金銀間ノ價格差異ヲ一定シテ之ヲ基礎トナサヽルヘカラス然ルニ金價ト銀價ノ差ハ決シテ固定ノモノニアラサルヲ以テ（六十八）金銀ノ差額ニ變動アル毎ニ金貨及銀貨ノ價格ヲ交々變移シ其結果ハ相場ノ高キ貨幣ヲ外國ニ流出セシメ相場ノ低キ貨幣ヲ内國ニ流入セシム複本位ニハ此ノ如キ濫弊損害アルニ因リ各國政府追次單本位ノ方向ヲ取ルニ至レリ而シテ其單本位中金本位ヲ以テ最利益アルモノトス何トナレハ黄金ハ之ヲ貯藏シ及運搬スルニ輕便ナルノミナラス銀ニ比シテ其價格變動スルコト尠ナク且ツ鑄造シ易ケレハナリ（六十九）

獨逸ニ於テハ曾テ幾多ノ幣制、行ハレタリシカ一ハ各邦ノ法律ニ依リ一ハ貨幣條約ニ依リ漸次統合シ竟ニ帝國法律ニ依リ統一ノ獨逸幣制ヲ施行スルニ至レリ此際、ブレーメン府ヲ除キ各地方ニ行ハレタル古來ノ銀本位ニ換ユルニ金本位ヲ以テシ且ツ「マルク」ノ十分算法ヲ普ク實行スルコトヲ得タリ（七十）但シ金本位ヲ銀本位ニ換ユル事ハ今日未タ全ク竣功セス蓋シ此事業ハ相當額ノ金貨ヲ鑄造シ以テ彼ノ補助貨幣トシテ法律ニ定メタル總額ヲ超ヘテ現ニ融通スル銀貨ヲ引上ケ之ヲ賣却スルヲ要スル而シテ斯ノ如クスルハ一朝ニ爲シ得ヘカラサルコトニシテ唯タ漸次ニ其歩ヲ進メ得ルノミ就中急速ニ銀ヲ賣却セントスルトキハ他ノ事情ト投合シテ銀ノ相場ヲ抵落スルノ結果ヲ來スヘシ（七十一）

獨逸帝國ノ金本位ハ千八百七十六年一月一日ヲ以テ獨逸全國ニ實行シタリ（七十二）新

貨幣ノ鑄造及舊貨幣ノ引上ハ帝國政府ノ委托ニ依リ帝國ノ費用ヲ以テ各邦ノ造幣局ニ於テ施行ス（七十三）又外國貨幣ノ通用ヲ禁スルト許ストハ聯邦參議院之ヲ決定ス（七十四）通貨ノ一位ハ「マルク」ニシテ之ヲ百分シタルモノヲ「ペンニヒ」トス帝國金貨トシテ鑄造セラルヽモノハ五「マルク」拾「マルク」及貳拾「マルク」ノ金貨ナリ（七十五）拾「マルク」ノ貨幣ハ「ドツペルクワーネン」ト稱シ貳拾「マルク」ノ貨幣ハ「クローネン」ト稱シ貳拾「マルク」ニ補助貨幣トシテ五「マルク」、貳「マルク」、壹「マルク」、五拾「ペンニヒ」及貳拾「ペンニヒ」ノ銀貨、拾「ペンニヒ」及五「ペンニヒ」ノ白銅貨並貳「ペンニヒ」及壹「ペンニヒ」ノ銅貨ヲ鑄造ス補助貨幣ノ總額ハ全國ノ人口ニ割合ヒ一人ニ付銀貨拾「マルク」銅貨白銅貨貳「マルク」半ヲ超過スルヲ得サルノ規定ナリ帝國金庫及各邦金庫ハ銀貨ナレハ如何ナル員額マテモ之ヲ受取リ其他人民相互ノ取引ニ於テハ銀貨ナレハ貳拾「マルク」マテ、銅貨及白銅貨ナレハ壹「マルク」マテヲ支拂トシテ受取ラサルヘカラス（七十七）

硬貨若クハ紙幣ヲ贋造シ若クハ毀損シテ通用ニ堪ヘサラシムル者並其贋造ノ爲メニ印章及鑄造板ヲ購買若クハ製造シタル者ハ重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラルヘシ（七十八）其他私カニ其印章、鑄造板及摸型ヲ製造シ他人ニ讓與シタル者ハ刑法ニ依テ其罪ヲ問ハル（七十九）

（原註）（六十五）紙幣ハ國家ノ信用ニ依リ其價格ヲ保有ス本書第一二六條第六ヲ見ヨ○（六十六）本書第一三○條○（六十七）此變遷ヲ以テ貨幣ノ政治ハ財政ノ部ヲ脫シテ民力養成政治ノ部ニ移レリ○（六十八）金銀價格ノ差ハ金一ニ對スル銀十五ト金一ニ對スル銀十八ノ間ニアリ○（六十九）佛國ハ千八百六十六年自耳義、伊太利、端西及希臘ト羅典貨幣同盟ヲ設ケ複本位ヲ施行セシカ數年以來銀ノ價格降落シテ多量ノ銀、國内ニ注入セントスルノ恐レアルニ因リ銀貨ノ鑄造ヲ停止シ以テ事實上金本位ニ近ツキタリ大貌列顚ハ（銀本位ヲ繼續スル東印度ヲ除キ）千八百十六年以來金本位ヲ施行ス北米合衆國及デヲマルク、瑞典那威ハ千八百七十三年以來金本位ニ移レリ墺地利及露斯亞（フヒンラントヲ除キ）銀本位ヲ施行ス○（七十一）帝國憲法第四條第三項、一八七一年十二月四日ノ帝國金貨鑄造ニ關スル法律及一八七三年七月九日ノ貨幣條例○（七十二）獨逸帝國内金銀貨幣ノ現在高ハ千八百八十二年末ノ調査ニ依ルニ左ノ如シ

帝國金貨	拾七億七千五百萬「マルク」
外國金貨及地金	千五百萬「マルク」
帝國銀貨	四億四千貳百萬「マルク」
引上未濟ノ舊銀貨	四億貳千九百萬「マルク」（概算）
合計	貳拾六億六千百萬「マルク」

帝國金貨ノ内一部ハ外國ニ流出シタリ銀ノ賣却ハ千八百七十九年以來停止ス○（七十二）貨幣條例第一條及十四條、一八七五年九月二十二日ノ勅令、更正條規ハ貨幣條例第十五條乃至十七條並一八七四年四月二十日ノ法律及一八七六年一月六日ノ法律○（七十三）貨幣條例

第六條、七條、十條及十一條、人民ノ求メニ依リ鑄造スルコトハ第十二條、宇國ノ鑄造所ハ本書第四七條第二ノ一〇(七十四)貨幣條例第八條及十三條、今其條則ニ依レハ墺地利、洪牙利、荷蘭ノ「ギュルデン」銀貨ノ通用ハ之ヲ禁ス一八七四年一月二十二日及六月二十九日ノ告示、墺地利及デ子マルクニ於テ鑄造シタル銀貨及銅貨ハ一八七四年十二月十九日ノ告示、ブヒンラントノ銀貨ハ一八七四年十月ノ「ターレル」銀ハ一八七五年二月二十六日ノ告示、フランケン本位ノ銀貨及青銅貨ハ一八七五年九月二十一日ノ告示ニ依リ其通用ヲ禁シタリ之ニ反シテ獨逸及墺地利ノ壹「ターレル」銀貨ハ尚通用ヲ許ス○(七十五)一八七一年十二月四日ノ法律第一條乃至九條、貨幣條例第二條、貨幣ノ形狀ハ一八七四年七月五日ノ達○(七十六)一八七五年二月十七日ノ勅令○(七十七)貨幣條例第三條乃至五條及九條○(七十八)刑法第一四六條乃至一五二條、屆出義務ハ第一三九條、外國ニ於テ犯シタル罪ハ第四條第一項、金庫ノ處置ハ一八七六年五月二十日ノ達、裁判所ノ處置ハ治罪法第九二條○(七十九)刑法第三六〇條第四乃至第六

第七　交通

第一章　總論

第三百六十三條　交通トハ廣ク之ヲ解釋スルトキハ貨物ヲ甲ノ經濟ヨリ乙ノ經濟ニ移ス所ノ一切ノ運動ヲ言ヒ狹ク之ヲ解釋スルトキハ此運動ヲ爲サシムル方法順序ヲ言フ其廣キ解釋ハ工業商業及貨本ノ交通ニマテ及ホシ其狹キ解釋ハ唯タ水運、道路、鐵道、郵便、電信ノ五事ニ限ルノミ

交通事務ハ交通ニ關スル造營物ノ設立及其事業ヲ包括スルモノニシテ自ラ一派ノ營業ニ屬ス昔時政府ニ於テ此事業ヲ營ミタルトキハ之ヲ特有權(レガール)ト爲シタレ𪜈(二)近時政學ノ進歩スルニ從ヒ特有權ノ意義消滅シ一派ノ營業タル意義之ニ代ハレリ故ニ交通ニ關スル國家ノ事業ハ古今其旨趣ヲ異ニス又財政上收利ノ目的ハ全國經濟上ノ目的ニ由リテ排壓セラレ昔時ノ權利ハ一變シテ義務トナレリ此ニ於テ國家ハ古來ノ特有權ノ消滅後モ仍其交通事業ヲ掌握シ就中統一ノ管理ヲ必要トスル事業ニシテ巨大ノ資本ヲ卸スノ割合ニ利益寡キモノ及他ノ競爭ヲ許スヘカラサルモノ(郵便、電信、河川運河及道路築造)ヲ保有シ而シテ道路築造ハ主トシテ地方ノ利害ニ關スルノ故ヲ以テ之ヲ地方自治体ニ委任シタリ現ニ國家ノ經營スル交通事業ニシテ自由營業ニ屬スルモノハ唯一ノ水運事業ナルノミ鐵道ニ關シテハ官業民業ノ利害得失ニ付議論アリト雖モ其歸スル所ハ官業鐵道論勝ヲ制スルヤ疑ヲ容ルヘカラス運輸ハ公衆ノ福利ヲ進ムルニ最大効益ヲ爲スモノナレハ彼ノ土地收用權ハ主トシテ運輸事業ノ爲メ適用ス(三)凡ソ所有權ハ公共ノ利益ノ爲メ法律ニ依リ一般ノ制限及負擔ヲ受ルノ外ニ各個ノ場合ニ於テ公益ノ下ニ立タサルヘカラス然レ𪜈其場合ニ於テ所有主ハ完全ノ賠償ヲ受ク蓋シ公益ノ爲メ私權ヲ失ハシムルノ法ハ既ニ十

八世紀ニ於テ行ハレタリシカ其秩序整然タルニ至レルハ十九世紀就中鐵道ノ創設以來ニアリ宇國ニ於テ憲法ヲ以テ所有權ハ侵スヘカラス獨リ公益ノ爲メ豫メ賠償ヲ爲シ若クハ緊急ノ場合ニ於テ假定ノ賠償ヲ爲シタルトキニ限リ之ヲ收用スルコトヲ得ルトノ原則ヲ定メタリ(四)(五)土地收用法ハ土地及之ニ屬スル權利ノ收用ニ限局シ國家自ラ之ヲ施行シ又ハ國家ヨリ其權ヲ公會若クハ一私人ニ附與スルコトヲ得又土地ヲ收用スヘキ場合果シテ存スルヤ否ヤハ國王ノ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルニ反シテ三年ヲ超ヘサル制限ヲ土地ニ加フルトキ並事業準備ノ爲メ一時使用スルトキハ縣參事會ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム(六)企業者ノ負擔スヘキ賠償ハ收用スヘキ土地ノ全價格及收用ニ起因スル諸費用其他殘留スル土地ノ減損價格トス其殘留スル土地若シ當初ノ効用タケニ復利用スヘカラサルトキハ之ヲ併セテ收用セサルヘカラス建物ハ其全部ノ收用ヲ求ムルコトヲ得(七)又企業者ハ前記ノ賠償ヲ爲スノ外縣參事會ノ裁定ニ從ヒ必要トスル道路牆壁欄柵溝渠ヲ設置保存スルノ義務アリ(八)土地收用ニ關スル審判ハ行政官廳ニ於テ施行ス(九)但シ賠償額ノ確定ニ對シテハ雙方俱ニ六ケ月以内ニ裁判所ニ告訴スルコトヲ得爾後生來スル損害ニ關シテハ三ケ月以内ニ告訴スルコトヲ得(十)既ニ收用ヲ了ヘタル土地ハ企業者ノ所有ニ歸ス又支拂ヒタル賠償ハ土地ニ係ル權利ヲ併セテ償ヒタルモノトス(十一)

(原註)ニ河川、道路及郵便特有權本書第一三〇條〇二他ノ收用ノ場合ハ左ノ如シ

(甲)市府街路ノ開設、本書第二八〇條第三

(乙)軍用負擔、本書第一〇五條乃至一一〇條

(丙)大三角測量、本書第三三條第四

(丁)採擴、本書第三三六條乃至三三九條

(戊)農業改良、本書第三三六條乃至三三九條

甲乙ニ擧ケタル事件ハ本條ニ論スル土地收用規定ニ據ルモ丙丁戊ニ擧ケタル事件ハ別段ノ收用規定ニ依ラサルヲ得ス一八七四年六月十一日ノ土地收用法第五四條〇(三)普通法典總論第七三條乃至七五條及一ノ十二第四條乃至十一條始メテ土地收用ノ原則ヲ定メタルハ佛國千八百十年三月十日ノ法律トス〇(四)宇國憲法第九條〇(五)一八七四年六月十一日ノ土地收用法、ザイデル氏著註釋書(千八百八十二年伯林刊行)アリ〇(六)同上法第一條乃至六條、公共道路ノ築造及道路築造材料ノ採收ニ於ル簡便法ハ本書第三六九條第二、河川工ニ於ル簡便法ハ本書第三六四條鐵道布設ノ爲メニハ其線路及附屬用地ヲ收用法ニ依リ占得スルノ權ヲ附與ス收用法第二三條〇(七)收用法第七條乃至十三條〇(八)同上第十四條、權限法第一五〇條〇(九)一般ノ規定ハ收用法第三九條乃至四三條、設計ノ確定ハ第十五條乃至二二條、損害賠償ハ第二四條乃至三八條、權限法第一五〇條〇(十)收用法第三〇條乃至三一條〇(十一)同上第四四條乃至四九條前置權ハ本書第三三〇條

第二章　水運

第三百六十四條　(甲)水運ヲ分チテ海運及河運トス水運ニ關スル營造物中(十二)主要ナルモノハ海港、河港河川及運河ノ建築物ナリ海港及河港ハ其一部、市町村ノ設立ニ係ルモノアリト雖モ多クハ國家ノ設立ニ係レリ普通法典ハ之ヲ國有物ト認定シタリ(十三)海港ニ於テハ獨逸ノ各船舶皆同等ノ權利ヲ有ス海港ニ於テ船舶ヨリ徴収スル港稅ハ其港ノ設立費及維持費ヲ超過スルコトヲ得ス(十四)河川ノ建築物ハ現在ノ水流ニ從ヒ河川ヲ維持シ舟筏ヲ通セシムルノ用ヲ爲ス河川改良ノ業ハ既ニフリードリヒ大王ノ時ニ之ヲ始メ晩近十年間ニ於テハ更ニ之ヲ擴張セリ凡ソ河川ノ維持改良ノ爲メ土木ヲ起ストキハ國家ハ相當ノ賠償ヲ與ヘテ其土木ノ目的ニ必要ナル河岸地ヲ利用シ且ツ河岸地ニアル物揚場、纜繫及巖石ヲ除去スルノ權ヲ有ス官吏人民ヲ問ハス若シ濫リニ此等ノ物件ヲ除去シ又ハ土木ノ目的ニ違ヒテ之ヲ利用スル者アルトキハ處罰セラレサルヲ得ス河川建築ニ依テ生シタル埠頭ハ河岸地々主ニ屬スト雖モ土木竣功後其價格ヲ支拂ヒタル後ニアラサレハ之ヲ現有シ及利用スルヿヲ許サス(十五)河川建築官ハワヰクセル河、オーデル河(プレスラウ及シウエートニ間ニアル流域)エルベ河及ライン河ニ對シ各々一局ヲ設ケウエスファーレン州、シレージエン州、サツクセン州及ライン州ノ知事ニ隷屬ス(十六)運河(カナール)ハ貨物就中重量ノ大ナル貨物ヲ比例的廉價ニ運送スル

ノ用ニ供スル故ニ一時鐵道ノ爲メ壓排セラレタルノ狀況ナリシヿモ拘ラス尙其効用ヲ失亡セス晩年ニ於テ運河ニ注目スル者大ニ其數ヲ增シ隨テ運河ノ擴張、現在運河ノ深浚及之ニ瀠船ヲ通スヘキコトヲ計畫スルニ至レリ

水運河海港及河川警察ノ事務ハ地方自治機關ノ干涉ナク單ニ商務大臣、州知事及縣知事若クハ縣廳(十七)ニ於テ之ヲ司掌ス警察令發布ノ權モ亦同シ而シテ其機關トシテ特ニ水運官及港務官ヲ置ク(十八)

(原註)(十二)歲貢銀行チシテ水運事業ヲ奬勵セシムルコトハ本書第三三五條第二、並治水組合ニ因ル奬勵ハ本書第三三六條第三ヲ見ヨ堤防、海岸及河岸ノ保護ハ刑法第三六六甲○(十三)普典第二ノ十五第八○條○(十四)帝國憲法第五四條第三項及五項、港稅及往復稅(道路稅ヲ除ク)ノ許可及確定ハ大臣ノ權ニ屬ス一八八二年九月四日ノ勅令、一八八二年十二月十八日及一八八三年五月三十一日ノ達、水先案内手數料ニ在テモ亦同シ一八八三年八月二十七日ノ勅令○(十五)一八八三年八月二十日ノ法律及一八八四年五月三十一日ノ法律、一八八三年九月七日ノ實施規則、河岸工ノ負擔(普典第二ノ十五第六三條及七九條)ハ之カ爲メ變更スルコトナシ)河川ニ關スル權利義務ノ一般ハ本書第三三六條第二○(十六)在ダンチーワヰクセル河建築官ハ一八八四年三月七日ノ規則、在ブレスラウ、オーデル河建築官ハ一八七九年六月十四日ノ規則、在マグデブルヒ、エルベ河建築官ハ一八七六年十二月二十日ノ告示、在コーブレンツ、ライン河建築官ハ一八五○年十月二十四日ノ規則○(十七)地方行政

法第一三六條第二項、第一三八條、一四五條第二、一八七二年十二月十三日ノ郡制第五九條第二及權限法第九五條第一項)沿水視察官ニ委任シ得ルコトハ一八八四年三月十二日ノ達○十八港内警察委員ハメーメル府外五ヶ所ニアリ其他スウ井ン子河口ニハ水運官アリ又エムデン港外三ヶ港ニハ港務官アリキヨルン府ニハ水運委員アリ」水運河海港及河川ノ警察官ハ町村警察官ニアラス一八八二年五月十一日ノ高等行政裁判所判決

第三百六十五條　(乙)航海事業(十九)獨逸ノ商船ハ之ヲ統合シテ唯一ノ規律ヲ以テ支配セラルヘキ商船隊(二十)ヲ爲シ其旗章ニ依リ海上ニ於テ帝國ヨリ同一ノ保護ヲ受ク(二十一)其旗章ハ黒白紅色ニシテ(二十二)船舶ノ本國ヲ表示スル者ナリ而シテ船舶ノ持主獨逸人ニシテ區裁判所ノ司掌スル公ケノ船舶簿ニ登錄セラレタルモノハ其旗章ヲ使用スルノ權ヲ生ス其他船舶證書モ亦獨逸商船タルヲ證明ス(二十三)外國ニ於ル船舶交通ヲ安全ナラシムル爲メ列國互助ノ主意ニ依リ航海條約ヲ締結シタリ(二十四)國權ハ海洋ニ達セス唯タ海岸ヲ距ルコト三海里マテ並海灣ニ在テハ十海里ノ灣口マテヲ近海トナシテ此ニ國權ヲ及ホスコトヲ得ルノミ近海ノ運輸ハ獨逸商船ノ專有ニ歸セシメ外國ノ商船ニ許サス但シ特別ノ條約又ハ勅令ニ依リ特ニ外國商船ニ之ヲ許スコトアリ(二十五)其他諸强國、ザルデニエン及土耳其ノ條約ニ依リ戰時海上法ヲ定メ搶掠船ヲ禁シ且ツ戰時密商船ヲ除ク外、局外中立ノ國旗ヲ揚ケタル艦船敵旗ノ下ニ

在ル局外物件ヲ差押フルコトナク並封港ノ實行ニ對シテ責任ヲ有スルコト、ナシタリ(二十六)戰時ニ爲シタル掠獲物ノ當否ハ勅令ニ依リ特ニ設置スヘキ掠獲物裁判所ニ於テ裁定ス(二十七)

海上法ハ商法中海商ノ章條ニ於テ之ヲ規定シタリ(二十八)即チ航海船(二十九)船舶持主、船舶持主相互ノ間並第三者ニ對スル權利義務(三十)(三十一)及船長ノ權利義務(三十二)ハ海上法ノ規定スル所タリ又貨物旅客ノ運輸(三十三)(三十四)船舶質人(一)定ノ條件ヲ以テ船長ヨリ船舶及其積荷ヲ抵當トシテ資金ヲ借入スル事)(三十五)海損(難波ノ時船舶及積荷ヲ救護スルカ爲メ之ニ加ヘタル損害)(三十六)難波ノ時ノ救護及援助ニ對スル報酬(三十七)船舶債主ノ權利(三十八)海上保險(三十九)モ海上法ノ規定スル所タリ總テ海上法ニ係ル期滿効ハ迅速ノ落着ヲ要スル爲メ其年月ヲ短クス(四十)。

航海ハ特別ノ危險アル爲メ之ニ對スル保護ハ通常ノ罰則(四十一)ヲ以テスルノ外ニ許多ノ特別制規ヲ以テス此事ニ關シテ意見ヲ提出セシムル爲メ帝國内務省ニ隷屬スル航海技術委員ヲ設置ス又海軍省ニ屬スル在ハムフルヒ獨逸觀象臺ハ航海ノ爲メ海路及氣象ヲ觀測ス(四十二)其他航海ノ安全ヲ保スルカ爲メニ設置スル航海標表(燈臺礁標、浮標等)ニ關シテ帝國法律ノ規定アリ(四十三)往時ノ制規ニ於テ船舶ノポムメルン州及東西孛漏生州ノ諸港ニ入ルニ當リ水先案内者ヲ雇使スヘキ義務ハ現今ハ警察

令ノ特ニ示定シタル二三ノ場合ニ制限スルコト、ナレリ(四十四)海上ニ於ル船舶ノ衝突ヲ豫防スル爲メ點火響報及回避ニ關スル規則アリ(四十五)衝突ノ際ニハ雙方相援助スヘキ義務アリ(四十六)成規ノ難船相圖及水先案内相圖ヲ爲スヘキハ船舶難波ノ危險ニ迫ルトキ若クハ水先案内者ヲ求ムルトキニ限ルトス(四十七)海上災難ノ原因ハ帝國政府ノ監督下ニ立テル商船官ニ於テ口頭公開ノ審判ヲ爲シテ之ヲ確定ス其目的ハ主トシテ同一ノ災害ノ反覆ヲ豫防スルニアリ之カ爲メ商船官ハ其災難ニ關シ有罪ト認メタル船長、按針士及機關士ヲ無資格ノ者トシテ其職業ヲ差止ムルノ權ヲ有ス此處分ニ服セサル者ハ在伯林上等商船官ニ訴願スルコトヲ得(四十八)船舶ノ漂着ニ關シテ商法ハ單ニ積荷及乘客ノ救助ヲ求ムル權利ヲ規定シタル而已(三十七)之ニ反シテ乘客積荷ノ救助ニ關シテ船舶漂着事務官ノ前ニ於テスル特別ノ審判ニハ詳細ノ規定アリ其事務官ハ主トシテ漂着物ヲ管理シ其物ヲ正當ノ受領者ニ送付スヘキ責任ヲ負ヘリ而シテ本來ノ救助事務ハ該官ニ隷屬スル救助丁ノ職務トス(四十九)國又ハ沿岸住民カ漂着物ニ對シテ特別ノ請求權ヲ有スル制規ハ既ニ廢止セラレタリ(五十)其他航海業ノ安全ヲ保スル爲メ船舶積載量ハ船舶檢定ニ依リテ之ヲ確定シ積載證書ニ依リテ之ヲ証明セシム(五十一)海洋漁船ノ船長、按針士並水先案内者ハ縣知事ノ付與スル合格證書ヲ有セサルヘカラス而シテ其證書ヲ得ント欲スル者ハ商船學校及商

船豫備校ニ於テ修學スルヲ要ス又商船學校ト連合スル大航海及小航海試驗委員ノ設置アリ(五十二)

獨逸商船ニ於ル船員ノ權利義務ニ關シテハ一般ノ規定アリ(五十三)船員ニ關スル事務ハ船員事務官ニ於テ司掌ス(五十四)其事務官ハ船員ノ登錄スヘキ航海簿ヲ下付シ船員ト船長トノ間ニ於テ締結スル雇入解雇ノ契約ヲ公證シ(五十五)兩者ノ間ニ起ル爭論ヲ調停シ且ツ控訴ヲ許シテ裁定シ(五十六)船員ノ違警罪ヲ審問シ假リニ之ヲ處罰スルノ權ヲ有ス(五十七)船長ト船員トノ契約ハ一種特別ノモノトシテ他ノ規定ニ依ル(五十八)船員ハ船長ノ懲戒權ニ服セサルヘカラス(五十九)外國ニ在ル獨逸ノ船員ニシテ窮困ノ地位ニ立ツ者ハ船員事務官ニ於テ歸國ノ獨逸商船ニ命シ之ヲ本國ニ回送セサルヘカラス但シ其商船ハ相當ノ賠償ヲ受ク(六十)船長ハ外國ニ於テ領事ニ着船届ヲ爲サヽルヘカラス(六十一)又海豹獵ヲ爲ス船舶ハ其獵ノ禁制期限ヲ確守セサルヘカラス(六十二)

第三百六十六條　(丙)河運事業ハ諸國ノ共用スル水路ニ舟筏ヲ通スル事及河稅其他ノ水運稅ニ關スルトキハ帝國法律ニ依リ規定スヘキコト、ナレリ河稅ハ舟筏ヲ通スヘキ河川ニ在ル舟筏ヨリ唯其河川ノ利用ニ對シテ徵收スヘク且ツ普通ノ營造費及維持費ヲ超過スヘカラス(六十三)「ライン」河及「エルベ」河ノ通行稅(六十四)及筏稅(六十五)ハ現今全ク廢止セリ